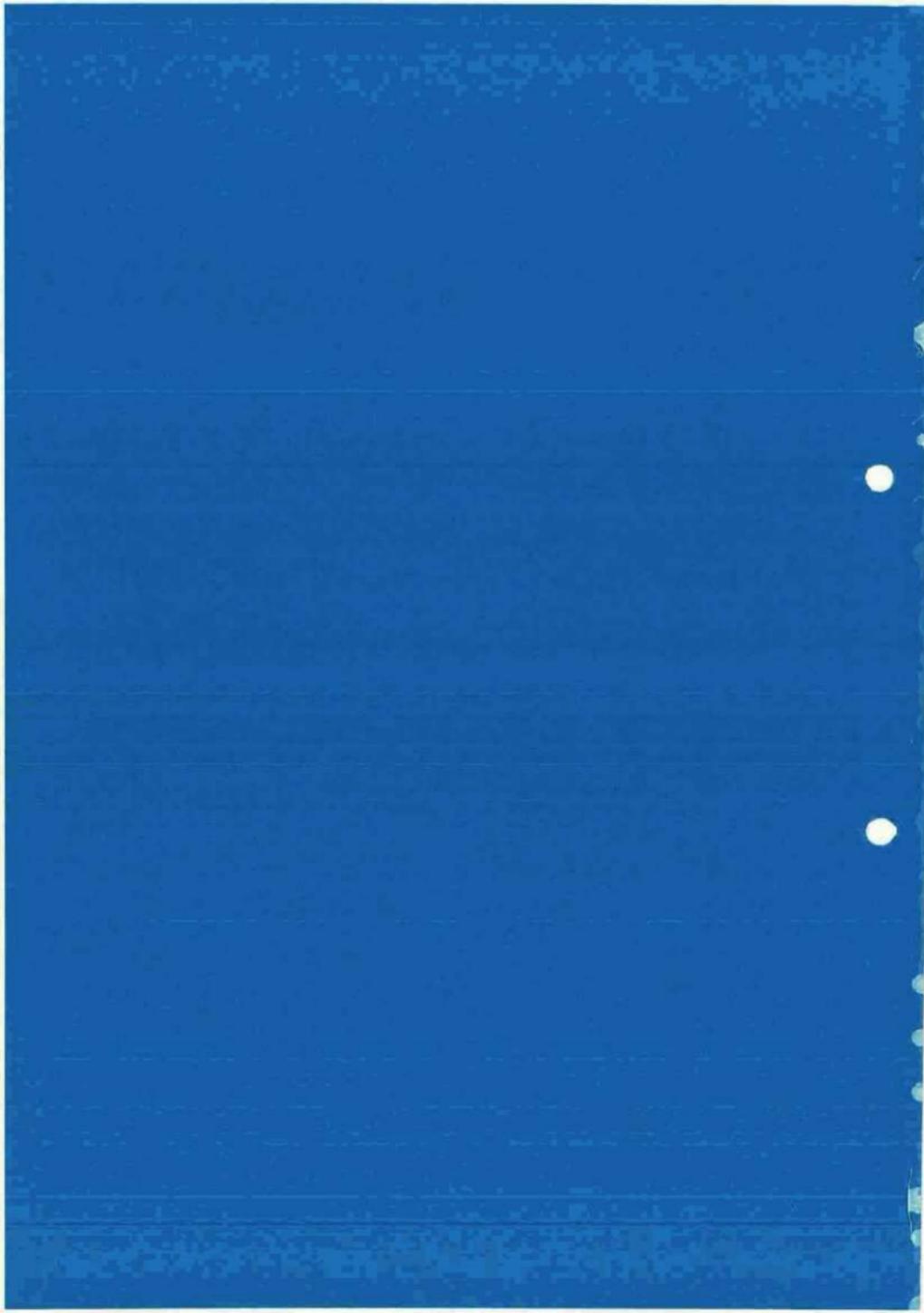


年報 第41集

平成22年度文化財調査報告書



前橋市教育委員会



はじめに

3月11日の東日本大震災では、数多くの文化財が被害を受けました。国の指定重要文化財や登録文化財だけでも600件近い被災があり、さらに県や市町村の指定文化財などを含めるとその被害は計り知れません。1日も早い復旧、復興を願つてやみません。

文化財はかけがえのない貴重な国民の財産であり、その保存と活用は、文化財保護行政の要であります。これまで、ややもすると保護・保存に重きを置いてきた傾向がありますが、今後もさらに活用に力を入れることが求められており、活用の第一歩は、文化財を知ることであり、親しむことだと考えております。

このような時代のニーズにあわせて、文化財の活用を進めるため、整備された史跡等を活用した大室古墳群公開・普及イベントや市民プロジェクトによる須恵器作成、市内にある文化財を訪問する文化財探訪、山王廃寺発掘現場の様子を見てもらう現地説明会などを実施しました。いずれも好評を博し、多くの参加者や見学者が来られ文化財に親しむ良い機会となりました。これからも、様々な創意工夫を凝らし、文化財の活用の在り方を模索し、その実践に結びつけられるよう努力していきたいと考えております。

本書は、平成22年度の文化財保護の事業概要、埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたもので、この報告書が皆様方の文化財に対する理解を深め、より一層の保存・活用にむけての契機となれば幸いです。

最後に、本市の文化財保護行政を進めるにあたり、ご指導御協力いただいた関係各位、並びに諸機関に心から御礼申し上げます。

前橋市教育委員会

教育長 佐藤博之

目 次

はじめに

第1章 文化財調査委員による調査

1 建造物調査	1
2 樹木調査	2
3 市内文化財調査	5
4 市指定文化財検討会議	5
5 県外視察調査	7

第2章 新指定文化財及び国登録有形文化財の現状変更

1 新指定文化財大庭公園のコナラ	8
2 国登録有形文化財「旧麻屋呉服店舗」の現状変更	9

第3章 文化財保護事業

1 保護管理運営事業	10
2 整備事業	16
3 普及事業	19
4 埋蔵文化財発掘調査事業	27
5 市内遺跡発掘調査事業	76
6 遺跡台帳整備事業	76
7 埋蔵文化財資料整備事業	77
8 山王庵寺等保存整備事業	77
9 埋蔵文化財発掘調査団の解散について	79

あとがき

第1章 文化財調査委員による調査

1 建造物調査

平成22年10月2日（土）に下記の6物件について調査を実施した。

（1）赤城神社惣門（県重文）

所在地 三夜沢町114

指定年月日 昭和53年8月25日



本物件の調査は、惣門基礎の土間コン部分からの雨水の跳ね返りが、惣門の柱根本部分にあたり腐食がかなり進んでおり、将来的に補助事業による修理を申請する予定である事と、所有者側からも修理に向けて指導・助言を受けたい旨の依頼を受け実施した。

調査結果、次のことが示された。現況では、土間コンからの跳ね返りの雨水が、柱礎石と柱の間にたまり、毛細管現象で吸い上げてしまつて腐食が進んでいる状況であるが倒壊の心配はないとのことであった。

今後、柱の修理を行うならば、根本の部分に防腐・防水処理を行う必要がある。処理の方法としては、いくつかあるが、脚を鋼板で包むか、あるいはアクリル板の屋根をつけるなどして防水処理をするのも一つである。また、礎石（柱の）を柱と同寸あるいは少し小さくすることで、柱についた水分を落とす方法もある。現状では柱よりも大きい礎石になつてるので周辺の水を柱の方へ呼び込んでいる状況になっている。言い換えれば、雨が降れば、水に浸かっている状態である。よってこのような対策を探ることで改善されるであろうことが調査結果として示された。

本物件については、今後、所有者と業者で仕様について再確認を行い、市教委と連携しながら、進めていく事となった。

（2）歌舞伎舞台（市重文）

所在地 三夜沢町114

指定年月日 昭和54年4月1日



本物件についての調査は、前橋市として初めてのものである。建造物分野の村田委員による現況確認調査及び専門的な見地から判断される現時点での評価、扱いについて所有者へ説明を行った。調査結果として、「歌舞伎舞台」としての建造物は、おそらく前橋では唯一であるとの事であった。しかしながら建造された時期的な事については、江戸時代の建物になると「カラクサ」が入ってくるが、この建物にはカラクサが見られない。神社内にある「諏訪神社由緒記（石碑）」に明治二年とあるが、資料としては「○

〇による」というのが必要になってくる。(例えば明治二年の根拠付けとして 文書は勿論のこと「棟札」などが重要)。今後、その辺りを整理していくことで、より価値が出てくると思われる。また、建物(歌舞伎舞台等)の価値は、ここで何を演じられていたかが重要であり、よって有形民俗資料が重要となるとの見解が所有者に伝えられた。

本物件についても、新たな、資料が出てきた段階で、再調査等を行うこととなった。

(3) 産泰神社(県重文)

所在地 下大屋町 569番地

指定年月日 平成6年3月25日



本物件の調査は、所有者からの依頼により実施された。境内の玉垣等の修理及び整備に向けての調査依頼であった。調査の結果、玉垣部分のヒビは特に問題なく、笠木部分およびオキ(土台)部分の整備業者に相談し、危険と思われるところに焦点をしぼる必要があるとのことであった。また、ギボン高欄のぐらつきについても、基礎部分(根本)にモルタルを入れるなどして補強することで充分であり、特に緊急性はないという見解であった。今後、修理の方向が決まり次第、市教委へ連絡をということとなった。

(4) 旧アメリカンボード宣教師館(県重文)

所在地 小屋原町 1120番地5 共愛学園

指定年月日 昭和53年10月13日

平成22年度 県費負担補助終了に伴う工事完了確認調査を行った。

(5) 鎌江閣本館(県重文)

所在地 大手町三丁目15

指定年月日 昭和61年3月7日

平成22年度実施予定の県費補助事業における修理実施箇所の確認調査を行った。

(6) 上野總社神社本殿(東側壁面等)(県重文)

所在地 元總社町一丁目31番地45

指定年月日 昭和38年9月4日

平成22年度実施予定の県費補助事業における修理実施箇所の確認調査を行った。

2 樹木調査

平成22年11月9日(火)に下記の4物件について調査を実施した。横室の大カヤについては昨年度の調査で樹勢の衰えが見られたので引き続き経過の観察として調査を実施した。井出上神社のシイについては、昨年度末の雪害による毀損が報告されているので、その後の状況確認として調査を実施した。

(1) 横室の大カヤ(国指定天然記念物)

所在地 富士見町横室1023番地1

指定年月日 昭和8年4月13日(国指定天然記念物)

旧富士見村 目通り周計測値
約 7.3m (指定台帳)
約 8.2m (旧富士見村パンフレット)



支柱の様子

調査

ア 大きさ

幹周 853cm (根上がりの上 832cm)

樹高 21.5m、根周り 20.3m

枝張り 東西 27.65m・南北 24.00m

イ 現状

昨年(平成 21 年 10 月 8 日)の調査と同様に、幹は地上約 2m から 6 本に分かれて枝を広げており、中心部の先端は枯れて金属板の覆いが被せてある。また幹の中心部は洞が出来ているようである。

所有者によれば今年は実が多く付いたとのことで、樹の下には種皮がはがれた数多くの種子が落ちていた。無作為に拾った実 78 個の長さは 1.2~2.5cm で平均 2.0cm、幅は 0.4~1.2cm で平均 1.1cm であった。

昨年は実りが悪くて落葉した種子は少なく長さは約 2.0cm、幅約 1.0cm であり、今年の大きさとほぼ同じであった。しかし所有者が保存していた 2 年前(2008 年)の種子は長さが約 3cm、幅は約 1.5cm であり、明らかな違いが認められた。昨年(2009 年)から急に種子が小さくなったとのことで、樹勢の衰えによるとすれば早急な対策が必要であろう。

中心部の幹は先端部が枯れておりそこに被せられた金属板もややずれているようなので、予定されている樹勢回復工事の時に確認方が良い。また 2ヶ所に枝を支える支柱があり、その 1ヶ所は枝との連結部分を固定する綱が切れて下がっているので補修が必要である。

(2) 敷島小学校のカイノキ (未指定)

所在地 昭和町一丁目 22 番 8 号 (前橋市立敷島小学校校庭)

指定年月日 未指定

調査

ア 大きさ

幹周 147cm (115cm + .32cm)、樹高 10.5m、根周り 3.5m

枝張り 東西 10.9m、南北 10.9m

イ 分類上の位置と自生地

分類上の位置: ウルシ科 ウルシ属、 自生地: 東アジアの暖地帯

ウ 現状

校舎南側に植え込みがあり、植え込みの前に舗装された約 2m の通路がある。この舗装通路と校庭の間にも幅 292cm の植え込み場所があつて、そこにカイノキが植えられている。

地面から大小の 2 本に分かれ、太い幹は高さ 1.5m で 2 本に分かれている。樹勢は旺盛で葉数が多く、根は校庭の土の中に伸ばしているとみられる。先端部と下部の葉には狭い範囲でアメリカシロヒトリと思われる巢と食痕があった。

この木は 22 年前の昭和 63 (1988) 年 2 月 23 日に、敷島小学校の卒業生が記念樹として寄贈・植樹されたものであるという。

カイノキは孔子廟に植えられていた「学問の木」としても知られ、栃木県の足利学校や埼玉大学の構内にもあるという。県内の植栽地は不明であるが、ごく少な

いものと思われる。

(参考) カイノキの異名

カイジュ、トネバハゼ、ランシンボク、ナンバンハゼ、クシノキ(孔子の木)



カイノキ全景



カイノキの葉の様子

(3) 大室公園のコナラ (未指定)

今年度の市指定天然記念物への指定に向けた基礎資料の収集を行った。

(4) 井出上神社のシイ (市指定天然記念物)

所在地 飯出井町甲1 井出上神社

指定年月日 平成 12年 4月 12日 (市指定天然記念物)

記録 (過年度の調査の際の記録)

① 平成 12年 4月 14日

目通り周 3.6m、樹高 16.0m。地上 2.5m 付近で枝分かれし、1本は西へほどんど水平に約 7m 伸びている。主幹は地上 10m 付近で折れ、その脇から新しい主幹が垂直に立っている。

② 平成 19年 9月 12日

幹周 377cm、樹高 14.0m、根回り 10.8m、根回り東西 20.4m・南北 14.4m。西へ水平に伸びた枝の長さは 16.4m で、途中に支柱がある。地上約 3m 南側に枝が折れて出来た瘤みがある。9月 6日の台風で枝が折れた。下の枝葉が茂り石造物に接触している。

調査

ア 大きさ 幹周 375cm、樹高 13.5m、根回り 21.13m
枝張り 東西 19. 25m・南北 14.40m

イ 現状

平成 22年 3月 19日の降雪によって、主幹から西北に伸びていた枝が折れた。雪折れした枝の付け根部には大きなキノコ(サルノコシカケ類)が 2 個見られたので、以前から枯れて腐りが入っており、折れやすくなっていたものと思われる。したがって、このまま放置すると樹木の中心部分も腐りが進み、主幹の材が朽ちて「洞」の状態になる可能性がある。早急にこの部分を検査してしかるべき処置を施す必要がある。

常緑広葉樹は葉の量が著しく多くて重いため、独立した株では雪害を受けやすい。自生地では常緑樹は密生して互いに接触しているために支えあって、雪などの重みに耐えられる傾向がある。

井出上神社のシイは「スダジイ」という種で本州中部以南の温暖な地域に自生する。境内西側に築かれた月見台と呼ばれる丘を中心にして数多くのスダジイの実生があり、樹高 10m に達する株も複数あるので、このままの状態にあればスダジイが優占する常緑広葉樹林となるであろう。

天然記念物スダジイに接して境内寄りに樹高約 10m のクスノキがあり、生長の早いこのクスノキと競合する可能性がある。



シイの折損部の様子



枝折れ部に生えたキノコの様子

3 市内文化財調査

平成22年12月10日（金）、以下の物件について調査を実施した。

○飯玉神社太々神楽（未指定）

今回は聞き取り調査及び道具類の現況確認調査を中心に調査を実施した。明治29年ごろ、産泰神社より伝承されたといわれているが、口伝によって伝承されているので、それを示す資料が極めて少ない状況であった。

芸能の特色として、「種蒔の舞」が他の神楽（伝承元の産泰神社でも）では見られないものであるとあったが、伝承過程で多少の違いはあるものであり、市内の他の神楽にも見られるものであった。

本物件についても、新たな資料が出てきた段階で、再度調査を行うこととなった。



4 市指定文化財検討会議

平成16年12月の合併により引き継いだ大胡・宮城・粕川地区の市指定文化財について、平成17年度に文化財保護課職員による管理状況調査、平成18年度・19年度に前橋市文化財調査委員による現地調査を実施してきた。3ヶ年にわたる調査の結果、疑問点や不明な点が生じ、指定に携わった旧町村の文化財調査委員に直接確認を行った方がよいと思われる事項について、平成20年9月及び11月、平成21年11月までに前橋市文化財調査委員と旧3町村の文化財調査委員による意見交換・協議を3回実施してきた。その意見交換及・協議の中においても指定種別の錯誤があることや物件名称の表記の仕方についても、旧5市町村間で統一がとれていないため、個別に特定しづらいことが確認された。これを受け、過去の調査及び意見交換・協議の結果を踏まえ、最終的な整理を行う為の中間報告と調整をこの会議で行った。会議により種別及び名称の修正整理が行われることになった物

件は、以下の一覧表の通りである。

指定文化財種別表記及び名称表記等整理一覧表

No.	種別	名称	所在地	整理後	
				種別	名称
1	国文77	五十石塚師知来、十二神符	猪越町196-1	有民7	施下(はりしもの)の仏像群
2	国文79	板碑	島毛石町196	—	島毛石一本木(いっぽぎ)の板碑群
3	国文80	丸山の碑	猪越町226-2	—	抱丸丸山上野南瀬の碑
4	国文81	赤城寺六地蔵の石燈	島毛石町147 赤城寺	—	赤城寺の石燈
5	国文82	忠治の赤城塔	前ヶ島町2036	—	宿の平の宝塔(忠治の赤城塔)
6	国文83	小林の赤城塔	前ヶ島町599	—	前ヶ島小林の石造物群(小林の赤城塔)
7	国文84	世良田薬師の阿弥陀仏像	大前田町542-1	—	大前田世良田薬師の石造阿弥陀如来坐像
8	国文85	金剛寺の六地蔵の石燈	前ヶ島町1144 金剛寺	—	金剛寺の石燈
9	国文88	及辻道祖神	前ヶ島町1147-2 金剛寺	有民8	金剛寺の及辻道祖神
10	国文90	爪ひし不動尊	島毛石町329-1	有民9	島毛石の経納不動尊像(爪ひし不動尊)
11	国文91	赤城塔	島毛石町63	—	島毛石の宝塔(赤城塔)
12	国文92	五輪塔	島毛石町201-31	有民10	島毛石天神の五輪塔
13	国文93	葛灰岩石仏	島毛石町566-1	—	島毛石鎌田の石造阿弥陀如来坐像
14	国文94	板碑石塔群	抱倉町582	—	地主の板碑群
15	国文95	葛灰岩石仏	抱倉町1428	—	京昌寺石造阿弥陀如来坐像
16	国文96	葛灰岩石仏・石殿	抱倉町1940	—	抱倉六本木家墓地の石造物群
17	国文97	五輪塔	三夜沢町19	—	三夜沢の五輪塔群
18	国文99	石殿	三夜沢町191	—	三夜沢の石殿
19	国文100	赤城塔	三夜沢町114 赤城神社	—	三夜沢赤城神社の宝塔(赤城塔)
20	国文104	石仏(石合巣鈔)	前ヶ島町803	有民11	前ヶ島石合巣鈔の石段(石合巣鈔)
21	国文106	石仏(山街道裏御)	前ヶ島町631-1	有民12	山街道の薬師如来坐像(山街道裏御)
22	国文108	五輪塔	前ヶ島町501	有民13	前ヶ島石合の石造物群
23	国文109	道祖神	抱倉町1251-2	有民14	抱倉の双体道祖神
24	国文109	石殿	前ヶ島町1069-1 苗島神社	—	前ヶ島西原の石殿
25	国文111	馬頭観音世音	馬場町29-1 鶴神社	有民15	馬場の石造馬頭観音世音立像
26	国文113	板碑・葛灰岩石仏	馬場町155-1	—	馬場の石造物群
27	国文114	石殿	馬場町402-8	—	馬場古麗敷の石造物群
28	国文115	葛灰岩石仏	馬場町409-5	—	三夜沢馬場の石造物群
29	国文116	板碑	三夜沢町107-1	—	三夜沢馬場田家の板碑
30	国文117	十一面觀音木像	前ヶ島町1147-2 金剛寺	—	金剛寺木造十一面觀音木像
31	国文119	舟形鉢蓋經瓶	前ヶ島町2034 三夜沢町118	—	赤城山東山舟形鉢蓋經瓶
32	国文20	宮城院冕頭	市之町町665 住吉神社	—	市之町住吉神社冕頭(宮城院冕頭)
33	国文21	吹奏伎舞台	抱倉町1023-1 鶴神社	有民16	抱倉鶴神社の吹奏伎舞台
34	国文23	阿弥陀佛像	抱倉町5956	—	抱倉の阿彌陀如來坐像
35	国文24	板碑	三夜沢町104	—	三夜沢村下家の板碑
36	国文25	駄仏	前ヶ島町1147-2 金剛寺	—	金剛寺の駄仏
37	国文26	金剛寺摩訶羅	前ヶ島町1147-2 金剛寺	—	金剛寺木堂の摩訶羅影刻
38	国文27	島毛石河原の石造地蔵菩薩立像	島毛石町557-1	—	島毛石竹内の石造地蔵菩薩立像
39	国文28	島毛石河原の双体道祖神	島毛石町557-1	有民17	島毛石竹内の双体道祖神
40	国文29	葛灰岩石佛	大前田町1380-1	有民18	大前田西原の石造物群(葛灰岩石佛)
41	国文31	大前田地蔵菩薩石像	大前田町1738-1	有民19	大前田久保の石造地蔵菩薩立像
42	国文39	三ケ尻赤城塔	抱川町深瀬94	—	三ケ尻の宝塔(赤城塔)
43	国文40	馬頭観音石像	抱川町福島481-1	—	福里の石造馬頭観音世音立像
44	国文40	坐しべ	大前田80	有民20	大前田の坐しらべ
45	国文21	道しらべ	河原町730	有民21	河原原の道しらべ
46	国文22	牧野家墓石	前ヶ島町1259 箕輪寺	—	牧野家墓石
47	国文23	大胡太郎の墓石	前ヶ島町1240 長壽寺	国文149	伝 大胡太郎の墓石
48	国文25	電柱石燈籠	茂木町25 電性寺	国文150	電性寺の石燈籠
49	国文26	越坂共同墓地の石燈	前ヶ島町2122	国文151	—
50	国文27	高沼家墓地の石燈	上大屋町133	国文152	—
51	国文28	吉藤多須久翁の翁	前ヶ島町1061	国文153	—
52	国文29	北爪町御の執事場	島毛石町147 赤城寺	国文154	—
53	国文30	快楽鏡	市之町町467-1	有民22	市之町の快楽鏡群
54	国文32	馬頭観音の塔	馬場町57-1	有民23	馬場の馬頭観音の塔
55	国文38	下田中石宮(稻荷神)	前ヶ島町541-2	有民24	前ヶ島下田中の稻荷宮(稻荷神)
56	国文44	奥懸	抱倉町502	有民25	赤城神社御供神の奥懸
57	国文49	抱川田(深瀬井)跡	抱川町深瀬1357-2他	—	深瀬抱川城跡(深瀬井)
58	無形2	太々神樂の舞	河原町739 大前神社	国民17	大前神社太々神樂
59	無形2	太々神樂の舞	大前神社	—	赤城神社太々神樂
60	天8	御神林	河原町143	—	赤城神社御神林
61	無形1	鶴社神社太々神樂	元祝社町1-7 日31-45 鶴社神社	国民9	—
62	無形2	野鳥大崩子舞	清野町348 八幡宮	国民10	—
63	無形3	度慶神社太々神樂	下大屋町569 度慶神社	国民11	—
64	無形4	片貝神社太々神樂	東片貝町466-1 片貝神社	国民12	—
65	無形5	鬼尻の躬子舞	鬼尻町44 鬼尻神社	国民13	—
66	無形6	春日神社太々神樂	上佐野町268 春日神社	国民14	—
67	無形7	御野藤前	鬼尻町358 鬼尻町公民館	国民15	—
68	無形8	袖野稻荷神社太々神樂	鶴社町猪屋1039-1 一休稲荷神社	国民16	—
69	無形9	附面四点 衣装三点	—	赤城神社三番叟人形一括	—
70	無形10	三夜沢赤城神社太々神樂	三夜沢町114 三夜沢赤城神社	国民18	—
71	無形11	大前田御防空神社の船子舞	大前田町818 鶴神社	国民19	—
72	無形12	古屋敷敷古墳	馬場町458	史跡59	—

5 県外視察調査

平成22年12月21日（火）に「栃木県足利市」において足利市教育委員会のご協力のもと実施した。調査地、内容は以下の通り。

調査地 栃木県足利市

調査内容

- ①史跡桜崎寺跡（調査の進捗状況及び整備事業全般について）
- ②史跡足利学校（史跡整備後の利活用の状況と建物等維持管理について）
- ③「歴史文化基本構想」（足利市教委が取り組んでいる文化財保護をサポートしていく人材育成・確保への取り組みについて）



史跡桜崎寺跡



史跡足利学校

第2章 新指定文化財及び国登録有形文化財の現状変更

1 新指定文化財 大室公園のコナラ



指定年月日 平成23年3月29日
所在地 前橋市西大室町2142番地 (大室公園 後二子古墳西)
所有者及び管理者 前橋市
概要

このコナラは小二子古墳の南側で後二子古墳の西にある。コナラ、クヌギやムクノキからなる小さな林の南端に位置し、この株の南側は開けた草原になっている。

幹周 610cm (252+215+143cm)、樹高 21.5m、根周り 8.82m、枝張り、東西 25.7m、南北 24.5m であり、株は地上から 0.9m で 3 本に分かれ、中央の主幹は地上から 2.7m で 2 本に分かれている。虫害の痕跡もなく樹勢は旺盛で葉の数・量ともに多く、成長を続いているものとみられる。この測定結果は本県の記録からみて、県内では幹周の最も大きなコナラに属すると思われる。コナラが、今まで存続できたのは、大室古墳群内にあって伐採を免れてきたためであろう。

この規模のコナラは小二子古墳の周辺や大室古墳群の中に数多く存在しており、大室公園はこの面でも貴重な場所であると考えられる。

なお、大室公園は流れ山の存在と貴重な草木も含む平地林として、古墳群とともに保護されるべき存在である。

【大室公園のコナラのデータ】

幹周 610cm (252+215+143cm)
樹高 21.5m、根周り 8.82m
枝張り 東西 25.7m、南北 24.5m

【指定理由】

通常は薪炭材にされてしまう事が多いが、これほど大きくなるまで残っている事は珍しく、平地林として価値が高い。また、本市のみならず、県内でも幹周の最も大きなコナラに属し、全国的に見て、上位に位置する巨樹である。虫害の痕跡もなく樹勢は旺盛で葉の数・量ともに多く、成長を続けており、前橋市の自然を記念するものとして学術上貴重な存在である。

2 国登録有形文化財「旧麻屋呉服店店舗」の現状変更

区分	国有形登録文化財（建造物）
登録年月日	平成19年5月15日
所在地	前橋市千代田町二丁目8番19号
所有者及び管理者	株式会社 麻屋 代表取締役 手塚道雄

（1）登録の経緯

平成18年 4月12日	所有者から登録手続申請
7月25日	県への進達
12月 8日	文化庁文化審議会で登録の答申
平成19年 5月15日	登録原簿記載

（2）今回の手続きに至る経過

平成22年 8月19日	所有者から建物を解体して売却したいという申出書が提出される。
24日	県へ説明、協議
30日	文化庁への経過報告、協議（第一回）
9月 9日	市文化財保護課、所有者と面談、意志の確認
10日	県へ報告（所有者の意思確認）
10月19日	県へ報告（内部検討結果等の経過報告）
21日	県・市文化財保護課、所有者と面談、意志の確認
25日	文化庁への経過報告、協議（第二回）
26日	所有者から現状変更（解体）届出書が提出される。
28日	県への進達
11月24日	現状変更（解体）届出の受理書が送付される。
12月 7日	建物の調査（図面・写真）
10日	文化財調査委員会にて経過報告
16日	建造物担当市文化財調査委員（臨時）に報告

（3）現状変更工事に係る経過

平成23年 1月17日	現状変更工事開始。（～3月14日完了）
3月23日	所有者から現状変更完了報告が提出される。
24日	県へ現状変更完了報告を進達

現状変更工事完了後「現状変更等の完了報告書」を提出し、9月の文化審議会に諮問され答申された後、即日告示して登録原簿から抹消される予定である。

なお、現状変更工事に伴い、一部部材を切り取り文化財保護課で保管している。また、現状変更に際し、記録保存のための調査を実施し、現在調査報告書の作成中である。

第3章 文化財保護事業

1 保護管理運営事業

(1) 国有文化財管理

文部科学省(文化庁)が所有する、国有文化財、天川二子山古墳と總社二子山古墳の2箇所について、自治会役員等を国有文化財看護人として委託し、見回り看護、清掃等の日常管理を実施した。また、同古墳の除草等については、天川二子山古墳は前橋市シルバーハウスセンターに業務委託し、總社二子山古墳は地元の總社地区史跡愛存会に業務委託のうえ、6月下旬と9月の計2回実施した。



天川二子山古墳除草作業

(2) 国・県・市指定文化財管理

今年度実施した市指定文化財の種別及び名称の修正による種別間の文化財の異動と新指定を加えた平成23年3月末現在の指定文化財の数は、下記の通りである。

指 定 区 分	国 指 定	県 指 定	市 指 定	合 計
重要文化財	5	41	139	185
史 跡	11	12	45	68
無形文化財	0	0	0	0
有形民俗文化財	0	0	25	25
無形民俗文化財	0	2	19	21
天然記念物	2	3	13	18
名 勝	0	1	0	1
合 計	18	59	241	318
登録有形文化財	22	—	—	22
登録有形民俗文化財	1	—	—	1
重要美術品	8	—	—	8

① 史跡等の除草及び樹木処理

市が管理する史跡等について、地元自治会、シルバーハウスセンター及び業者に委託し、環境美化に努めた。

除草業務一覧表

	史跡名	区分	所在地	除草面積 (m ²)
1	龜塚山古墳	市指定	山王町1-28-3	4,968
2	金冠冢古墳	市指定	山王町1-13-3	4,814
3	今井神社古墳	市指定	今井町818	4,624
4	車縫門跡	市指定	大手町2-5-3	750
5	天神山古墳	県指定	広瀬町1丁目27-7	730
6	八幡山古墳	県指定	朝倉町西1丁目9-3	20,000
7	蛇穴山古墳跡地	国指定	總社町1587-2	5,674
8	宝刀山古墳	国指定	總社町1606	2,204
9	女堀	国指定	富田・東入道 二之宮・銀土井地	69,986
10	不二山古墳	市指定	文京町3丁目151-6	1,142
11	荒砥不二山古墳	県指定	西大庭町813-2他	2,700
12	大削跡地	県指定	河原坂町660-1 急坂地660-31,32	24,934 3,700
13	堀越古墳	県指定	相模町851-1	582
14	大日塚古墳	市指定	五代町214	1,124
15	總社古墳隣接地		總社指野365-2	792
				138,724

樹木等処理一覧

	史跡名	区分	所在地	処理内容
1	亀塚山古墳	市指定	山王町1丁目	樹木伐採
2	宝塔山古墳	県指定	總社町1606	樹木伐採
3	天川二子古墳	国指定	文京町3丁目	樹木伐採
4	女堀	国指定	二之宮町	樹木伐採 剪定

② その他の環境整備

○市が管理している史跡等について、職員の見廻り巡視を行い、見学路・景観確保のためゴミ拾いとともに、折枝や枯木の発見に努めた。

○市が直接管理する国指定史跡4ヶ所の樹木に発生する害虫アメリカシロヒトリの防除を行なうため、オルトランカブセル(樹木注入型殺虫剤)の樹幹注入を職員により実施した。

実施日 平成22年6月21、22日(月、火)
実施場所 ①天川二子山古墳 ②總社二子山古墳 ③宝塔山古墳 ④蛇穴山古墳
樹木本数 81本(4ヶ所合計)

○市が管理している、国指定史跡の女堀のうち二之宮町地区の急傾斜を除く東沼・西沼全体に生えている竹に竹鴉注入を行ない竹

の枯渇を計った。また、富田町地区女塚も同様に行った。

実施日 7月14日～8月3日(13日間)

実施場所 国指定史跡女塚 二之宮町地区
区 竹釋注入本数およそ4,400本。



薬剤注入中



1ヶ月後枯済した竹

平成21年度に薬剤注入により枯済した竹を片付けた。

実施日 8月4～6日(3日間)



枯済した竹を片付けている

(3) 文化財の保護

① 文化財パトロール

市内を10地区に分け、各地区に文化財保護指導員を配置して、指定文化財の管理状況の把握に努めた。報告は月1度書類の提出を

お願いし、その報告の内容により、除草や倒木や説明板等の対処をした。また、その報告書は、文化財の状況をABCで評価してもらい具体的に分かるようにしている。

平成22年度は、文化財保護指導員の委嘱の年で、中央地区と上川瀬・下川瀬地区では、担当者が変わった。

委嘱式及び第1回会議は、4月23日に行った。平成22年度事業概要や平成23年度事業計画および平成22年度文化財パトロール報告のまとめを報告し、文化財保護の率直な意見交換をした。そして、文化財保護指導員の資質の向上を図るために、11月5日に県外研修会を実施した。研修先は長野県上田市で、重要文化財や史跡等の文化財の見学を行い、指導員の知識習得に多大な成果を収めることができた。



県外研修（信濃国分寺）

② 文化財防火査察及び防火訓練

ア 文化財の防火査察

第57回文化財防火デーにより、45件の文化財査察対象物に対して8編組を組み、前橋市消防本部(各消防署)及び群馬東京電力等と協力して、合同立入査察を実施した。

○平成23年1月19日(水)

(7更北消防署：3施設 9:30～)

日輪寺寛永の絵馬他・前橋藩家老小河原左衛門の甲冑付旗差物・善勝寺鉄造阿弥陀如来坐像

(5班西消防署：4施設 午後1時30分)

上野總社神社本殿他・徳藏寺懸仏・麻木著色両界曼荼羅一對・大徳寺総門・多宝塔・光嚴寺薬医門・打敷・油卓並に幡

(8班白川分署：5施設 13:30～)

横室の歌舞伎衣装・珊瑚寺の板碑と多宝塔・時澤の仁王と多宝塔・萩林庵の阿弥陀像・原西の阿弥陀像

○平成23年1月20日(水)

(1班)中央消防署: 6施設 9:30~

妙安寺国認定(旧)重要美術品3幅・県指定重要文化財12幅・梵鐘、東照宮前橋藩松平家奉納表束一式・源英寺酒井忠志画像、八幅宮文書(一巻九通)・伯牙彈琴鏡、臨江閣本館・茶室・別館、典籍前橋藩松平家記録(404冊)・酒井家資料(129点)前橋紙圖祭礼絵巻(二巻)(市立図書館)

(2班)中央消防署: 6施設 13:30~

神明宮の甲冑・奈良三彩、東福寺鰐口・松平藩主画像他一件、旧蚕糸試験場事務所・



査察風景

イ 文化財の防火訓練

敷島町ばら園内にある「蚕糸記念館(旧蚕糸試験場事務所)」で見学者による、タバコの投げ捨てにより正面玄関付近から出火、関係者の初期消火活動にも拘わらず建物に延焼拡大したものの、また、初期消火活動中に2名の負傷者が発生したものを想定した防火演習で、車両1台、総勢100名が参加し中繼送水・放水訓練を行い延焼拡大防止訓練に望んだ。さらに猛火から負傷者の救出演習、担架に載せて病院へ搬送する実際ながらの訓練も披露された。

○平成22年1月22日(土)

午前9時0分から午前10時0分まで
会場

前橋市敷島町262番地

「蚕糸記念館(旧蚕糸試験場事務所)」

指定物件

- ①県指定文化財 旧蚕糸試験場事務棟
- ②国登録有形民俗文化財 前橋の養蚕・製糸関連資料633点

計2件

参加機関

前橋市消防局、各消防署、前橋市消防団第1方面隊(第1・3分隊)、文化財保護課、

前橋公園管理事務所(演習参加者100名)



蚕糸記念館消火訓練

③ 寄付の受け入れ

平成22年度は、以下4件の貴重な文化財資料等を受け入れた。

○政府紙幣50銭

昭和20年8月5日の前橋空襲で亡くなった方の遺族に支給された弔慰金である。陸江閣で開催した『前橋空襲と都市の復興』で展示を行った。

○鞍(馬具)、市場鑓札他

鞍は参勤交代が天川大島の松並木を通じる際に使用したもの。また、市場鑓札は前橋藩が市場への出荷を許可する生産者に対して交付したものと伝えられている。

○八稜鏡

昭和40年代に赤城山の地蔵岳で発見されたもの。外縁部は直径11.4cm、厚さ0.57cmで、内縁部に4体の馬とみられる動物の文様がある。



鏡八稜

○絵画(スケッチ)

前橋市出身の画家、福田親太郎氏によるもので、前橋空襲の翌朝の前橋駅付近や上毛倉庫付近の様子が描かれている。

④ 刀剣の製作承認

市内在住の高橋恒蔵氏から14口(短刀10、脇差1、太刀2、刀1)の承認申請があり、すべてを承認した。承認後は県公安委員会及び県教文部文化財保護課へ承認した旨通知した。

⑤ 刀剣の手入れ

本市が寄附受けを行った刀剣を、良好な状態で保存するため、専門的な技術者による手入れを行った。今年度も例年通り、9月と2月の2回、手入れを実施した。

今年度の手入れでは、錆のあるものなど、別途委託をするものは見受けられなかった。



刀剣手入れの様子

⑥ 市内所在の文化財の異動

今年度、市内に所在する文化財の内、県重文の2件が異動となった。詳細は下記の通り。

ア 名 称 県指定重要文化財

かたの めい
刀 銘 (巴紋印)

とうぶれいてふじえたろうてるよしこれをつくる
於 東武藤枝太郎英義作之 一口

所在地 前橋市本町二丁目

氏宅

指定日 昭和38年9月27日

異動日 平成22年4月22日(桐生市
へ)

郷土の刀工による作であり、銘に「慶應
二(1866)寅年八月吉日」とある。

上記文化財は、4月22日付けの所有者
変更により桐生市在住個人へ所在が移る。



イ名 称 県指定重要文化財 群馬県行政文書

所在地 前橋市文京町三丁目27-26

県立文書館

指定日 平成19年3月27日

答申日 平成22年3月19日(国重文の方
向へ)

「群馬県行政文書」は、明治初年の群馬県誕生から昭和22年地方自治法制定までの約80年間に、県庁で作成・収受・保存されてきた公文書。

上記文化財は、6月29日付け答申により国重文となる。



⑦ 井出上神社のシイ雪害による毀損について

内容は樹木調査を参照のこと。

⑧ 指定文化財の現状変更について

今年度の現状変更是県指定の史跡及び重文で行われた2件のみである。詳細は下記一覧の通り。

種別	名称	内容
県史	大胡城跡	旧大胡町社会福祉センターの解体
県重	絹本着色親鸞聖人縁起 絵伝 四福	・本紙表装の補強 ・掛紐・巻紐について正絹新品と交換

⑨ 前橋市蚕糸記念館の管理・活用

県指定重要文化財である旧蚕糸試験場事務棟を敷島公園のこの場所に解体移築し、昭和57年4月に前橋市蚕糸記念館として一般公開した。日常管理を前橋市シルバー人材センターに委託し、見学者の受付と館内外の清掃を行っている。このほかに管理業務では、消防設備保守点検、植木及び周辺清掃業務を委託している。

建物内に4つの展示室(①側所当時の様子を示す資料②はき立てから繭出荷までの養蚕具③上州座織器をはじめとして製糸業に用いる用具機械④機織り機や養蚕信仰の資料)を設け

て資料を展示し、蚕糸業とともに歩んできた前橋の近代化を偲ぶ記念館として公開している。

本年度は、春と秋のばら園まつりを中心にバスのツアーコースに入っているため、団体客が多数来館し、7,108人の見学者があった。また、ばら園まつりの期間中富岡製糸場世界遺産伝導師協会の協力を得て座縁り体験コーナーを設け春・秋合わせて219人が座縁り体験を楽しみ、自分で採った糸はお土産としてプレゼントした。ばら園まつりはいろいろなイベント行われており、その1つとして来場者は楽しんでいる。

(5) 総社資料館の管理・活用

平成22年度の開館日数は237日、来館者数は4,870人であった。本年度は、昨年に引き続き、秋元歴史まつりの武者行列が行われない年ではあったが、来館者は開催年より引き続き同水準で、微増した昨年度よりも若干(100名程度)増やすことができた。来館者の中心は小学校による学校単位での利用によるもので、天狗岩用水や昔の道具の学習、さらには古墳の見学を目的として、3,206人が訪れた。また市外小学校からの見学申込みもあり、周知度が増してきていることが窺える。

毎年開催される秋元歴史まつりの際の文化財の展示は、本課埋蔵文化財係の協力により、蒼海・総社地区の遺物展示を特別展示として館内にスペースを増設して行った。また今回も昨年に引き続き、富岡製糸場世界遺産伝導師協会の協力を「座縁り体験教室」も行い、体験した方には大好評であった。また実行委員会関連行事として、資料館のスペースを一部利用し、鎧の試着体験と記念撮影が行われ、総社地区史跡巡りの受付会場・発着所としても利用された。

3月には、説明員研修を実施した。例年は市外での研修であったが、市内の文化財でもよく知られていないものがあるとの意向を受け、今回は市内の文化財を改めて学ぶ機会とし、総社地区ではなじみの薄い市内東部～南部方面の市内文化財を見学した。普段は見ることのできない、国指定「銅造阿弥陀如来」を始めとした彫刻・建造物、あるいは古墳等の史跡の見学を通じ、市内の文化財に対する見識を深めることができ、意義ある研修となつた。

資料館の施設管理の面では、3月に東北地方太平洋沖地震の影響で北蔵壁面が落下し、

ガラスケースを破損するなどの被害を受けた。これに伴い、地震以降休館となったおり、修理及び、建物の安全性など、次年度の運営に向けて大きな課題となつた。



特別展示の様子

(6) 前橋市粕川歴史民俗資料館の管理・活用

粕川歴史民俗資料館は、大胡、宮城、粕川地区などの赤城南麓地域の歴史や民俗が学習できる施設として活用している。今年度は、2回の企画展を開催し多くの市民に関心を持っていたことをねらった。開館日数は213日入場者数合計1,355人を数えた。

企画展概要

①「赤城南麓の歴史～赤城山を探る～」

期間 4月29日～9月5日

赤城南麓地域の発展の様子を縄文時代から現在にいたるまで発掘された資料を通して、通史として行った。

②「赤城山を探る—信仰のヤマ 赤城山—」

期間 10月9日～2月13日

今、前橋市が熱く観光に力を注ぐ赤城山を取り上げます。赤城山の全く違った一面を紹介し、赤城山の新たな魅力を探ります。併せて赤城山南麓地域の歴史について、出土遺物から概観します。

(7) 前橋市粕川出土文化財管理センターの管理・活用

施設は無人となった。

施設内の警備保障、昇降機、浄化槽点検等は、業務委託により引き続き管理を行っている。

(8) 大室公園史跡の管理・活用

一般公開している大室古墳群について、史跡の日常管理を行うにあたり、石室入口の鍵開閉や出土遺物を復元展示した史跡の保守・

点検・清掃等を行う者を地元から選出して、史跡管理業務を委託した。

群馬県内外から多くの見学者が訪れる公園内の古墳群であることから、市民ボランティア「古墳の語り部」が史跡案内等を行なっている。

6月13日に開催された大室イベントでは、富岡製糸場世界遺産伝道師協会伝道師による座縁の体験を行い、多くの参加者を集めた。

(1) 管理業務実施日

4月から11月まで: 毎曜日を除く毎日

12月から3月まで: 土・日・祝日

前二子、後二子石室鍵開け 午前9:00

前二子、後二子石室鍵閉め 午後4:00

(2) 点検場所

1. 前二子古墳 2. 中二子古墳 3. 後二子古墳

4. 付小古墳

※清掃は石室開閉時に実施している。

(3) 年末年始休業

12月27日(月)から1月4日(火)まで

(9) 大室公園民家園の管理・活用

民家園は赤城型保存会という地元の組織に管理運営を委託している。

平成22年度開館日数は236日、民家園来園者数は記帳者の確認だけで3,248人となっている。6月13日に開催された大室イベントではスタンプラリーの会場とともに、ふかし饅頭の体験会場が開催された。

古墳の語り部による勾玉作りが、8月21日(土)に開催され、およそ50人が参加した。



饅頭つくり体験

(10) 臨江閣の管理・活用

平成20年度から臨江閣の管理活用は、生涯学習課から文化財保護課へ替わった。それまで臨江閣は中央公民館の別館として利用されていた。明治時代に建てられ指定文化財になっている建物の保護と文化財としての普及活用を主眼としたため、所管換えが行われた。

日常管理については、管理人を2名常駐させ、館内外の清掃と見学者の受付を行った。この管理人は、前橋市シルバーアイテムセンターへ委託した。このほかに管理業務の委託では、機械警備業務、消防設備保守点検、雨樋及び屋根清掃を業者へ委託した。なお、庭内の樹木は、一括管理が効率的判断し、公園管理事務所へ管理の依頼をしている。また、管理人・消防設備点検業者・消防署を呼んで9月と3月には消防訓練を行っている。

施設の活用では、展示室では「前橋空襲と都市の復興」を開催している。

また、4月4日着物文化の講演会を皮切りに春を中心に4~7月に4団体がお茶会を開催し、他の団体において中学校囲碁将棋大会・俳句教室・テレビ撮影・イベント及び講演会等で利用があった。8月は前橋工科大学主催のほたる鑑賞会があった。9~12月は秋を中心として4団体がお茶会を開催した。また、中学校囲碁将棋大会・百人一首大会・琴の合奏練習・ウォーカーラリーの会場・企業の視察研修が行われ、茶道や華道等日本文化を紹介する場として広く利用された。2~3月には、市民の寄贈による雛人形を展示し好評を博した。その他の活用として小学校や大学・各種学校の学習見学・他県市議会の視察・市内外の自治会及び各種団体の視察見学や各種イベント・旅行会社の観光ツアー・和装の衣装が建物に合うということで結婚衣装・七五三・成人式の衣装を着ての撮影が結婚企画会社や写真館の記念撮影が行われ、雑誌・イベント企画会社の撮影等でも利用された。最後に臨江閣への平成22年度の入場者数であるが、団体利用や観光に力を入れていることもあり見学利用など、17,244人を数えた。

保全修理では、今後3年間かけて本館の補修工事を行う予定である。今年度には本館北側一階下屋根修繕を行ない、施設の保全に努めた。

パンフレットについては4,000部増刷した。



ひな人形展

2 整備事業

(1) 前橋市史跡整備委員会

平成18年度に発足し、5年目を迎えた前橋市史跡整備委員会は、本年度の事業として前橋市内の史跡整備に向けた提言書の作成を中心に行つた。

昨年度まで各史跡の具体的整備方針を検討してきたが、提言書を作成するにあたり、提言を行う理由や目的など提言書の根拠となる部分についても検討を加える作業を行つた。

① 第7回前橋市史跡整備委員会

ア 開催日及び会場

平成22年7月13日

前橋市中央公民館 55学習室

イ 出席者

峰岸顧問、阿久津委員長、右島副委員長、小島委員、飯森委員、教育長、財務部長、都市計画部長、建設部長、管理部長、事務局（文化財保護課）

ウ 内容

事務局より提言書案（修正版）を提示し、その内容について協議・検討を加えた。

主な意見

- 対象史跡の一覧を加えたほうがよいのではないか。
- 整備スケジュール案は、各史跡ごとにわけたほうがよいのではないか。
- 赤城神社抜きには前橋の歴史は語れないでの、年表に、赤城神社のことも加えるべきである。

② 第8回前橋市史跡整備委員会

ア 開催日及び会場

平成23年2月18日

前橋市役所3階 31会議室

イ 出席者

峰岸顧問、阿久津委員長、右島副委員長、小島委員、飯森委員、教育長、管理部長、事務局（文化財保護課）

ウ 内容

事務局より提言書案（修正版）を提示し、その内容について協議・検討を加えた。

主な意見

- 整備の目的として「まちづくり」を提言文中に加えるべきではないか。
- 整備にあたっては「市民」を含めて推進することを提言文に加えたい。
- 提言文全体的に簡潔明瞭な言葉とするべきである。
- 構想図を再考してわかり易いものにするべきである。

(2) 保存整備事業

① 臨江閣保存修理事業

本年度から3年計画で本館の保存修理を行うものである。1年目の今年は一階北側廊下屋根の垂木が折れ、屋根全体が歪んだ状態になっていた屋根の改修を行つた。内容はこのまま放置すると危険な状態であるため、折れた垂木の交換と雨どい交換を行つた。この交換工事に伴い、屋根の吹替えを行つた。

ア 工事概要

屋根改修工事

イ 事業費 2,753,100円

（内訳）

県補助金 832,917円

市負担金 1,665,833円



前橋市史跡整備委員会



臨江閣北側廊下屋根改修工事

② 上野總社神社保存修理事業

木殿屋根のこけら葺きの損耗が顕著であることや壁面の剥落等の劣化が生じていることから補修を行うもので、4年計画事業の2年目である。

ア 工事概要

壁面調査

(見取り図作成)

イ 事業費 2,223,350円

(内訳)

県補助金 1,556,000円

市負担金 333,000円



総社神社

③ 旧アメリカンボード宣教師館保存修理事業

現在地に移築後8年が経過し外壁塗装の剥がれや色抜けが各所に見られること、急傾斜の屋根の点検を行っていなかったことから、補修工事を行った。

ア 工事概要

・外壁塗装

・建具調整

・屋根点検

イ 事業費 3,832,500円

(内訳)

県補助金 2,682,000円

市負担金 575,000円

④ 横室の大カヤ天然記念物再生事業

枝折れ防止のための支柱が枝の生長により枝に食い込んでいることや、幹の北側の空洞、西側の腐朽部、多くの枯れ枝があることから、国庫補助事業により支柱との接觸部分の改修、主幹の治療等を行った。

ア 工事概要

・土壌改良

(空気圧入、施肥)

・支柱改修

(枝との接触部分の改修)

・主幹治療

(腐朽部の除去、殺菌剤の塗布)

・枯れ枝除去

・フェンス改修及び法面成形

(独立基礎によるフェンスの設置)

・隣接地の竹の抜根及び防根シートの設置

・標柱移設

イ 事業費 3,465,000円
(内訳)

国庫補助金 1,548,000円

県補助金 464,000円

市負担金 1,453,000円



腐朽部除去の様子

③ 文化財めぐり案内板の整備

① 市指定文化財説明板の書き替え

劣化により読みなくなった2箇所の説明板の書き替えを行った。

ア 工事概要

・鳥羽の大日如来及び笠塔婆の説明板の書き替え

・大福寺の宝塔の説明板の書き替え

イ 事業費 273,000円

② 地区の文化財めぐり案内板の書き替

南橋公民館及び坂南支所内に設置してある地区的文化財めぐり案内板の老朽化に伴い、書き替えを行った。

ア 工事概要

案内板の原画を南橋中学校及び荒砥中学校美術部に原画の製作を依頼し、書き替え工事を行った。

イ 事業費 173,250円



南橋地区文化財めぐり案内板



城南地区文化財めぐり案内板

(4) 県史協総会の開催

平成22年5月まで本市が県史協の副会長市であったことから、総会を臨江閣別館一階洋間で開催した。

① 開催日

平成22年5月18日(火)

② 出席者

県内史跡整備関係者50名

③ 内容

○講事

○講演

「文化財保護の現状ー史跡を中心にー」

文化庁文化財部記念物課

佐藤 正知主任文化財調査官

○事例発表

「山王廃寺と總社古墳群の調査からわかつること」

前橋市教委文化財保護課

福田 貴之主任

○視察

臨江閣

(5) 総社資料館の整備

総社資料館の今後のあり方等を協議するため、関係課長会議及び検討会(WG)を開催した。

① 第3回関係課長会議

ア 開催日

平成23年1月5日(水)

イ 出席者

政策推進課、財政課、管財課、教委総務課、教育施設課、生涯学習課、文化財保護課

ウ 内容

平成20年に本市が光嚴寺に売却した土地の取扱いについて

② 第2回検討会

ア 開催日

平成22年4月15日(木)

イ 出席者

政策推進課、財政課、管財課、観光課、まちづくり課、教委総務課、教育施設課、学校教育課、生涯学習課、文化財保護課

ウ 内容

大室体験学習施設について

③ 第3回検討会

ア 開催日

平成23年3月1日(火)

イ 出席者

政策推進課、財政課、管財課、観光課、まちづくり課、教委総務課、学校教育課、生涯学習課、文化財保護課

ウ 内容

(仮称) 前橋博物館について

3 普及事業

(1) 前橋市・高崎市連携文化財展

前橋・高崎連携文化財活用事業として、文化財展「東国千年の都一発掘されたタ・カ・ラ・モ・ノー新発見！前橋・高崎の歴史」を開催した。

① 内容

前橋・高崎両市における近年の発掘調査成果を紹介した。

展示テーマ（展示内容）

○ 前橋市における近年の遺跡発掘調査成果

上野国府跡、上野国分尼寺跡、史跡山王庵寺、總社古墳群、南部拠点地区遺跡群、上郷井北遺跡群、南郷東原遺跡など

○ 高崎市における近年の遺跡発掘調査成果

史跡井出二子山古墳、上中居遺跡群、史跡日高遺跡、山名古墳群、下芝五反田遺跡、上豊岡引間遺跡、長根遺跡群、棟高遺跡群、史跡寅輪城、高崎城など

② 期日・会場

・前橋会場 平成23年1月8日～17日

前橋プラザ元気21

・高崎会場 平成23年1月22日～31日

高崎シティーギャラリー

③ 結果

来場者数は総計で4,603人であった。うち前橋会場は3,355人であった。

前橋会場のアンケート結果では、この文化財展の感想として「興味深い企画だ」61.3%、「展示されていた遺跡を訪ねてみたい」47.1%、「おもしろい」44.0%（回答者191人の複数回答）と好評を得た。



前橋市・高崎市連携文化財展
前橋会場（前橋プラザ元気21）

(2) 第38回前橋市郷土芸能大会

① 日時

平成22年11月20日（土）

② 会場

前橋市民文化会館大胡分館シャンテ

ホール

③ 内容

前橋市内の5団体に、近隣市町村からの招待団体を加えた計6団体の公演が繰り広げられた。近隣市町村からの招待は、団体同士の交流と研鑽を目的に始められ、恒例となってている。

今年度は、棟東村教育委員会を通じて出演の推薦依頼をし、同村指定重要無形民俗文化財「大宮神社獅子舞」に出演いただいた。

また、恒例行事の一つになっている抽選会も実施した。これは大会に余興的な要素を持たせつつ、最後の公演まで活気を持たせ、より多くの方に会場に足を運んでもらうねらいで実施されている。市内外から21の企業・団体からご協賛を頂き、100本を超える当選本数で、盛大に開催することができた。さらに、マスコミ各社の後援協力を頂き、広報活動も積極的に行なった。

これらの取り組みにより、観客の公演ごとの増減が少なくなり、最後まで観客を維持することができた。

大会全体の所要時間は、各出演団体の協力により、ほぼ時間通りに進めることができた。今後もよりスムーズな進行に向け、工夫と努力を加えていきたい。

出演団体

郷土芸能の名称	保存会名	所在地
春日神社太々神樂	春日神社太々神樂保存会	上佐島町
住吉祭り囃子	住吉町一丁目おはやし保存会	住吉町一丁目
大宮神社獅子舞	大宮神社獅子舞保存会	棟東村
御鼓舞 和鼓・花和鼓	西光寺和鼓舞 極楽寺和鼓舞	上佐島町 亀里町
下長磯操翁式三番叟	下長磯操翁式三番叟保存会	下長磯町
上泉の獅子舞	上泉獅子舞保存会	上泉町



公演の一場面

(3) 普及啓発

① 文化財探訪

この事業は、前橋市内にある文化財や施設の見学を通じて、市民の方々の生涯学習に役立て、文化財の意義・保護管理の大切さの理解を深めることを目的に、平成15年度より開始した。平成22年度は、9月と3月に2回実施した。このうち第1回目は、「赤城南麓の神社の歴史文化に触れる探訪」と題し、安産の守護神として広く信仰を集めている産泰神社の神門・本殿・押殿・幣殿の天井画や大胡城の守り神だった大胡神社の算額・ムロウジ・大胡城の櫓跡、そして赤城山を神体とする山岳信仰に端を発する三夜沢赤城神社の本殿・中門・縁門、たわら杉等を拝観した。

第2回目は「身近な歴史を学ぶ旅」と題し、前橋カトリック教会の聖堂・アンジェラスの鐘・二階テラス、また、大徳寺では總門・多宝塔、その後鳥羽町東部公民館敷地内にある鳥羽の大日如来及び笠塔婆や大福寺の宝塔を拝観し、説明をしてもらった。なかなか普段見ることの出来ない建物内部や文化財を見て回ることができ、その文化財の歴史や寺院・神社の沿革を聞くことができて、歴史ある文化財の価値を再確認し、貴重な体験ができた。

〈第1回目〉

日 時

9月15日(火) 13時30分~17時

案 内

産泰神社宮司・大胡神社総代会長

三夜沢赤城神社宮司

参加者

22名

コース

赤城南麓の神社探訪

~赤城南麓の神社の歴史を訪ねてみま
せんか~

産泰神社→大胡神社→三夜沢赤城神社



産泰神社での見学風景

〈第2回目〉

日 時

3月11日(金) 13時30分~17時

案 内

前橋カトリック教会司祭・大徳寺住職
大福寺住職・前橋市文化財保護指導員

参加者

23名

コース

身近な歴史を学ぶ旅

…文化財の魅力に触れる散策紀行…

前橋カトリック教会→大徳寺→鳥羽の大日如來及び笠塔婆→大福寺



前橋カトリック教会での見学風景

② 出張授業「おもしろ文化財教室」

小中学校の社会科や総合的な学習の時間などにおいて、本課職員が講師として授業を行うものである。依頼を受けた、学校の担当教諭と事前打ち合わせを行い、その中で、授業のねらいや留意点などをできるだけ詳細に確認し、児童・生徒たちにとって充実感・達成感のある授業をめざし実施した。今年度は、3校310名に対応した。

《実施概要一覧》

実施日	学校名 学年	実施内容（実施場所）
5/14	滝窪小6年生	はにわ・土器作り
5/24	伊勢崎官郷第二小 4年生	関根家住宅大室古墳群の見学・解説
11/4	柏川小6年生	大室古墳群史跡等の見学
7/16	県立前橋工業高校	平成22年度「地域産業担い手プロジェクト」外部講師授業

③ 爆土芸能映像記録保存（DVD作成）

平成8年度から始まり、昨年度までに17芸能の撮影を行っているが、今年度は行われなかった。

④ 文化財資料の貸出

今年度も出版社等から依頼を受け、写真資料等の貸し出しを行った。

主な貸し出し資料と貸し出し先は、以下の通りである。

貸し出し資料	貸し出し先
内堀遺跡出土人物埴輪 4体	長野県中野市立博物館
山王廃寺出土人物塑像	株式会社 雄山閣
前橋天神山古墳の粘土模 (カラー写真)	群馬県立歴史博物館
山王廃寺文字瓦「放光」 写真	群馬県立歴史博物館
山王廃寺山王廃寺想定図	
松平家八代目 齋典肖像 画(前橋孝顕寺所蔵・写 真)	川越ケーブルビジョン 株式会社
船津伝次平肖像写真	前橋市教育委員会 学 校教育課
酒井重忠画像	群馬県立歴史博物館
春日神社太々神楽 蚕の 舞写真	交通新聞社 (JRジャバ ング俱楽部)
春日神社太々神楽 DV D	群馬県地域政策課
春日神社太々神楽 DV D、ビデオ	群馬県世界遺産推進課

⑤ 各種講座・文化財めぐり等への講師派遣・

ボランティアガイド

指定文化財や遺跡などについて市民が理解を深められるよう、本課職員や各資料館解説員、市民ボランティアが案内を行った。

・対応団体数 31団体

・参加者のべ人数 1741人

・説明、案内箇所等

大室古墳群、臨江閣、蚕糸記念館、
柏川歴史民俗資料館、大胡城、総社
資料館 等

⑥ 職場体験学習

今年度は3校と青少年課より依頼のあった不登校傾向生徒の体験学習を受け入れた。実施の概要は以下の通り。

9/13～9/15

桂萱中学校 第2学年 5名

10/5～10/7

第五中学校 第2学年 10名

12/2～12/4

不登校傾向生徒 4名

2/16～2/17

群大附属中学校 第2学年 3名



若海遺跡群にて

⑦ 出前講座（生涯学習課事業）

本課として3つの講座を設定し実施した。

・「明治のイギリス外交により見出された
大室古墳群」

2団体 250名

・「古代の東国に咲いた華・山王廃寺」

1団体 23名

・「文化財のあらましと保護行政について」

1 団体 18名

⑧ 普及資料作成

○ 「前橋市文化財マップ」

平成21年5月に前橋市と合併した旧富士見村の文化財情報を追加した改訂版を発行した。

○ 文化財めぐりパンフレット

「富士見地区的文化財めぐり」を新たに発行した。また、大胡・宮城・粕川地区については、改訂版を発行した。



①

②

①「前橋市文化財マップ」(左)

②「富士見地区的文化財めぐり」(右)

(4) 公民館・資料館連携事業

歴史や文化財に関する体験学習や文化財の見学等を各公民館や資料館と共同で開催し、市民が郷土の文化財に直接触れ楽しみながら歴史を学習することを目的に実施した。講師として本課職員や外部依頼講師が対応した。

3	平成22年 10月23日 10:00～15:00 南橋公民館	南橋公民館 地域づくり講座「市内資料館及び発掘調査現場見学」 会場：総社資料館、山王庵寺調査現場 講師：本課職員	一般 40人
4	平成22年 12月27日 9:30～11:30 芳賀公民館	芳賀公民館少年教室「まが玉作り教室」 会場：芳賀公民館 講師：本課職員	小学生 20人

(5) 大室古墳群公開・普及イベント2010

“赤城にまなぶ・大室にあそぶ”

① 趣旨

平成16年に整備事業の完了した大室古墳群を歴史遺産として広く市民に周知し、活用促進を図り、もって文化財の愛護精神の高揚を図ることを目的に開催した。イベントでは、市民ボランティア解説員「大室 古墳(つか)の語り部」による古墳見学会をはじめ各種体験イベントやスタンプラリーなどを行った。



大室古墳群公開・普及イベント2010

体験コーナー(火おこし体験)

② 開催日

平成22年6月13日

③ 内容

- ア 市民ボランティア解説員の会「大室 古墳(つか)の語り部」による古墳案内
- イ 古墳めぐりスタンプラリー
- ウ 体験コーナー(まが玉づくり、火おこし体験、座縁り体験、桑の木細工)

日時・主催	内 容	参加数
1 平成22年 6月22日 13:30～15:00 南橋公民館	南橋公民館 地域づくり講座「南橋地区の歴史や南橋東原跡跡を紹介する講演会」 会場：南橋公民館 講師：本課職員	一般 30人
2 平成22年 8月3日 9:30～12:00 南橋公民館	南橋公民館 地域づくり講座「まがたまづくり」 会場：南橋公民館 講師：本課職員	小学4年生以上 50人

- 験、座繰り体験、桑の木細工)
 エ 「ふかしまんじゅう」をつくろう (宮城ふ
 かしまんじゅう愛好会)
 オ オカリナの演奏 (むう土笛の会)
 カ 観光物産品の販売

④ 開催結果

当日は、好天に恵まれ1,600人以上もの見学者及び参加者があった。アンケートにも「来年度以降も継続して開催して欲しい」などの意見があり、イベント開催については好評であった。

(6) 前二子古墳石室復元市民プロジェクト

市民ボランティアの手により、国指定史跡・前二子古墳の石室を、発掘当時1878年の状態に復元する。平成18年度から20年度までの第1期事業の成果を踏まえて、平成22年度から新たな3年事業として実施する。今年度は装飾須恵器を制作した。



作品製作作業

① 8月23日

- 実行委員会総会
 ・委員10名、監事1名、顧問1名

② 9月1日～9月27日

- 広報まえばし、ホームページ等でボランティアを募集
 ・24名の応募（全員にボランティアを依頼。
 ただし後日3名が辞退した。）

③ 10月9日

- オリエンテーション
 ・「大室 古墳の語り部」による古墳案内、活動内容の説明他

④ 10月9日

- オリエンテーション
 ・「大室 古墳の語り部」による古墳案内、活動内容の説明他

⑤ 10月30日～11月7日

- 土器制作ワークショップ
 ・会場 総合教育プラザ 教材制作室
 ・制作数 15点

⑥ 12月18日～26日

- 窯焼き
 ・会場 一心窯（宮城町鼻毛石）

⑦ 2月27日

- 完成記念考古学講演会
 ・会場 総合福祉会館 2階ホール
 ・講演
 「日韓の古墳と装飾土器 一新羅・加耶土器の造形―」
 山本孝文先生（日本大学准教授）
 ・参加者数 100名

⑧ 3月3日～ 装飾土器作品の展示

- ・会場 総合教育プラザ3階展示室
 （ただし、東日本大地震に伴う節電のため、
 18日以降は休止）



講演会風景

⑨ 4月1日～4月30日

- 市民の視点に立った文化財・史跡の普及活用を目指し、市民ボランティア解説員の会「大室古墳（つか）の語り部」が活動を開始し5年目となった。5月から10月までの定期説明会のほか大室イベントへの協力や、また玉づくり教室・紙芝居の開催など、今年も積極的な活動を

度へ向けての活動計画や組織・役割 分担についての話し合いが持たれた。

① 古墳見学会

- ・定例説明会(5月～10月の主に第1土曜日)
民家園を待機所として希望者が集まり次第、
グループに分け案内。
見学者 計79名

② 自治会、歴史爱好者団体等への案内

- ・11団体へ実施
見学者 計359名

③ 各イベント等への協力(古墳案内)

- ・6月13日 大室古墳群イベント
見学者 計100名



紙芝居とそれに見入る子供たちの様子

(8) 文化財保存団体育成補助

総社地区および荒砥地区において、その地内に残る文化財の説明板や標柱の設置を継続的に行っている団体や市内各所で活動している郷土芸能保存団体に補助金を交付した。また、県指定文化財「上野総社神社本殿」と「旧アメリカンボーラー宣教師館」において、参拝者や見学者の安全の確保と文化財の保存と維承を目的として、補助事業での助成を行った。交付対象団体は、以下の通りである。

- 総社地区史跡愛存会
- 荒砥史談会
- 横室歌舞伎保存会
- 前橋市郷土芸能連絡協議会
- 宗教法人 総社神社
- 学校法人 共愛学園
- 阿久沢家住宅



横室歌舞伎の写真

(9) 文化財調査事業

① 前橋市近代和風建築悉皆調査

ア 調査の目的

前橋市内に残る近世以降の建築物について、文化財としての価値判断を行い台帳化を図ることを目的とする。(平成21年度から3ヵ年事業)

イ 調査の概要

・調査期間

平成22年7月～平成23年3月

・調査対象

明治初年～昭和20年頃までに、日本の伝統様式・技法によって建てられた木造建築物。

・調査方法

緊急雇用創出事業として前橋市教育委員会が調査主体となり、近代和風建築について専門的な知識を有する民間の団体に調査を委託して実施。

・調査内容

昨年度の悉皆調査未実施地区(粕川地区富士見地区)で当該建物の所在調査を行い、該当物件については保存状態を確認するとともに、建物外観の写真撮影を行い、さらに地図上で所在を示して台帳化を図った。

また、悉皆調査の成果を基に重要物件を選択し、詳細図の作成や写真撮影、聞き取り調査など二次調査を行った。

ウ 調査結果

今年度は、粕川地区、富士見地区で悉皆調査を実施した。昨年度の実施結果から二次調査の対象物件を抽出し、40件ほどの建築物について二次調査を行い、基礎的なデータを得ることができた。

エ 今後の予定

来年度も、引き続き緊急雇用創出事業として事業の採択を受けている。来年度は、追加調査及び報告書の作成を行う予定である。

② 山車・屋台総合調査

ア 調査の目的

前橋市内に現存する江戸・明治期の山車・屋台の調査を実施することで、貴重な山車・屋台の状況を把握し、さらに、それらをリスト化する事により、今後の保存活用の資料とするために実施。

イ 調査期間

平成22年8月22～23日

ウ 調査対象

江戸～明治期に創建された前橋市内に現存する山車及び屋台。

エ 調査について

今年度は、元總社地区（1区、3区、4区）と西善町、山王町において5物件の調査を実施した。日本工業大学黒津教授の指導の下、図面作成のための基礎的なデータ収集及び写真撮影を行い、さらに地元の方の協力を頂いて組立も可能な限り実施し、实物に即したデータの収集にも努めた。

オ 今後の予定

来年度も、引き続き市内山車・屋台調査事業として事業の採択を受けている。来年度は、南橋地区ほか他地域での調査及び年次報告書の作成を行う予定である。



元總社地区での山車調査風景

(10) 山王廟寺範囲内容確認調査現地説明会

・日 時

平成22年10月23日（土）

午前10時～午後3時

・場 所

前橋市總社町總社2780番地1ほか
(日枝神社境内・発掘調査現場等)

・来場者数

250名

・実施内容

解説ポイント6ヶ所 [①日枝神社（塔心礎・石製鶴尾・根巻石）→②推定中門→③塑像出土土坑・掘立柱建物跡と集瓦造構→④山王廟寺以前の住居跡・新たに確認された版築→⑤掘立柱建物跡（布掘り工法）と、遺物が大量に出土したくぼみ→⑥都丸氏宅の石製鶴尾→⑦遺物展示] をめぐりながら説明を行った。

1班15名程度で順路をまわり、開始から終了までは概ね50分間を要した。なお、説明回数は約18回行った。遺物展示では、今年度の発掘調査で出土した瓦のほか、過年度の発掘調査で出土した瓦や、塑像・寺院復元図のパネルを展示した。

・成果

当日は天候にも恵まれ、参加者は250名を数えた。その中には家族での参加者も見られた。また、毎年見学に来るリピーターが多く見られた一方で、新たな参加者も見られたことから、広報活動（市広報・ホームページへの掲載、回覧・チラシ配布、新聞報道）が成果を得ていると考えられる。なお、市内在住の参加者が多数を占める一方で、市外（県内・県外）からの参加者もいたことから、山王廟寺の発掘調査とその成果が、より広域で注目を浴びていると思われる。

《展示・説明方法》

遺物の展示方法を工夫したり、各種説明看板や復元図を掲示することとした。また、寺院の伽藍配置をテープで線引きして明示するなど、視覚的な情報を増やすことで、参加者にわかりやすい説明を行うように心掛けた。

《市民の反応等》

説明会時に、参加者から山王廟寺に関する質問や疑問のほか、普段感じている文化財に対する想いを直接聞くことができ、市民と行政の良い意見交換の場となった。



掘立柱建物跡（布堀り工法）

○ 来場者へのアンケート結果

Q. 山王庵寺を知っていますか。

- A. 知っている：35人
知らない：2人

Q. 塼像や瓦が出土したことを知っていますか。

- A. 知っている：32人
知らない：5人

Q. 見てよかったです（複数回答）

- A. 日枝神社：20人
塼像と集瓦遺構：12人
古墳時代の住居跡・版築：23人
布堀りの建物跡：15人
出土品展示：13人
その他：3人

Q. 現地説明会に来るのは何回目。

- A. 初めて：7人
2～3回：12人
それ以上：16人

Q. 山王庵寺の説明会に来たことはありますか。

- A. 始めて：14人
ある：18人

Q. 住んでいるところ（任意回答）

- A. 元総社地区：10人
総社地区：4人
市内：14人
県内：5人
その他：2人

Q. 年齢（任意回答）

- A. 中学生～20歳：2人

41～60歳：11人

60歳以上：22人

Q. 性別（任意回答）

- A. 男性：26人
女性：10人

なお、アンケート記入意見としては、発掘現場や遺物を時下に見ることができて感激した旨や、個々の遺構・遺物に対する疑問のほか、説明会の開催や、出土した遺物を展示する機会や施設を設けて欲しいという要望も寄せられた。

・課題

山王庵寺の範囲内容確認調査も22年度で終了となるが、これまでの説明会で高まった市民の文化財への関心を後退させないため、今後も出前講座等の講演会のほか、学校への出前授業、発掘調査速報展示の開催など、積極的に発掘調査の成果の還元を図り、普及活動に努める必要がある。



現地説明会パンフレット（表）



現地説明会パンフレット（裏）

4 埋蔵文化財発掘調査事業

(1) 平成22年度の発掘調査を振りかえって

ア 発掘調査事業

詳細は、平成22年度埋蔵文化財発掘調査一覧表に掲載した通りである。発掘調査件数は17件で、直営事業7、委託事業9、民間対民間事業1である。総調査面積 17,091 m²で、直営 4,641 m²、委託 10,160 m²、民間対民間 2,290 m²であった。

①山王庵寺

平成9年度、下水道敷設工事に伴う立会調査によって塔本塑像群が発見された。さらに平成11年度、「塑像埋納土坑」について個人所有地の発掘調査を行った。塑像群の発見が大きな契機となって、平成12年度から『山王庵寺等調査委員会』が発足した。委員会は平成12から17年度までの6年間、国府や総社古墳群などの周辺史跡の整備構想や調査計画の審議を行ってきた。その後、機が熟した平成18から22年度までの5ヵ年事業として範囲内容確認調査を実施する運びとなった。

この調査によって今まで未解決であった主要伽藍の規模、内容が明らかにされた。これを受け 8,062.39 m²が第一次追加指定となった。

第一次追加指定 (平成20年3月28日付官報告示)

【変更前】

名称「山王塔趾」・指定年月日 昭和33年2月7日指定・面積 214.86 m²

【変更後】

名称「山王庵寺跡」・変更年月日 平成20年3月28日・指定面積 8,277.25 m²

平成22年度調査の概要

○南回廊の調査…南回廊幅の確定にあたり2ヵ所の調査区を設定したが、回廊の根拠となる版築は検証できなかった。その結果、回廊版築の施工範囲は中門とその周辺に限定されたものと考えられる。

○塑像埋納土坑…塑像埋納土坑の範囲を確定するために、平成9・11年度出土地点から養蚕農家住宅をはさんだ南に調査区を設定した結果、当初の想定どおりここまで埋納土坑は延びていなかった。住宅の敷地の中で収束するものと考えられる。しかし、新たに瓦を埋めた集瓦施設と建物跡が発見された。

○建物基壇跡…回廊の北東区域に検出されている N-30° - Wにふれる倉庫群と角度を同じくする基壇建物跡が、回廊と重複関係を持って検出された。版築層に礫や瓦を敷き詰めている。重複関係は把握していないが従来の成果から回廊より新しい遺構と考えられるが、回廊とかなり近接した時期といえよう。なお、平成20年度に調査した2号建物跡も見直しを行った結果、N-30° - Wのふれる方位をとることから、本遺構と同一時期の所産と改めることとした。

②元総社蒼海遺跡群 (32・33)

3ヶ所の調査を行ったが国府に関係した遺構の検出はなかった。その中で検出された白色粘土を広範囲に採掘した粘土採掘坑は特筆に値する。おそらく国府の各施設の

基壇版築材料を採掘した跡の可能性が考えられる。

③元總社蒼海遺跡群（34）

奈良・平安時代の住居跡 18軒などが検出された。そのうち竈の構築材に基壇建物に使用された角閃石安山岩の切石が転用されていた。おそらく国分寺から搬入されたものと思われる。

④元總社蒼海遺跡群（35）

縄文時代の住居跡 1、古墳～平安時代の住居跡 26軒、掘立柱建物跡 2棟などが検出された。このうち 6世紀初頭の住居跡 5軒から幅 12～28cm の柵状施設が検出された。また、3区の 5×4間の掘立柱建物跡は元總社蒼海遺跡群（9・10）で検出した大型建物跡（3間×10間）とほぼ同じ N-68° 一直線に振れをもつ。

⑤元總社蒼海遺跡群（36）

古墳時代の畠跡や平安時代の水田跡のほか竈構築材の採掘坑が検出された。このほか浅間 B 軽石が上層に堆積する南西から北東に延びた大きな堀跡（幅 8.0m×深さ 2.4m）が検出された。この堀の両側にも竈構築材の採掘坑が認められた。

⑥元總社蒼海遺跡群（37）

古墳時代後期から平安時代の住居跡が狭い中に重複して 102軒も検出された。報告書作成業については平成 23 年度に委託する予定である。

⑦元總社早道遺跡

日高道に隣接する遺跡である。奈良・平安時代の住居跡が 10 軒以上検出された。灰釉陶器、綠釉陶器の出土が顕著であった。

⑧前橋城（南曲輪地点 No.2）

再築前橋城の堀跡 1条のほか、5世紀末葉の大型埴輪の破片がまとまって出土したことから、周囲に盟主墳が存在していた可能性が強い。

⑨前橋城（臨江閣北側土壘）

調査地は、臨江閣の北側である。風呂川両側に伸びる土壘の調査を行った。砂質土を用いた高さ 1m の土壘には、13枚を数える版築堆積層が認められた。

⑩朝倉伊勢西遺跡 No.1

平安時代の住居跡 24軒と平安時代の水田跡と広大な平坦地が検出された。

⑪六供遺跡群（中央医療生協）

完形土器を多数出土した古墳時代前期の住居跡 1軒の調査を行った。

⑫公田池尻 No.2 遺跡

平安時代浅間 B 軽石に覆われた水田跡の調査を基礎部分について実施した。

⑬原之郷中子遺跡

古墳時代後期の住居跡 2軒の調査を行った。竈から出土した土製支柱は精巧に作っていた。

⑭山王若宮 IV 遺跡

山王若宮遺跡については過去 3 回の調査が実施されている。今回の調査では、古墳時代前期の遺物包含層と古墳が 2 基検出された。そのうち 1 基は帆立貝形古墳であった。残りはあまり良くなかったが、それでも一部に葺き石や形象埴輪の出土がみられた。石室はおそらく横穴式石室と考えられるが、すでに掘削を受けていた。

⑯朝倉工業団地埋蔵文化財確認調査

懸案であった朝倉工業団地についても用地取得が進み確認調査を行った。その結果、大部分から浅間B軽石に覆われた平安時代の水田跡、その下から古墳時代後期のFPF-1によって覆われた水田跡が発見された、また、一部ではあるが古墳時代の前期集落、後期の集落がそれぞれ1ヶ所から発見された。今後、道路建設や工場建設に伴って調査が必要となる。

イ 遺跡台帳整備事業

文化財保護法第95条に規定されている埋蔵文化財包蔵地を把握し、周知するための遺跡分布地図作成に向けて平成15年度より分布調査及び資料整備を開始した。調査は前橋市全域を対象とし、調査地区を16ブロック（旧前橋12、旧町村4）に区分けし、さらに調査する1ブロックを一筆毎に分け悉皆的に現地踏査を行う。踏査・準備を詳細に行うには、作業に従事する人数はもちろん日数も必要である。踏査後に遺物、図面整理にあたる。平成22年度を目標とした「前橋市遺跡分布地図」刊行に向けて、豊富な経験と技術を有する臨時職員を雇用し、計画的かつ効率的に進めている。

平成22年度は旧市内の踏査を計画したが、市街地化が進行しているため諦めざるを得なかった。

【前橋市遺跡分布地図作成年次別計画】

- ① 平成15年度 城南地区
- ② 平成16年度 元総社・総社・清里地区
- ③ 平成17年度 桂萱・永明地区
- ④ 平成18年度 南橋・芳賀地区
- ⑤ 平成19年度 東・上川瀬・下川瀬地区
- ⑥ 平成20年度 大胡地区・城南地区
- ⑦ 平成21年度 富士見地区
- ⑧ 平成22年度 旧市内、前橋市遺跡地図素図完成
- ⑨ 平成23年度 前橋・大胡・宮城・粕川地区
遺跡分布地図印刷原稿作成
- ⑩ 平成24年度 富士見地区遺跡分布地図作成
前橋市遺跡分布地図印刷・配布

具体的な作業は、以下のとおりである。

- 1/5,000の現形図に過去の調査履歴や指定文化財等を記入する。
 - 遺跡カード・台帳の作成
 - 現地踏査で採集した遺物の水洗・注記・分類・集計・図化
 - 1/5,000の現形図に踏査成果を整理し、遺跡分布地図の原図の作成
- なお、隣接市町村はすでに遺跡分布地図が完成しているため、隣接市町村との整合が必要となる。

ウ 遺跡資料整備事業

本事業は、埋蔵文化財発掘調査によって記録された各種資料や出土遺物等の整備を行い、その成果を広く市民に周知することが目的である。

具体的には、①各種展示、②パンフレットの作成、③発掘調査要覧の作成である。①の埋蔵文化財資料の展示は、文化財展をはじめ元氣 21、けやきウォーク、サンデンフォレスト、文化財保護課玄関、柏川歴史民俗資料館、総社資料館、大室公園管理事務所ホール、市内各公民館や小中学校などで行っている。次に②の普及パンフレット作成は小中学生を対象にした普及パンフレット「い・せ・きワールド in 前橋」を 7000 部印刷し、学校および公共施設に配布している。また、元総社蒼海区画整理地域を対象にした「解明！古代群馬の中心 上野国府跡」を 5000 部印刷し毎戸配布した。③の発掘調査遺跡要覧は、すでに実施した緊急発掘調査のうち報告書が作成されていなかった未整理発掘調査遺跡の遺物整理を行い調査要覧を作成し、台帳整備の基礎資料にするとともに普及啓発の材料とすることを目的とする。

具体的な作業の内容を挙げると、遺物については、注記、接合、実測、トレース、拓本、版組、写真撮影を行う。遺構図面に関しては、全体図作成、遺構図作成など行った上で、編集、校正を行い、最終的には PDF ファイルとし CD に焼付けと 5 部プリントアウトして製本する。

要覧概要… 1 遺跡 6 ページ程度を基本

一覧表・発掘調査抄録・解説文など…	2.5 ページ
位置図、周辺図、グリッド図、遺構全体図…	2.0 ページ
遺構全景写真、遺構写真、遺物写真…	1.5 ページ

平成 22 年度については富士見地区の作成予定であったが、宮城・柏川地区要覧の作成が遅延したため、富士見地区については平成 23 年度にずれ込むこととなった。富士見地区の要覧が刊行でき次第、旧前橋市の未整理遺跡の要覧作成に移行したい。

具体的には、山王廃寺第 1 次調査、王山古墳、前橋天神山古墳や昭和 54~56 年度の富田遺跡群、西大室遺跡群、清里遺跡群、鶴谷遺跡群がほとんど手付かずのままで残されている。

【発掘調査未整理遺跡数】

大胡地区…	68 遺跡
宮城地区…	17 遺跡
柏川地区…	89 遺跡
富士見地区	17 遺跡
合計	191 遺跡

【要覧作成年次計画】

- 平成18年度…大胡地区要覧(1)・60遺跡、PDFで編集しCD化
- 平成19年度…大胡地区要覧(2)・8遺跡、PDFで編集しCD化
- 平成20年度…宮城・柏川地区要覧(1)・50遺跡、PDF編集しCD化
- 平成21年度…宮城・柏川地区要覧(2)・56遺跡、PDF編集しCD化
- 平成22年度…作成済み要覧点検・確認
- 平成23年度…富士見地区要覧・17遺跡、PDF編集しCD化
- 平成24年度以降 山王廃寺第1次調査、王山古墳、前橋天神山古墳
富田遺跡群、西大室遺跡群、清里遺跡群、鶴谷遺跡群など

このほか、発掘調査遺跡全体図集成も逐次行って行く必要がある。特に元総社若海遺跡群については上野国府関係から集成作業を行っているが、他の遺跡群についても同様に集成を行っていく必要がある。

エ 開発に伴う事前協議

開発に伴う事前協議と遺跡地図データのG I S化…合併による市域の拡大に伴い增加の一途を辿っている。月平均150件以上、年間にして1,800件もの協議に対応した。このうち1,000m²を超える大規模な開発や周知の遺跡や隣接するもの、上野国府や山王廃寺、古墳など重要遺跡については試掘調査を行った。試掘件数56件であり、このうち調査に移行したものは2件であった。このほか立会調査が28件であった。今後、開発協議に迅速に対応するために、遺跡地図の再整備とG I S整備を早急に進める必要がある。

【遺跡地図の前橋市統合型G I S搭載】

- | | |
|--------|-------------------------|
| 平成20年度 | データ項目入力作業、(156遺跡、指定文化財) |
| 平成21年度 | データ項目入力作業、遺跡範囲の線引き |
| 平成22年度 | データ項目入力作業、遺跡範囲の線引き |
| 平成23年度 | データ項目入力作業、遺跡範囲の線引き |
| 平成24年度 | データ項目入力作業 |

(2) 平成22年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表

遺跡名	コード	代表地番	調査面積	方式	調査原因	調査期間
1 元総社蒼海遺跡群(32)	22A130-32	元総社町3095-2	1,678	直営	区画整理	22/05/10~22/12/27
2 元総社蒼海遺跡群(33)	22A130-33	元総社町1377-1	2,142	直営	区画整理	22/05/10~22/12/27
3 元総社蒼海遺跡群(34)	22A130-34	元総社町1694-1	805	委託	区画整理	22/06/24~22/09/08
4 元総社蒼海遺跡群(35)	22A130-35	元総社町1389	1,235	委託	区画整理	22/08/05~23/01/11
5 元総社蒼海遺跡群(36)	22A130-36	元総社町3136-1	1,640	委託	区画整理	22/09/09~22/10/08
6 元総社蒼海遺跡群(37)	22A130-37	元総社町2049-1	1,330	委託	区画整理	22/12/01~23/03/28
7 山王庵寺	22A135	総社町総社2426	411	直営	範囲確認	22/08/24~22/12/24
8 元総社草道遺跡	22A143	元総社町770	525	直営	宅地造成	22/04/19~22/04/26
9 上細井北遺跡群No.3	22B18	富士見町時沢地内	30	直営	道路改良	22/11/04~22/11/05
10 公田池尻No.2遺跡	22G70	公田町556-1	220	委託	保育園移転	22/06/24~22/06/30
11 須倉伊勢西遺跡No.1	22G71	須倉町160	3,500	委託	道路改良	22/12/15~23/03/15
12 六供遺跡群No.6	22H52	六供町101-7	670	委託	区画整理	22/08/02~22/10/08
13 前橋城(南曲輪地点No.2)	22H49	大手町一丁目地内	235	委託	道路改良	22/06/24~22/08/06
14 六供遺跡群(中央医療生協)	22H51	六供町813-1	160	委託	施設建設	22/10/04~22/10/05
15 原之郷中子遺跡	22L1	富士見町原ノ郷地内	150	直営	宅地造成	22/05/13~22/05/14
16 前橋城(庭園北側土壠)	22H53	大手町三丁目地内	30	直営	道路改良	22/11/22
17 南部拠点地区遺跡群No.6	22G73	新堀町	2,290	民兵	店舗建設	23/03/07~23/03/29

(3) 平成22年度 埋蔵文化財報告書一覧表

番号	報告書名	遺跡名	発行者	発行年月日	備考
1	元総社蒼海遺跡群(31)	元総社蒼海遺跡群	前橋市教育委員会	2010.12.17	
2	元総社蒼海遺跡群(32・33)	元総社蒼海遺跡群	前橋市教育委員会	2011.03.23	
3	元総社蒼海遺跡群(34)	元総社蒼海遺跡群	前橋市教育委員会	2011.03.11	
4	元総社蒼海遺跡群(35)	元総社蒼海遺跡群	前橋市教育委員会	2011.02.10	
5	元総社蒼海遺跡群(36)	元総社蒼海遺跡群	前橋市教育委員会	2011.03.11	
6	山王庵寺	山王庵寺	前橋市教育委員会	2011.02.21	
7	南部拠点地区遺跡群No.4	南部拠点地区遺跡群	前橋市教育委員会	2010.09.30	
8	南部拠点地区遺跡群No.5	南部拠点地区遺跡群	前橋市教育委員会	2010.09.30	
9	六供遺跡群No.6	六供遺跡群	前橋市教育委員会	2010.12.25	

(4) 平成22年度 立会調査一覧表

所在地	開発面積 m ²	開発原因	調査年月日	調査結果
1 横越町	4,000.00	ガソリンスタンド建設	2010.04.13	埋蔵文化財検出なし
2 横沢町	430.00	個人住宅建設	2010.04.17	埋蔵文化財検出なし
3 下大島町	1,597.35	老人ホーム建設	2010.04.22	埋蔵文化財検出なし
4 下小出町二丁目	1,486.65	店舗又は家庭建設	2010.04.23	埋蔵文化財検出なし
5 横沢町	430.00	個人住宅建設	2010.04.30	埋蔵文化財検出なし
6 横越町	87.24	個人住宅建設	2010.05.31	埋蔵文化財検出なし
7 大手町二丁目	148.81	個人住宅建設	2010.06.01	埋蔵文化財検出なし
8 豊沢町	19.36	携帯電話基地局建設	2010.07.15	埋蔵文化財検出なし
9 鉢川町一日市	5.85	鉄塔撤去	2010.07.20	埋蔵文化財検出なし
10 市之郷町	200.00	携帯電話無線鉄塔建設	2010.07.26	埋蔵文化財検出なし
11 柳町	18.49	携帯電話無線鉄塔建設	2010.07.26	埋蔵文化財検出なし
12 鉢川町一日市	7.08	鉄塔撤去	2010.08.20	埋蔵文化財検出なし
13 元総社町	3,377.30	独身寮取り壇し	2010.09.07	埋蔵文化財検出なし
14 笹井町	-	公共下水道事業	2010.09.10	埋蔵文化財検出なし
15 鉢川町室沢	35.74	携帯電話無線基地局建設	2010.09.28	埋蔵文化財検出なし
16 六供町	-	公園整備	2010.09.30	埋蔵文化財検出なし
17 下佐鳥町	10.24	携帯電話基地局建設	2010.10.06	埋蔵文化財検出なし
18 公田町	178.18	携帯電話基地局建設	2010.10.13	古代溝・中世溝
19 鉢川町一日市	5.91	鉄塔撤去	2010.11.22	埋蔵文化財検出なし
20 鉢川町中之沢	18.00	携帯電話基地局建設	2010.12.02	埋蔵文化財検出なし
21 鉢川町一日市	28.00	鉄塔撤去	2010.12.06	埋蔵文化財検出なし
22 高井町一丁目	1,697.00	集合住宅建設	2010.12.17	奈良・平安時代住居跡
23 高井町一丁目	1,697.00	集合住宅建設	2010.12.27	遺構面確認
24 江木町	17.64	携帯電話基地局建設	2011.02.21	埋蔵文化財検出なし
25 柳島町	5.00	浄化槽設置	2011.02.23	埋蔵文化財検出なし
26 富士見町時沢	20.00	携帯電話基地局建設	2011.02.24	埋蔵文化財検出なし

(5)平成22年度 試掘調査一覧表

所 在 地	開発面積 m ²	開発原因	調査年月日	調 査 結 果
1 総社町総社	1,200.00	個人住宅建設	4月5日	整穴住居跡、土師器
2 西大室町	2,369.00	老人ホーム建設	4月13日	遺構の検出なし。縄文土器
3 元總社町	3,707.00	宅地造成	4月15日～16日	平安時代住居跡、土師器、須恵器、灰釉陶器等
4 朝倉町	819.79	宅地造成	4月20日	埋蔵文化財検出なし
5 小屋原町	2,731.00	デイサービスセンター等	4月20日	埋蔵文化財検出なし
6 大瀬町二丁目	2,880.00	消防署建設	4月23日	平安時代住居跡、溝跡、土師器、須恵器
7 六供町	921.31	集合住宅建設	4月26日	埋蔵文化財検出なし
8 納川町月田	1,055.00	道路築造	4月27日	埋蔵文化財検出なし
9 横沢町	3,007.00	コンビニエンスストア建設	4月27日	埋蔵文化財検出なし
10 鳥取町	2,000.00	体育館改築	5月6日	埋蔵文化財検出なし
11 上大屋町	999.00	集合住宅建設	5月11日	遺構の検出なし。縄文土器、石器
12 富士見町原之郷	1,904.00	宅地造成	5月12日	埋蔵文化財検出なし
13 箱田町	105.49	個人住宅建設	5月21日	遺構の検出なし。土師器
14 総社町総社	1,845.00	土地区画整理事業	5月18日～20日	古代・中世以降溝跡、土師器・須恵器・石器等
15 六供町	1,800.00	土地区画整理事業	5月17日～19日	古墳時代住居跡、溝、土師器・須恵器
16 総社町総社	2,752.00	宅地造成	5月25日	埋蔵文化財検出なし
17 公田町	1,990.00	保育園建設	5月26日	平安時代水田跡、中世以降溝跡
18 富士見町時沢	997.00	集合住宅建設	5月28日	遺構の検出なし。縄文土器・土師器・須恵器・石器
19 富士見町時沢	1,219.00	集合住宅建設	6月3日	埋蔵文化財検出なし
20 真毛石町	2,000.00	道路築造	6月18日	埋蔵文化財検出なし
21 上泉町	1,000.00	道路建設	6月17日	新田塚古墳墳丘端部・周堀
22 富士見町原之郷	1,619.00	宅地造成	6月17日	埋蔵文化財検出なし
23 元總社町	344.00	土地区画整理事業	6月22日	古墳・平安時代住居跡、溝跡、土坑等
24 堀越町	413.00	個人住宅建設	6月30日	埋蔵文化財検出なし
25 下大屋町	2,156.99	コンビニエンスストア建設	7月22日	遺構の検出なし。土師器片
26 富士見町時沢	214,000.00	土地改良事業	7月27日	古代住居跡、土師器片
27 野中町	1,928.42	ガソリンスタンド建設	8月10日	埋蔵文化財検出なし
28 六供町	1,052.16	介護施設建設	8月25日	古墳時代住居跡、中世以降溝跡、土師器等
29 西片貝町二丁目	867.22	宅地造成	8月26日	中世溝跡、土師器片
30 横沢町	223.15	個人住宅建設	8月26日	遺構の検出なし。石器片
31 大瀬町二丁目	2,880.00	消防署建設	9月2日	中世以降溝跡、土師器・須恵器片
32 小屋原町	4,600.00	道路建設	9月7日～9月9日	溝跡、土坑、土器片、須恵器、陶器片
33 前箱田町	193.00	個人住宅建設	9月13日	平安時代水田跡
34 富士見町原之郷	356.93	個人住宅建設	9月14日	埋蔵文化財検出なし
35 富士見町小暮	1,115.09	教会建設	10月8日	遺構・遺物の検出なし。
36 青梨子町	2,400.00	道路建設	10月13日	土坑、土師器、須恵器
37 朝倉町	7,200.00	道路建設	10月15日～18日	平安時代住居跡、溝跡、水田跡、土師器、須恵器
38 五代町	900.00	道路建設	10月19日	埋蔵文化財検出なし
39 茂木町	825.00	宅地造成	10月21日	陶文・奈良住居跡、土坑、構築等、縄文土器、土師器等
40 文京町四丁目	160,000.00	土地区画整理事業	10月25日～26日	埋蔵文化財検出なし
41 池端町	3,431.00	寺院建設	11月9日	埋蔵文化財検出なし
42 二之宮町	462.64	個人住宅建設	11月18日	奈良時代住居跡、溝跡、土師器
43 桶越町	295.37	個人住宅建設	11月19日	縄文時代土坑、縄文土器
44 大手町三丁目	1,489.00	道路建設	11月22日	前横城土壘
45 下新田町	6,559.88	店舗建設	12月7日	埋蔵文化財検出なし
46 茂木町	18,599.00	公園建設	12月14日～15日	奈良時代住居跡、溝跡、縄文土器、土師器等
47 桶越町	919.25	個人住宅建設	1月17日	埋蔵文化財検出なし
48 大友町二丁目	204.33	個人住宅建設	1月21日	埋蔵文化財検出なし
49 上青梨子町	2,700.00	道路建設	1月25日	埋蔵文化財検出なし
50 北代田町	2,161.00	宅地造成	2月17日	遺構の検出なし。土師器片
51 下佐島町・龜里町	195,904.85	土地区画整理事業	1月11日～2月17日	古墳～平安時代水田跡、古墳時代住居跡
52 荒口町	993.11	集合住宅建設	3月1日	埋蔵文化財検出なし
53 東片貝町	3,932.00	宅地造成	3月3日	埋蔵文化財検出なし
54 古市町	2,997.00	宅地造成	3月8日	平安時代水田跡

(6) 平成22年度埋蔵文化財発掘調査の内容

① 元總社蒼海遺跡群 (32) (22A130-32)



遺跡位置図

事業名 元總社蒼海土地区画整理事業

所在地 前橋市總社町總社

調査期間 平成22年5月10日から

平成22年12月27日まで

担当者 山下敬信・瀧澤重雄・坂本高広・並木勝洋・福田貴之・阿久澤智和

調査面積 1,678 m²

調査の経緯 平成22年4月19日付で前橋市長高木政夫(区画整理第二課)より、元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。これを受けて、平成22年5月10日から発掘調査を行なった。

調査の成果 元總社蒼海遺跡群(32)の調査地は3ヵ所に分かれており、西から1区、2区、3区とした。

1区からは住居跡1軒、土坑1基、道路状遺構1条、ピット1基を検出した。調査面積が狭いことから、遺構の検出数は少なかった。

2区からは住居跡1軒、土坑2基、溝跡2条、ピット2基、竪穴状遺構2軒、土坑墓1基を検出した。調査区の中央から北側にかけて多くの住居跡が確認された。検出した住居跡の年代は古墳時代と平安時代に大別されるが、住居数は平安時代のほうが多い。また、古墳時代の竪穴住居跡にある竪左袖付近からほぼ完全な形の瓶が出土した。さらに蒼海城に関連すると思われる大溝が南北に確認された。

3区からは住居跡2軒、土坑7基、溝跡2条、ピット10基を検出した。調査区の全般で多くの住居跡が検出されたが、特に東側では複数の住居跡が密接に重複した形で検出された。検出した住居跡の年代は古

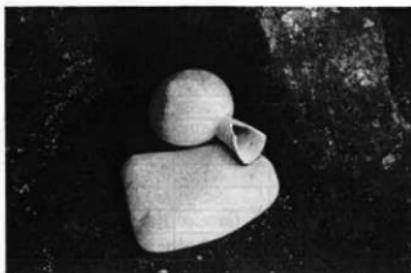
墳時代と平安時代を中心であり、国府があった時代の住居跡は検出されなかった。国府に近すぎたために居住制限がかけられていたと推測できる。古墳時代の住居跡は竪の袖がしっかりと残っており、1軒の中から蓮瓣石が18個出土した住居跡もあった。



3区住居跡のかまど



2区土坑より出土の土器



2区出土の瓶

② 元總社蒼海遺跡群 (33) (22A130-33)



遺跡位置図

事業名 元總社蒼海土地区画整理事業

所在地 前橋市總社町總社

調査期間 平成 22 年 5 月 10 日から

平成 22 年 12 月 27 日まで

担当者 山下敬信・瀬澤重雄・坂本高広・並木勝洋・福田貢之・阿久澤智和

調査面積 2,142 m²

調査の経緯 平成 22 年 4 月 19 日付で前橋市長高木政夫（区画整理第二課）より、元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。これを受けて、平成 22 年 5 月 10 日から発掘調査を行なった。

調査の成果 元總社蒼海遺跡群 (33) の調査地は 5 カ所に分かれており、北から 1 区、2 区、3 区、4 区、5 区とした。

1 区からは住居跡 6 軒、土坑 5 基、井戸 1 基等を検出した。

2 区からは住居跡 4 軒、土坑 7 基、溝跡 2 条、墓坑 1 基、井戸 5 基、粘土採掘坑等を検出した。粘土採掘坑は、調査区の南で確認された。



3 区溝出土状況

4 区からは、住居跡 10 軒、土坑 14 基、井戸 1 基、溝 1 条等を検出した。

5 区からは、住居 6 軒、土坑 11 基、井戸 2 基、溝 6 条等が検出された。

特筆すべき遺物としては、4 区からは住居跡から土師器・須恵器の高盤が 2 点出土した。5 区住居跡から硯が出土した。

また、特筆すべき遺構としては、2 区からは、白色粘土採取を目的とした粘土採掘坑跡が検出された。また、2 区からは東西方向、3 区からは南北方向、4 区東西方向、5 区からは南北方向に走る溝が検出された。この溝は蒼海城の堀と推定されるが、さらに検証が必要な遺構である。

今回の調査では過去の蒼海遺跡群の調査に続いて、推定国府周辺の集落の広がりと変遷を考える資料を得ることができた。



5 区溝出土状況



2 区発掘風景

3 区からは住居跡 10 軒、土坑 24 基、溝跡 3 条、堅穴状遺構 2 基、墓坑 2 基等を検出した。



5 区住居跡硯出土状況

③ 元總社蒼海遺跡群(34)
(22A130-34)



事業名 元總社蒼海土地区画整理事業

所在地 前橋市元總社町 1694-1 他

調査期間 平成 22 年 7 月 9 日から

平成 22 年 9 月 10 日まで

担当者 神宮 啓(前橋市教育委員会)・瀬田哲夫(技研測量設計株式会社)

調査面積 805 m²

調査の経緯 平成 22 年 6 月 3 日付けで前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より前橋市教育委員会にあった。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織への業務委託については、前橋市の合意も得られたため、平成 22 年 6 月 24 日付けで前橋市と技研測量設計株式会社との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。

調査の成果 泰良・平安時代の堅穴住居跡 18 軒、平安時代から近世の溝跡 13 条、堅穴状遺構 5 基・土坑 26 基・ピット 14 基、中世の土壙墓 3 基が検出され

た。

検出された堅穴住居跡は律令期(8 世紀後半から 9 世紀後半)に該当するものが 8 軒確認されており、南北軸の規模は 8 世紀後半では 4m を超えるが、9 世紀になると 3m 程となる。律令期以後(10 世紀前半から 11 世紀代)の住居跡は 9 軒確認されているが、律令期と比べ主軸方向、南北軸の規模にバラつきが認められる。特徴的な住居跡としては、2 区 H-1 の竪構築材に国分寺の基壇建物の化粧材を転用した角閃石安山岩の切石を使用しているものがある。



中世の遺構として 2 区 F-2-3-8 の上幅約 2.50m、深さ約 1.00m の断面逆台形状を呈する比較的大規模な溝が検出されている。この溝が同時期に機能していたかは不明であるが、土地の区画に大きく係わる遺構といえる。

④ 元總社蒼海遺跡群(35)
(22A130-35)



事業名 元總社蒼海土地区画整理事業

所在地 前橋市元總社町 1389 ほか

調査期間 平成 22 年 8 月 10 日から

平成 22 年 10 月 23 日まで

担当者 神宮 啓(前橋市教育委員会)・佐野良平(技研測量設計株式会社)

調査面積 1,235 m²

調査の経緯 平成 22 年 7 月 8 日付けで前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より前橋市教育委員会にあった。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織への業務委託については、前橋市の合意も得られたため、平成 22 年 8 月 5 日付けで前橋市と技研測量設計株式会社との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。

調査の成果 元總社蒼海遺跡群(35)は調査区が区画整理区域内に点在するため 1~3 区に区分した。

染谷川左岸台地上の 1・2 区からは、縄文時代前期の堅穴住居跡 1 軒、古墳

～平安時代の堅穴住居跡 26 軒、掘立柱建物跡 2 基、溝跡 6 条等を検出した。

出土遺物としては、1 区 H-18 より 7 世紀中葉と推定される畿内土産土器壺が出土しており、国府との関連が考えられるものである。

牛池川左岸の 3 区からは、古墳時代の堅穴住居跡 12 軒、掘立柱建物跡 1 基、溝 2 条を検出した。検出された堅穴住居跡は、ほぼすべてが 6 世紀代に収まると推定され、そのうち H-7~11においては住居内に櫛状の施設が確認された。この櫛状施設は住居内の東・南壁で検出され、幅 12~28cm、床面からの高さ 4~30cm を測るが、その用途は今後の検討を必要とする。また、3 区から検出された 5×4 間の掘立柱建物跡は、主軸を N-60°-E にとり近隣で調査を実施した元總社蒼海遺跡群(9)(10)で検出した大型建物跡と主軸をほぼ同じくするものである。

遺跡位置図



⑥ 元總社蒼海遺跡群(36)
(22A130-36)



遺跡位置図

⑥ 元總社蒼海遺跡群(37)
(22A130-37)



遺跡位置図

事業名 元總社蒼海土地区画整理事業

所在地 前橋市元總社町 2044 ほか
調査期間 平成 22 年 9 月 9 日から
平成 22 年 12 月 10 日まで

担当者 神宮聰(前橋市教育委員会)・荻野博巳(スナガ環境測定株式会社)

調査面積 1,640 m²

調査の経緯 平成 22 年 7 月 29 日付けて前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より前橋市教育委員会にあった。市教育委員会では、直當による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織への業務委託については、前橋市の合意も得られたため、平成 22 年 9 月 9 日付けて前橋市とスナガ環境測定株式会社との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。

調査の成果 調査区は 1~5 区に区分し、1 区: 古墳時代の畠跡、平安時代の水田跡 2 区: 平安時代と推定される載石探

事業名 元總社蒼海土地区画整理事業

所在地 前橋市元總社町 2049-1 ほか
調査期間 平成 22 年 12 月 1 日から
平成 23 年 3 月 28 日まで

担当者 神宮聰(前橋市教育委員会)・日沖剛史(有限会社毛野考古学研究所)

調査面積 1,330 m²

調査の経緯 平成 22 年 11 月 1 日付けて前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務依頼が前橋市より前橋市教育委員会にあった。市教育委員会では、直當による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織への業務委託については、前橋市の合意も得られたため、平成 22 年 12 月 1 日付けて前橋市と有限会社毛野考古学研究所との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。

調査の成果

調査は 1 区と 2 区に区分し実施した。

1 区からは堅穴住居跡 93 軒、溝 13 条、土坑 41 基、柱穴 18 基、堅穴状遺構 1 基が検出された。検出された堅穴

跡、中世の溝跡 3 区: 古墳~平安時代の堅穴住居跡、溝跡、井戸跡、土坑等 4 区: 平安時代の溝跡、載石探査跡、う蒼海城の堀跡 5 区: 蒼海城の堀跡が検出された。

2 区で検出された載石探査跡は、長さ 80~85cm、上幅 25~28cm、深さ 25~30cm で、規模もほぼ同じで規格性があり、専門的に探査を行っている状況が確認できた。

3 区から検出された堅穴住居跡 17 軒は、出土遺物から平安時代を主体とする集落と推定され、窓も南東隅に付くものが検出され、構築材に平瓦や丸瓦を使用している。

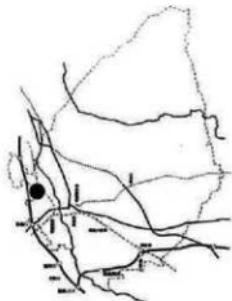
4 区で検出された As-B 軽石が上層に堆積する平安時代の溝跡は、南西から北東方向に延び、幅 8.0m、深さ 2.4m を測り、両岸に載石探査跡が確認された。

5 区では蒼海城本丸の南・西側の堀跡を検出したが、調査面積の都合により立ち上がりの一部を検出するにとどまった。

住居跡は古墳時代後期(6~7 世紀代)と平安時代(9~11 世紀代)に帰属し、その多くは平安時代と想定される。また、古墳時代後期の堅穴住居跡は調査区全体でまばらに確認されるが、平安時代の堅穴住居跡は東側へ向かうにつれ、密集度を増す傾向にあることが捉えられた。検出された 13 条の溝のうち 2 条は蒼海城との関連が窺われるものである。2 区からは堅穴住居跡 9 軒、溝 3 条、土坑 4 基、柱穴 9 基、井戸 1 基が検出された。堅穴住居の全ては平安時代に帰属する。井戸は石組みであり、出土遺物から 10 世紀代と想定される。調査区内からは鉄滓の出土が多く見られるため、付近に製鉄関連の遺構の存在が想定される。



⑦ 山王庵寺範囲内容確認調査 (22A135)



遺跡位置図

事業名 山王庵寺範囲内容確認調査

所在地 前橋市總社町總社 2426 ほか

調査期間 平成 22 年 8 月 24 日から

平成 22 年 12 月 24 日まで

担当者 山下歳信・阿久澤智和

調査面積 411 m²

調査の経緯 山王庵寺は總社町總社山王地区に所在し、7世紀後半に建立されたと考えられている古代寺院である。山王庵寺については、寺院の範囲や伽藍配置が不明確なため、平成 18 年度から 5 カ年計画で寺院の範囲と伽藍配置の内容を確認するための発掘調査を実施しているが、今年度は 5 カ年計画の最終年次の調査を行った。

調査の成果 平成 22 年度は(1)回廊の範囲確認(2)寺域の確認を目的として調査を行った。これらの目的を達成するために、合計 12 ヶ所にトレンチを設定し調査した。

(1) 回廊の範囲確認について

今年度の回廊の調査については、南回廊の調査を行った。南回廊については、平成 20 年度調査において版築土が確認され、平成 21 年度調査において回廊南西隅付近で版築土及び隕石標付底、さらに中門跡と考えられる版築土と大量の瓦が確認された。こうした調査結果から南回廊についてはほぼ位置が確定したものの、再度の確認のために調査を行った。



南回廊調査 (50 トレンチ) 全景 (西から)

調査の結果、一部が搅乱を受けていたが、堅穴式住居 1 軒、土坑が確認された。しかし版築に関係する積土や回廊に関係する遺構は確認できなかった。さらに西に隣接してトレンチを設定し調査を行ったが、そこでも回廊に関係する遺構等は確認できなかった。

(2) 寺域の調査について

寺域の調査については①北西部②北部・北東部(北方建物群付近)③西部(塑像埋納土坑の範囲確認)の調査を行った。

①北西部においては、古墳時代から平安時代の堅穴式住居 9 軒、溝 1 条、基壇建物 1 棟が確認された。特に基壇建物については掘込地業を行って築かれ、版築十内には礫を混入していた。また確認された基壇の辺が北西方向を、寺院北方で確認されている建物群と共に通する特徴を持つこと、さらに西側回廊と重複関係をもつことが指摘できる。なお基壇下から瓦片や土器片とともに溝に伴う石列が確認された。なお、寺域の区画等に関係した遺構は確認できなかった。



建物基礎全景 (45d トレンチ) (北西から)

②北部・北東部においては平安時代の堅穴式住居 7 軒、溝 1 条、掘立柱建物 2 棟のほか、小鎧治造構、溝状造構を確認した。溝については、以前の調査で確認されていた寺域北限域の溝の延長と考えられる。また、掘立柱建物については、1 棟は柱穴内に礫石を持ち、もう 1 棟は布堀工法によるものである。2 棟とも北西方向に軸を持つことから、これまで確認されてきた同方向に軸を持つ建物との関連が考えられる。なお、溝状造構からは膨大な量の瓦・土器片等が出土した。

③西部においては、平安時代の堅穴式住居 1 軒、掘立柱建物 1 棟のほか、「集瓦造構」が確認された。なお、調査区内において塑像埋納土坑は確認されなかった。



集瓦造構 (49 トレンチ) 西から

⑥ 元総社早道遺跡 (22A143)



事業名 宅地造成

所在地 前橋市元総社町 770 ほか

調査期間 平成 22 年 4 月 19 日から

平成 22 年 4 月 26 日まで

担当者 山下恭信・岩丸慶久・澁澤重雄・神宮聰・坂本高広・
福田貢之・並木勝洋・阿久澤智和 (前橋市教育委員会)

調査面積 525 m²

調査の経緯 平成 22 年 3 月 12 日付けて宅地造成に伴う埋蔵文化財試掘調査依頼が平成土地建物株式会社 代表取締役 西村清弥より前橋市教育委員会にあった。これを受け市教育委員会では平成 22 年 4 月 15-16 日に試掘調査を実施した。試掘調査の結果、平安時代の住居跡等が確認されたため、遺跡の保存について協議を行ったところ、計画の変更が困難なため発掘調査による記録保存が必要となった。平成土地建物株式会社と調査費用の負担について了承が得られたため、平成 22 年 4 月 19 日より文化財保護課担当により発掘調査を開始した。

調査の成果 調査は宅地造成に伴い新設される道路部分について実施した。検出された遺構は、奈良・平安時代の

住居跡 15 軒、溝跡 1 条である。出土遺物は、土師器甕・壺、須恵器高台椀・壺、灰釉陶器、綠釉陶器等が出土した。

出土した遺構を概観すると、調査区北西付近では遺構の分布はまばらであるが、南東方向に行くにつれ濃密になる傾向が窺われた。また甕が確認された堅穴住居跡の大半は東側に甕を設けていた。出土した遺物を概観すると 9 世紀中頃から 10 世紀後半～11 世紀前半に属する土器が多い。部分的な調査であるため、全容を解することはできないが、9 世紀以前の遺物が少ないことは、該期における国府の範囲を物語るものであろう。また、内面に黒漆底が残る須恵器壺が 2 点確認された。1 点は破片ではあるものの底部から口縁部にかけて残存し、もう 1 点は 2/5 ほどの残存であるが、口縁部付近では痕跡が見受けられず、底部のみで痕跡が確認された。

本遺跡の西方に所在し、銅鏡や鉈尾、綠釉陶器などが出土した天神遺跡や綠釉陶器や円鏡などが出土した元総社弥勒遺跡などと同時期の集落であり、国府の在り方を考える際に興味深い。

⑦ 上細井北遺跡群 No.3 (22B18)



事業名 土地改良事業

所在地 前橋市富士見町時沢地内

調査期間 平成 22 年 11 月 4・5 日

担当者 岩丸慶久・神宮聰 (前橋市教育委員会)

調査面積 30 m²

調査の経緯 平成 22 年 7 月 14 日付けて土地改良事業に伴う埋蔵文化財試掘調査依頼書が上総井地改良区 理事長 長谷川富雄より前橋市教育委員会に提出された。これを受け市教育委員会で平成 22 年 7 月 27 日に試掘調査を実施したところ、古墳時代後期の堅穴住居跡が 1 軒確認された。開発計画により、遺跡の現状保存が困難なため発掘調査による記録保存を行うこととなり、市教育委員会担当者により平成 22 年 11 月 4-5 日の 2 日間実施した。

調査の成果 調査地の南側では、平成 20-21 年に発掘調査を実施し、古墳～奈良・平安時代の集落が確認されている。

今回の調査地は、土地改良事業区域の北側に位置し、舌状台地西側辺縫部にある。また、調査地西側は水路が南に流下し低地帯となっており、北側には自然地形の落ち込みが確認された。

今回検出された住居跡は、試掘調査時に掘削したトレンチを拡幅する形で検出作業を実施し、その概要は次のとおりである。

主軸方向 N49°-W 規模 長軸 4.63m、短軸 4.42m、壁厚約 52.5cm、面積 19.2 m² 床面 平坦で堅硬な床面で一部貼床有。周溝有。竈 東壁中央や南寄りに位置する。全長 118cm、最大幅 42cm、焚口部幅 26cm。構築材に粘土・石を用いる。出土遺物 敷数 35 点。土師器甕・壺。時期 植土や出土遺物から 7 世紀前半と推定される。



7 世紀代に入ると本調査区南側には群集墳が築造され、古墳時代後期から奈良時代の集落は北側の台地にシフトする。今回検出された住居跡もこれに該当するものと考えられる。

遺跡位置図

遺跡位置図

⑩ 公田池尻N.2 遺跡 (22670)



遺跡位置図

⑪ 朝倉伊勢西遺跡N.1 (22671)



遺跡位置図

事業名 保育園建設

所在地 前橋市公田町 556 番 1 ほか
調査期間 平成 22 年 6 月 24-25 日
担当者 岩丸辰久・神宮 啓 (前橋
市教育委員会)

調査面積 220 m²

調査の経緯 平成 22 年 5 月 21 日付けで祝昌第二保育園園舎移転新築工事に伴う埋蔵文化財試掘調査依頼が社会福祉法人 善心会 理事長 通外一雄より前橋市教育委員会にあった。これを受け市教育委員会では平成 22 年 5 月 26 日に試掘調査を実施した。試掘調査の結果、平安時代の水田跡等が確認され、遺跡の保存について協議を行ったところ、計画の変更が困難なため発掘調査による記録保存が必要となつた。社会福祉法人 善心会とは調査費用の負担(重機費用)について了承が得られたため、平成 22 年 6 月 7-9 日に立会調査、6 月 24-25 日文化財保護課担当により発掘調査を実施した。

調査の成果 発掘調査は遺構に影響を及ぼすと考えられる保育園基礎部分に幅 1~1.5m のトレンチを掘削し、浅間 B 軽石層 (1108 年に噴出した浅間 B テフラ) を遺構確認面として行ったが、海

雨と隣接地の田植え時期が重なつたため、確認面まで掘削すると多量の湧水が発生してしまつたため、遺構平面を確認するにとどまつた。

遺構確認の結果、平安時代後期の水田跡と平安時代から中世以降と推定される溝跡 4 条を検出した。

水田跡は厚さ約 5~10cm の浅間 B 軽石層下より計 5 本の畦畔を検出した。また、今回検出された溝跡のうち 3 条は調査地の東側隣接地で県道前橋・長瀬線道路改良工事に伴い発掘調査を行つた際に検出された多數の中世の溝跡と一連のものと考えられるが、東西に走行する溝跡 1 条には覆土上層に浅間 B 軽石の一時堆積層がみられることから、浅間 B 軽石障下以前の所産である。



竈は基本的に東竈となるが、H-14 のみ南竈であった。また、大量の炭化材・焼土が床面に検出された H-15-19 は焼失住居と考えられる。

また、微高地上では 14 条の溝跡を検出しており、やや小規模な南北方向に走行する溝跡と規模の大きな東西方向に走行する溝跡に大別できる。基本的に南北方向の溝跡が先行し、後にする東西方向の溝跡上に 9 世紀以降の住居跡が作られるため、9 世紀以前に機能していたものと推定される。

低地部底面には浅間 B 軽石が厚く堆積し、低地部から微高地上への立ち入り箇所には地形に沿つて畦畔状の高まりがあり、この高まりによって形作られる浅い溝跡も検出している。当初、低地部には水田が広がると想定されたが、水田面特有の土質でなく、葦・ススキ等の茂る湿地であったと考えられる。

② 六供遺跡群No.6 (22H50)



事業名 六供遺跡群No.6

所在地 前橋市六供町 319-2 ほか

調査期間 平成 22 年 8 月 16 日から

平成 22 年 10 月 8 日まで

担当者 藤坂和延（前橋市教育委員会）・樺田友寿（スナガ環境測設株式会社）

調査面積 670 m²

調査の経緯 前橋市が行っている前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴い平成 22 年 5 月 17～19 日に実施した試掘調査の結果、古墳時代の住居跡を検出したため市と協議を行った。現状での保存が出来ないことから、記録保存を目的とした発掘調査を行うことになった。前橋市教育委員会の指導のもとスナガ環境測設株式会社が発掘調査を実施した。

調査の成果 本調査の結果、古墳時代の住居跡 23 軒・土坑 8 基、周溝墓 2 基、井戸 1 基、中近世の土坑 7 基、溝 7 条、井戸状遺構 1 基、ピット 12 基が検出され、土師器、陶器、鉄製品などが出土した。

本遺跡の周辺には、古墳・奈良・平安の住居跡をはじめとする集落跡や、平安時代の水田跡が多く確認されており

り、当該期の遺物も多く出土した。

昨年に続き今回の発掘調査により古墳時代中期の住居跡を検出したことは、周辺に当該期の大規模古墳の存在しないことから、居住域と生産域ならびに墓域の占地・土地利用の在り方を考える上で貴重な成果といえよう。

また、周溝墓の検出も占地・土地利用における時代変遷を考える上で、今後の発掘調査への指針のひとつとして大いに期待される



B区北側調査区全景

遺跡位置図

③ 前橋城(南曲輪地点No.2) (22H49)



事業名 都市計画道路前橋公園通線
道路改良工事

所在地 前橋市大手町 123-5 ほか

調査期間 平成 22 年 7 月 6 日から

平成 22 年 8 月 6 日まで

担当者 神宮聰（前橋市教育委員会）・山崎芳春（有限会社歴史考房まほら）

調査面積 235 m²

調査の経緯 平成 22 年 1 月 27 日付けて都市計画道路前橋公園通線道路改良工事に伴う埋蔵文化財確認調査依頼が前橋市より前橋市教育委員会にあった。これを受け市教育委員会では、3 月 9～12 日に試掘調査を実施した。試掘調査の結果、再築前橋城の堀跡等が確認されたことから、記録保存を目的とした発掘調査について前橋市と調整に入り、5 月 31 日付けて発掘調査依頼が提出された。教育委員会では直當による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託して調査を実施することとした。平成 22 年 6 月 22 日付けて前橋市と有限会社歴史考房まほらとの間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。

調査の成果 検出された遺構は、再築前橋城堀跡 1 条、時期不明の堀跡 1 条・溝跡 1 条・土坑 1 基である。

再築前橋城の堀跡は二の丸外堀と推定され、慶応三年(1863 年)の再築前橋城絵図とも一致する。調査では南側の立上りを確認し、北側の立上りは 15m 以上先にあることを確認した。堀跡は安全面から底面まで掘り下げるはできなかったが、前橋城遺跡 I・II(2 次調査 1・2 号堀、6 次調査 2 号堀)の調査結果や利根川河川敷との比高差から深さは 8m 以上あると推測される。

時期不明の堀跡は貞享四年(1687 年)以降の前橋城絵図に描かれておらず、覆土から遺物も検出されないことから貞享四年以前の所産と推測される。

溝跡と土坑からは円筒埴輪・朝顔形埴輪・形象埴輪の破片が出土した。円筒埴輪の製作時期は 5 世纪末頃と想定され、この時期に本遺跡近接地に古墳が築造されていたことが推測できる。



遺跡位置図

⑩ 六供遺跡群(中央医療生活協)

(22H51)



遺跡位置図

⑪ 原之郷中子遺跡 (22L1)



遺跡位置図

事業名 老人ホーム建設

所在地 前橋市六供町 813-1 ほか

調査期間 平成 22 年 10 月 4 日から

平成 22 年 10 月 5 日まで

担当者 岩丸辰久・神宮聰(前橋市教育委員会)

調査面積 160 m²

調査の経緯 平成 22 年 8 月 20 日付けで老人ホーム建設に伴う埋蔵文化財試掘調査依頼が群馬中央医療生活協同組合 理事長 小林敏男より前橋市教育委員会にあった。これを受け市教育委員会では平成 22 年 8 月 25 日に試掘調査を実施した。試掘調査の結果、古墳時代の堅穴住居跡等が確認され、遺跡の保存について協議を行ったところ、計画の変更が困難なため発掘調査による記録保存が必要となった。群馬中央医療生活協同組合とは調査費用の負担について了承が得られたため、平成 22 年 10 月 4・5 日に文化財保護課担当により発掘調査を実施した。

調査の成果 調査は建物部分の保護層が確保できない基礎部分をトレーニングにて掘削して実施した。調査の結果、古墳時代前期の堅穴住居跡 1 軒、古代の溝跡 1 条・土坑 2 基、中世以降の堅

穴状造構 1 基、溝跡 7 条、土坑 2 基が検出された。

古墳時代前期の堅穴住居跡の形状は、ほぼ正方形を呈し北東隅に近いところから貯蔵穴と推定されるピットを検出した。そのピットのすぐ西には炉跡と推定される焼土も確認された。遺物は炉跡の北側に土師器の壺・壺・高杯等がまとまって出土している。



該期の住居跡は本調査区北側の六供下堂木Ⅱ遺跡、六供中京安寺等においても確認されており、周辺の地形を考慮すると、今回検出された住居はこれらの集落の立地する微高地の南側辺縁部に立地するものと推測される。

東側道路部分についてのみ実施した。調査の結果、古墳時代後期の堅穴住居跡 1 軒、時期不明の溝跡 2 条が検出された。

住居跡の概要は次のとおりである。

主軸方向 N=67°-E 規模 長軸 3.95m、短軸 3.56m、壁現高 20.5cm、面積 (13.5) m² 床面 平坦で堅緻な床面で一部貼床有。周溝有。電 東壁中央やや南寄りに位置する。全長 105cm、最大幅 55cm、焚口部幅 50cm。構築材に粘土を用い、左袖先端部に土師器甕、土師支脚を使用する。出土遺物 総数 36 点。時期 覆土や出土遺物から 6 世紀中葉と推定される。出土遺物のうち、土師支脚に注目したい。この支脚は高杯の脚部を製作する技法で作られている。あるいは、高杯を製作する途中で、目的を支脚に変更したとも考えられる。製作技法は高杯脚部と同じであるが詳細に観察を進めると、杯部との接合箇所は顕著な削り痕が、脚部にも削り痕が見られる。また、脚部には粗雑な透かし孔が四方穿たれる。内面は輪積み痕が未調整で残されている。実測図等は来年度に掲載したい。

⑩ 前橋城(臨江閣北側土塁)
(22H53)



遺跡位置図

事業名 都市計画道路県庁群大通線
道路改良工事
所在地 前橋市大手町三丁目地内
調査期間 平成 22年 11月 22日
担当者 岩丸辰久・神宮聰(前橋
市教育委員会)

調査面積 30 m²

調査の経緯 平成 22年 11月 16日付けで都市計画道路県庁群大通線道路改良工事に伴う埋蔵文化財確認調査依頼が前橋市より前橋市教育委員会にあった。これを受け市教育委員会では、11月 22日に確認調査を実施したところ、前橋城の土塁が確認されたため、現地にて土層断面調査等を実施し、記録保存を行った。

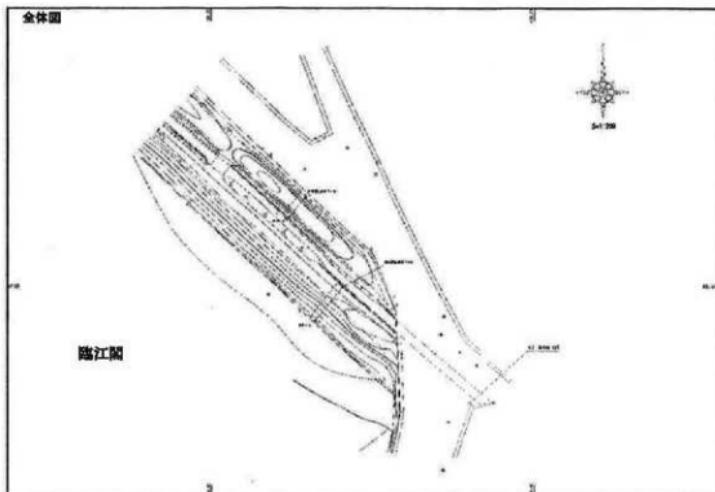
調査の成果 調査地は臨江閣北側に位置し、約 250 年前の前橋城絵図には堀(現在の風呂川)の両側に今回調査した土塁が既に描かれている。当時、土塁の南側には利根川から水を引き込んだ虎ヶ瀬があったが、再築前橋城の頃には空堀となっている。

今回の調査は、風呂川の両側にトレンチ 2 本を設定し土塁の確認作業を行ったところ風呂川の護岸工事及び両端の石積の土留工事により土塁の一部は

削平されていたが、版築状に砂質土を突き固めた盛土層が確認できた。特に北側の盛土層は約 1 m の範囲に 13 層を確認することができた。また、風呂川南側の土塁の最下層では人頭大から拳大の礫層を確認することができた。

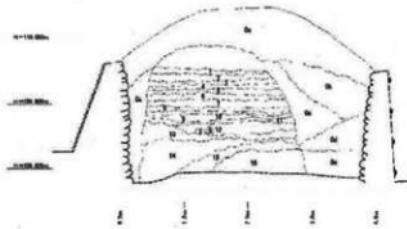


南側土塁断面写真



全体図

北側土壌断面図 S=1:20



北側土壌断面図

南側土壌断面図 S=1:20



南側土壌断面図

⑯ 朝倉工業団埋蔵文化財確認調査

(1) 調査地（開発予定地）の地番及び面積

- ①地番 前橋市下佐鳥町1-1、亀里町1077ほか
- ②面積 195,904.84 m²

(2) 試掘調査の面積

6,214 m² (トレーンチ総延長 6,214m×幅1m)

(3) 調査実施日

平成23年1月11日～2月17日

(4) 調査担当者

並木 勝洋・瀧澤 重雄・坂本 高広

(5) 調査の方法

調査開始に伴い、世界平面直角座標 (X : 39500 Y : -66900) を原点として、X軸を東西方向、Y軸を南北方向、北東隅を基点とする4m四方のグリッド(X-1.2.3…, Y-1.2.3…)を設定した。方眼杭およびB.M.杭については業者に委託し、方眼杭は40mピッチで、B.M.杭は80mピッチで打設した。

調査にあたっては面積が広大なため、調査区を1区から14区に区分した。(図 のとおり) 確認作業は、南北に20mピッチで34本のトレーンチを設定し、重機により浅間B軽石層(As-B層)、場所によっては榛名二ツ岳火山灰洪水層(Hr-FPF1層)まで掘削し、遺構確認を行った。その後、浅間C軽石混土層(As-C混土層)まで重機で掘削し、遺構確認を行った。また、下層の遺構を確認するために原則20m間隔で深堀をいたた。

記録保存として、各トレーンチの平面図(1:100)及び土層断面図(1:20)を作成し、35mmフィルムカメラ(モノクロ・リバーサル)及びデジタルカメラによる写真撮影を行った。



図1 朝倉工業団地の位置

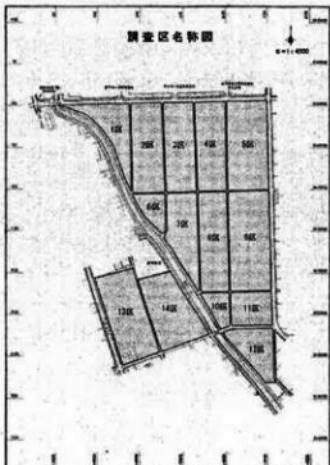


図2 朝倉工業団地調査区名称図

(6) 調査の結果

①検出した遺構

	古墳時代 As-C 下水田	古墳時代 Hr-PPF1 下水田	平安時代 As-B 下水田	住居跡	溝跡
1区	判定不可	○(畦畔)	-	-	○(古・中)
2区		○(畦畔)	○(畦畔)	-	○(古・中)
3区		○	○(畦畔)	-	○(古・中)
4区		○	○	-	○(古・近)
5区		○	-	○(古墳時代)	○(古・近)
6区		○(畦畔)	-	-	○(近)
7区		○	○(畦畔)	-	○(中・近)
8区		○(畦畔)	○(畦畔)	-	○(古・近)
9区		-	○(畦畔)	-	○(古)
10区		○(畦畔)	-	-	○(古)
11区		○(畦畔)	○(畦畔)	-	○(古・近)
12区		○(畦畔)	-	-	○(古・中・近)
13区		-	○(畦畔)	-	○(中・近)
14区		○	○	○(古墳時代)	○(古・中)

凡例 ○…有 -…無

As-C…浅間C軽石（4世紀前半）

Hr-PPF1…榛名ニツ岳火山灰洪水層（6世紀初頭）

As-B…浅間B軽石（1108年降下）

古…古代 中…中世 近…近世

②検出した遺物

土…土師器片 須…須恵器片 他…その他の遺物片

	土	須	他	器種（時代）
2区	40	2	石1	壺・高杯・甕（古墳）、内耳鍋・鉢（中世）など
3区	2			不明
5区	28	3	石1	甕（古墳）、壺・甕・蓋・灰釉（奈良平安）など
6区	1			壺（古墳）
7区		1		甕（奈良平安）
10区	1			不明
11区	1			壺（古墳）
12区	3			高杯（古墳）
14区	226	11	石2	壺・高杯・甕・小甕（古墳）、壺・甕・蓋（奈良平安）、鉢（中世）など

(7) 調査所見

調査の結果、ほぼ全面にわたって遺構・遺物が検出できたことから、本調査地は遺跡地として認定できる。遺跡の内容は、平安時代の水田跡、古墳時代後期の水田跡、中・近世の溝跡、古代の溝跡、住居跡である。

①平安時代の水田跡

平安時代の1108年に浅間山が大噴火を起こし、当時の群馬県下に大量の火山灰や軽石を降下させた。厚いところでは0.5mを超えて堆積しているが、本市域では0.2m前後である。これらの降下物は浅間B軽石(As-B)と呼ばれている。

本調査区では、図9のとおり、2・3・4・7・8・9・11・13・14区から浅間B軽石層が確認できた。特に9区では浅間B軽石が厚く水平堆積しており、15~20m間隔で畦が検出され、その畦がトレンチをまたいで続いている。他の区でも浅間B軽石層が水平堆積している箇所から畦が検出された。平安時代の水田が広がっていたと推定できる。

現地表から水田面までの深さは0.2~0.4m程度であり、浅間B軽石層の厚さは0.1m程度であった。

②古墳時代の水田跡

図10のとおり、1~12・14区から6世紀初め榛名山の噴火に由来する榛名ニツ岳火山灰洪水層(Hr-PPF1層)が確認できた。特に6・11区では小規模水田の畦が規則的に検出された。他にも1・2・8・12区から畦が検出されており、古墳時代後期(6世紀)の水田が広がっていたと推定できる。

現地表から水田面までの深さは0.4~0.6m程度であり、榛名ニツ岳火山灰洪水層の厚さは0.05m程度であった。

また、古墳時代前期については、浅間C軽石(As-C)混土(4世紀前半)を耕作土とする水田跡が検出されることがあるが、今回の調査では確認できなかった。ただし、図から分かるように浅間C軽石混土層が調査区ほぼ全域に堆積していることから、調査面積を広げることにより検出される可能性がある。

③中・近世の溝跡

図11のとおり、調査区を南北に流れている端気川に沿うようにして中・近世の溝跡が多数検出された。そのなかには浅間B軽石層(As-B層)が覆土中に確認できた中世の溝跡や川砂や石が堆積している近現代の河道などがあった。

溝跡の確認面までの深さは0.2~0.4m程度である。4・13区の河道は幅5mあり、整備される以前の旧端気川に関係する流水跡であると推定できる。

④古代の溝跡

図12のとおり、1~5・8~12・14区から古代の溝が検出された。特に4区の10トレンチで確認できた溝跡は8区の19トレンチまで続いている。

溝跡の確認面までの深さは0.4~0.7m程度である。

⑤住居跡

5区の3トレンチ東端では住居跡が確認できた。その住居跡からは4世紀の石田川土器(古墳時代前期)の破片が出土し、炉址と推定される焼土も確認できた。同じトレンチ内で住居跡がもう1軒検出された。遺物は確認できなかったが石田川の住居と同じ層位で確認できたことからほぼ同時期の遺構と推定できる。

14区の22トレンチ東端と24トレンチ東側でも住居跡が確認できた。22トレンチの住居

跡からは7世紀代の土師器の破片が出土し、21トレンチの住居跡からは6世紀初めの土師器小甕が出土した。また、竈跡と推定される焼土が見つかった。22~24トレンチ東側周辺からは4世紀の高杯の脚部や7世紀の土師器甕や壺の破片、など多数土器片が出土しており、検出された2軒だけでなく多くの住居が存在していたと推測できる。

隣接する川曲遺跡や下佐鳥遺跡からも古墳時代後期の住居跡が確認されている。



図3 2区1トレンチ出土遺物
(南から)



図4 5区1トレンチ全景
(西から)



図5 9区16トレンチAs-B畦
(南から)



図6 10区26トレンチHr-FPF1畦
(南から)



図7 14区24トレンチ住居跡
(西から)

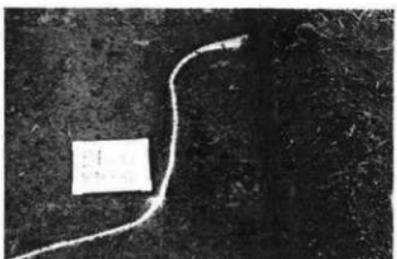


図8 14区24トレンチ竈跡
(西から)

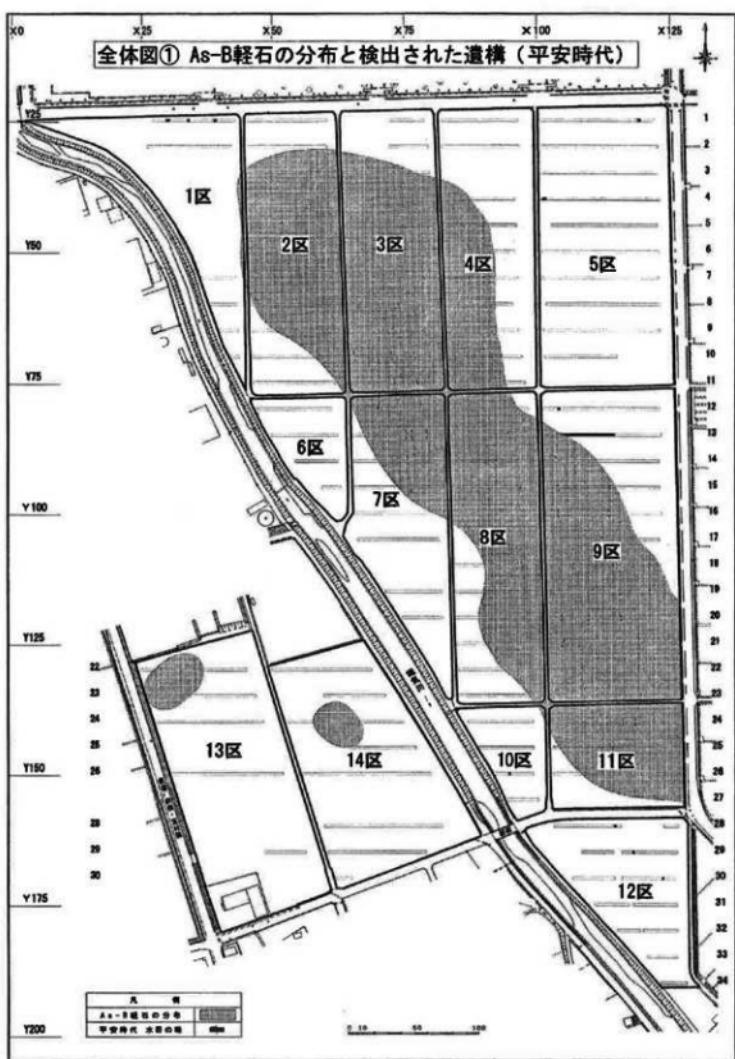


図9 As-B軽石の分布と検出された遺構（平安時代）

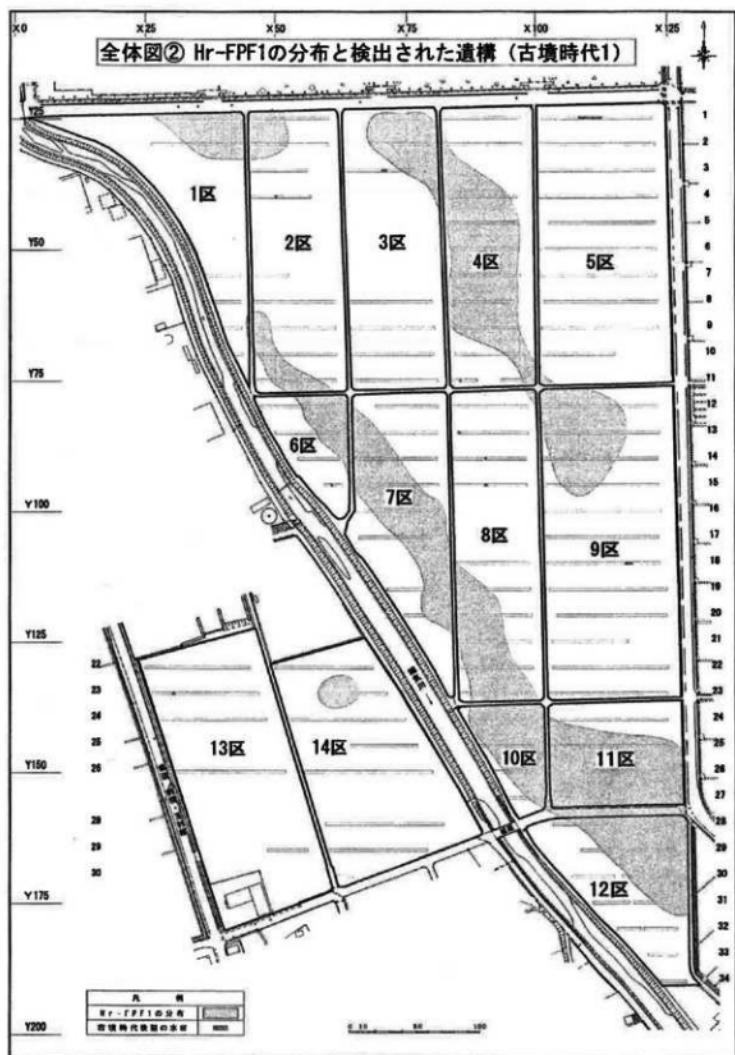


図 1 O Hr - FPF1 の分布と検出された遺構（古墳時代 1）

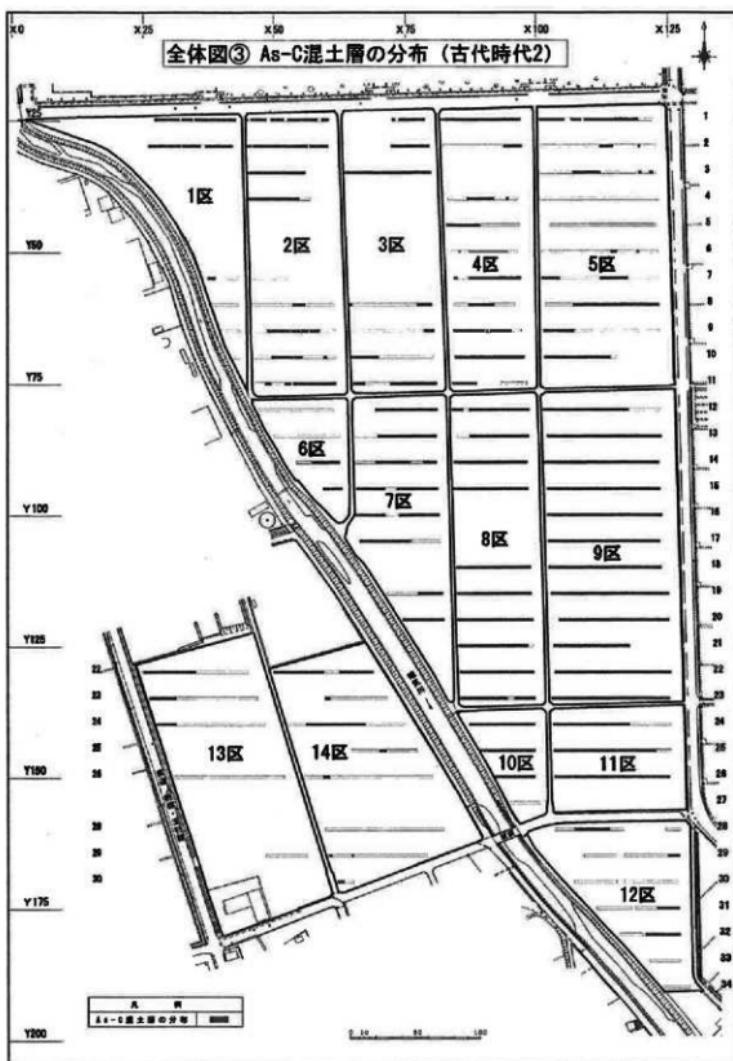


図11 As-C軽石の分布と検出された遺構（古墳時代2）

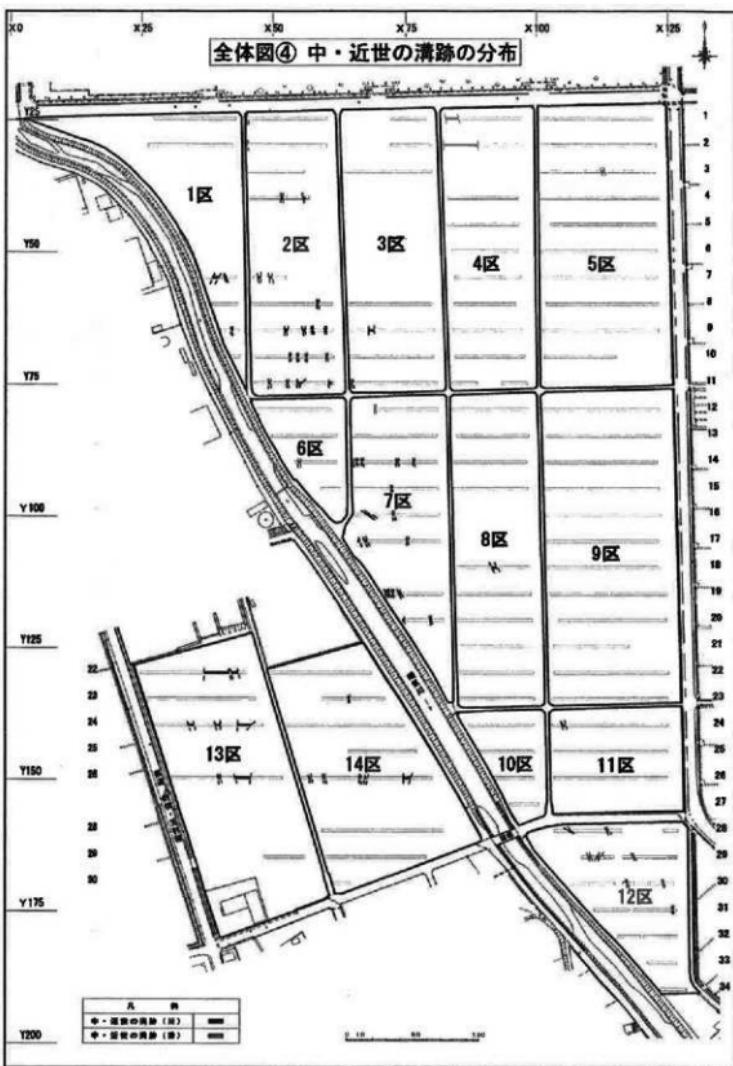


図12 中・近世の溝跡の分布

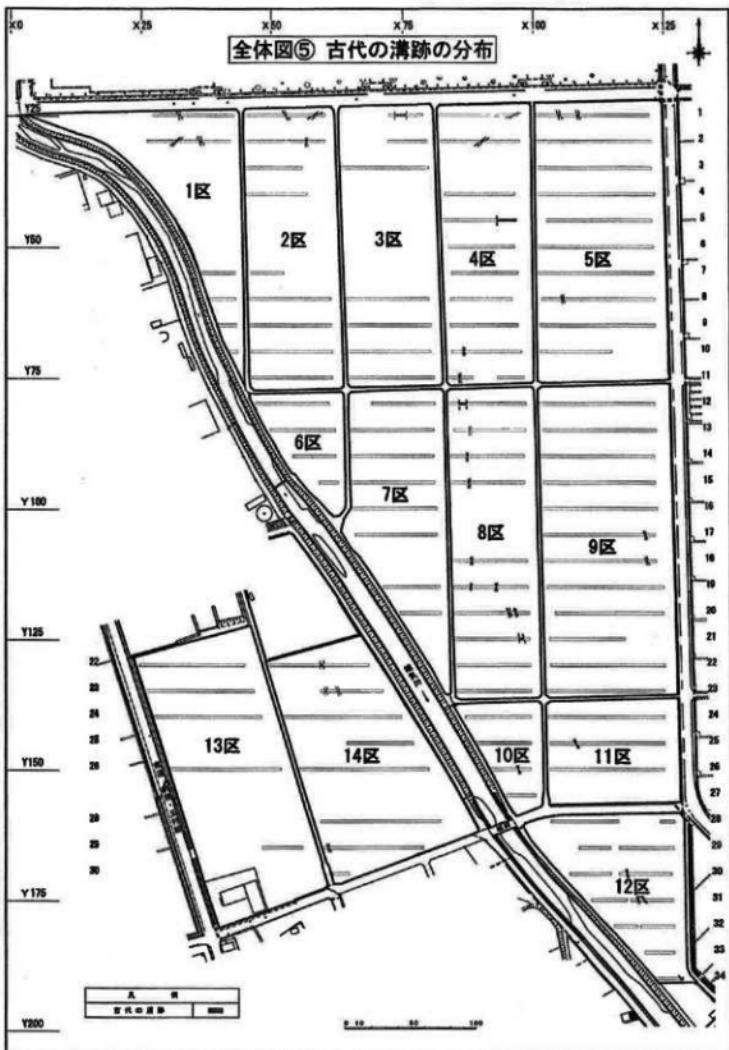


図13 古代の溝跡の分布

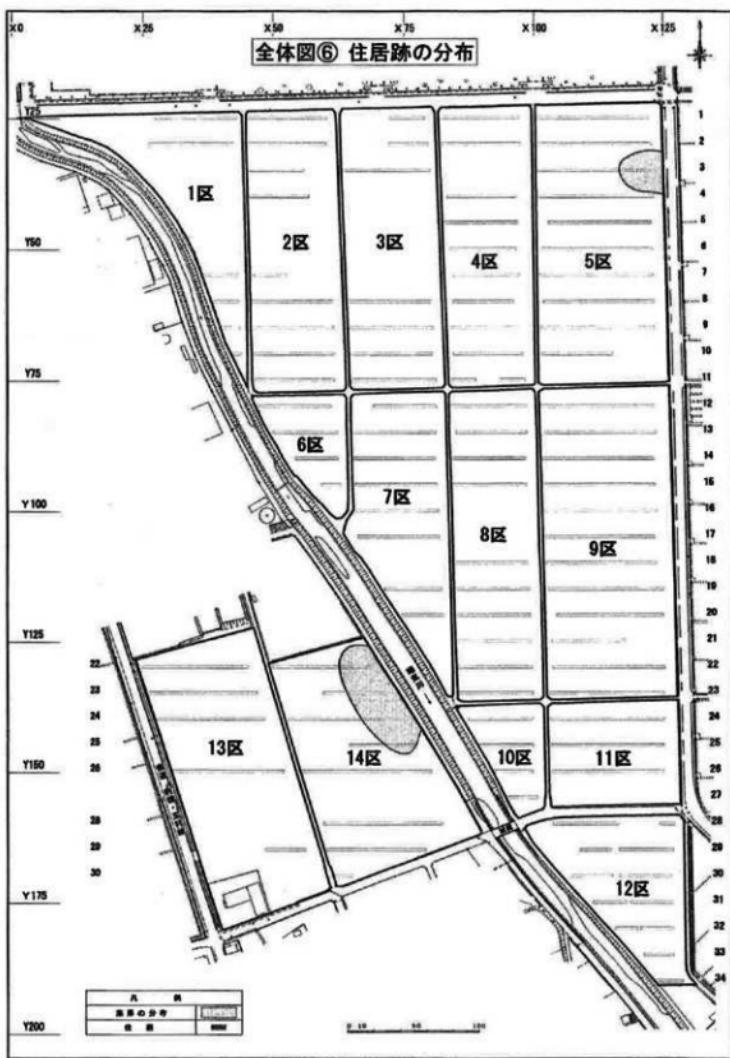


図 1 4 住居跡の分布

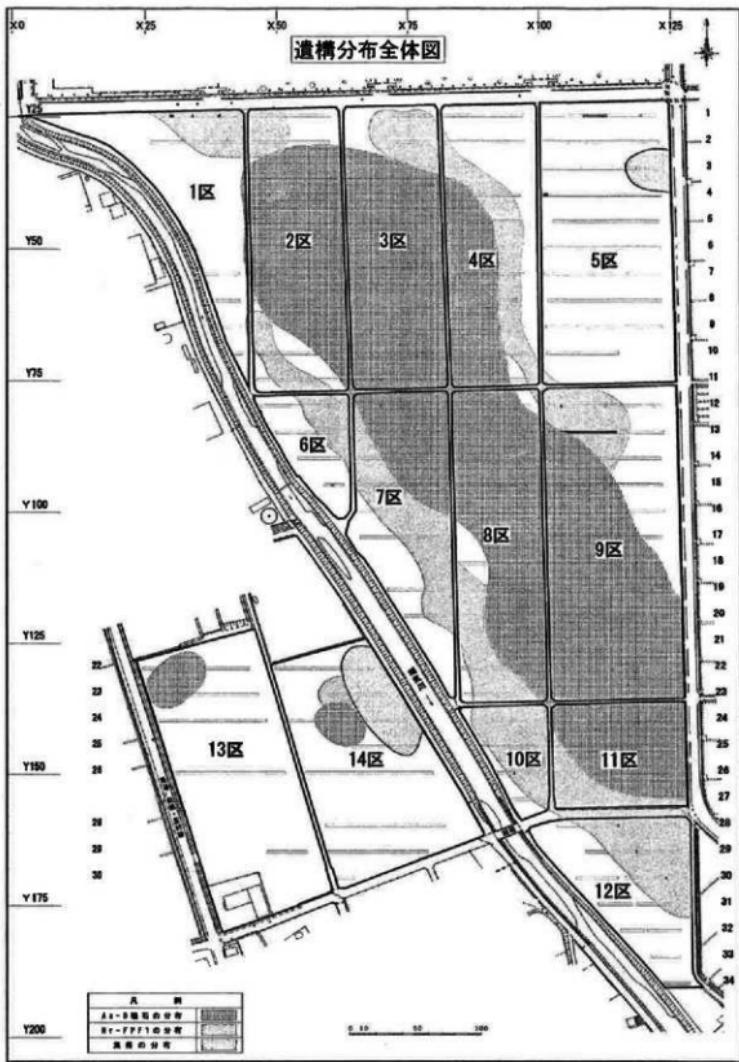
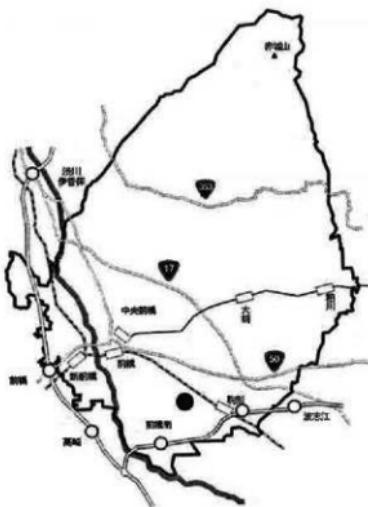


図 1.5 遺構分布全体図

⑩ 山王若宮IV遺跡 (21G66)

事業名 混合型特定施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
所在地 前橋市山王町 123 番地ほか
調査期間 平成 21 年 9 月 16 日～11 月 13 日
担当者 神宮 聰、沢田福宏
調査面積 1,095 m²



1 調査に至る経緯

医療法人社団清宮医院 理事長 清宮和之より介護付き有料老人ホームの建設に伴い平成 20 年 12 月 18 日付で埋蔵文化財試掘調査依頼書が前橋市教育委員会に提出された。これを受けて教育委員会で平成 21 年 1 月 15 日に試掘調査を実施したところ、古墳時代の住居跡等が確認されたため、医療法人社団清宮医院と遺跡の保護について協議を行った。協議の結果、計画している建物については、約 2m の深さまで掘削して基礎工事を行うため、保護層の確保が困難であることから発掘調査を行い記録保存することとなった。

発掘調査にあたっては、民間調査組織を導入することで医療法人社団清宮医院の同意を得られたことから平成 21 年 9 月 16 日付で医療法人社団清宮医院、有限会社歴史考房まほら、前橋市教育委員会の三者で埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、平成 21 年 9 月 24 日より発掘調査を開始した。

2 遺跡の位置と環境

1) 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合をへて関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯の四つの地域に分けられる。

本遺跡地は、前橋市街地から南東へ 6km、前橋市立山王小学校北側の前橋台地東端部の微高地に位置する。調査区のすぐ東側は旧利根川河川敷の広瀬川低地帯が広がっていることから、南東方向に僅かに下っている。

調査区周辺は、かつて一面に水田の広がる農村地帯であったが、宅地開発や幹線道路の整備等に伴い、現在は調査区西側に水田地帯を残す程度である。

周辺を走る主要幹線としては、南へ約 700m のところに県道高崎駒形線が走り、さらに南下すると北関東自動車道があり、インターチェンジも近くに設置され、さらなる整備・開発が進むものと思われる。

2) 歴史的環境

本遺跡周辺は、群馬県内でも有数の古墳分布地帯「広瀬・朝倉古墳群」に属する。「広瀬・朝倉古墳群」は、朝倉町を中心とする地域、広瀬町を中心とする地域、そして、山王町を中心とする地域の三つに分けられる。昭和 13 年発行の「上毛古墳總覽」によると本遺跡の属する山王地域には 34 基の古墳が存在していたと記されているが、現在では、本遺跡北西約 300m に位置する金冠塚古墳、文殊山古墳、阿弥陀山古墳がその形をとどめる程度である。山王若宮遺跡についてもすでに 3 回の調査が実施されている。その概要是以下の通りである。

山王若宮 I 遺跡 平成 9 年

山王若宮 II 遺跡 平成 12 年

山王若宮 III 遺跡 平成 13 年

山王若宮 IV 遺跡 今回

3 基本土層

調査区の北側及び南側にて基本堆積土層を確認するための深掘を行った。

北側では表土下が浅間 B 軽石混土層（周溝部は純層に近い状態で堆積）次いで榛名 F A 火山灰層が層厚は薄いが若干確認され、その下層が浅間 C 軽石混土層となる。この C 混土層は調査区全面の壁で確認されているため、ほぼ全体で堆積していたと考えられる。これより下層が漸移層を挟み水性ローム堆積の褐色土となる。褐色土下は砂礫層となり、湧水が認められる。この砂礫層は非常に固く締まり、砂と礫以外の土壤等の含有物は、ほ

とんど確認することはできない。

南側では表土下が北側同様、浅間B軽石混土層であるが、その下層では榛名F A火山灰層は確認できない。B混土層下は浅間C軽石混土層となり、北側の同層より、ややシルト質である。これより下層は同様な堆積であるが、砂礫層に上層の土壤が混入しややシルト質な砂礫層となり、北側のような純粹な砂礫層は形成されていない。調査区はおむね北西から南東に向かい緩やかに傾斜し、南東部及び南側では小谷が形成されていると推測される。

4 調査経過

9月16日(水)発掘調査開始のため、近隣住民の方にあいさつ通りを行う

9月18日(金)器材・資材の搬入を行う。

9月24日(木)重機により表土除去作業開始。切返し調査のため、今回は調査区東側

の表土を除去する。掘削は0.7m³のバックホー、廃土搬出は10tダンプを使用

9月28日(月)作業員による遺構確認作業開始。

1号墳、1号溝、1号住居跡を確認

10月1日(木)1号墳前方部分掘下げ作業。崩落石及び埴輪片確認

10月5日(月)主体部にサブトレを設定し、カク乱状況および、範囲の確認を行う。

10月9日(金)台風18号接近のため、作業中止

10月13日(火)調査区水没のため、排水作業。

1号墳主体部鉛査

10月15日(木)2号墳掘り下げ作業。谷部(遺物包含層)掘下げ作業。

空撮のための準備作業

10月19日(月)調査区全体清掃作業。ラジコンヘリコプターによる空撮

10月20日(火)0.45m³のバックホーにより、1号分の埴丘部を除去し、埴丘下の遺構確認を行う。(作業員8名)

10月26日(月)台風20号接近のため、作業中止

10月27日(火)第1次調査区の埋め戻し作業。掘削は0.45m³のバックホー、排土搬出

及び填厚は10tクローラーを使用

10月29日(木)調査区東側の表土除去作業開始。掘削は0.45m³のバックホー、排土搬出

10月30日(金)1号墳東側周溝、3号墳掘下げ作業。谷部(遺物包含層)掘り下げ

作業

11月9日(月)谷部(遺物包含層)の遺物取上げ作業。調査区全体の測量及び、写真撮影

11月10日(火)基本堆積土層確認用の深堀。器材撤収。本日にて現地調査を終了

11月12日(木)重機により埋戻し及び填圧作業。調査区を現況に戻し全作業終了

5 検出された遺構と遺物

時期 古墳時代

種類 古墳2基・住居1軒・堅穴状遺構2基・

溝1条・土坑4基・ピット5基

遺物包含層(谷地部に包含)

遺物 パン箱総数: 6箱

土器類: パン箱6箱 《埴輪・坏・甕・壺・器台・高坏等》

須恵器: 少量(小ビニール1袋) 《甕片・坏片等》

石: 少量(大ビニール1袋) 《敲き石・すり石等》

6 遺構と遺物

1) 古墳

1号墳…調査区ほぼ中央にて、帆立貝形古墳を1基検出した。確認面は旧耕作土下の浅間B軽石混土層を除去した面で、現地表面より約50~60センチ下である。墳丘は、後世の耕作等によるカク乱で破壊され、マウンドを形成する盛り土等は確認できなかった。主体部においても同様で、その痕跡を確認することはできなかった。特に埋葬施設推定部には、石取の痕跡だろうか、重機による爪跡が地山黒色土層(浅間C軽石混土層)を掘り抜き、カク乱が著しかった。このため、主体部が横穴式か堅穴式かについては、確認することができなかった。また、墳丘部縁には葺き石と考えられる川原石が多量に廃棄されている溝を確認した。この溝の中からは埴輪片が出土しており、円碟と一緒に廃棄されたものと考えられる。後世において、墳丘を削平した時に葺き石を除去し運搬する事が困難なため、溝を掘り埋めたものと推測される。周溝は明瞭に確認できた。地山褐色土を掘り込んでおり、一部を除き全体的に検出された。葺き石は、造り出し部で僅かに根石が残存しており、クリベ部西側においては、葺き石の崩落状況が顕著に確認できた。また、円筒埴輪片もこの部分より多量に出土し、形象埴輪片も極少量ではあるが出土している。帰属時期は、出土遺物及び特徴から6世紀前半から中葉であると考えられる。

2号墳…調査区北西隅で検出された。周溝の外周縁辺部のみの確認であるため、詳細は不明であるが、浅間B軽石が厚く堆積し、1号墳の周溝の堆積状況と同様であるため、古墳の周溝であると推測される。古墳本体は調査区北西部にあると考えられ、現況では平坦になっているが1号墳同等の規模の古墳であると推測される。

2) 溝

1号溝…調査区北東隅で検出され、溝の一部のみの確認である。墳丘及び主体部は検出されないことから、古墳とは考え難い。また、前回の調査においても古墳は検出されていない。遺物は確認できなかったが、溝の中からは角閃石安山岩がまとまって出土しており、特異な状況である。検出が一部のみであるため、詳細は不明であるが、溝の状況及び角閃石安山岩の検出状況等から、単に溝に廃棄されたものとは考え難い。

3) 住居跡

1号住居…調査区北東部で確認され、掘り方のみの検出である。遺物は出土しなかったが、1号溝との重複関係により、これより古い時期であると考えられる。

4) 壑穴状遺構

1・2号壙穴状遺構は、1号墳の墳丘下で検出され非常に小規模なものである。ともに掘り方のみの確認があるが、1号壙穴状遺構の覆土からは、床面で貼られていたと考えられる硬化土の小ブロックが確認された。極少量であるが遺物も出土している。帰属時期は石田川期であると考えられる。

5) 土坑

1号土坑は覆土に浅間B軽石を多量に含んでおり、B軽石降下以降の所産であると考えられる。

2・3・4号土坑は、1号墳下での確認のため、6世紀前半以前の所産であると推測される。ともに規則性は無く、性格は不明である。

6) ピット

確認された5基のピットは、全て1号墳下での検出である。配列及び規則性は無いが、少量の石田川期の遺物が出土している。ともに性格は不明である。

7) 遺物包含層

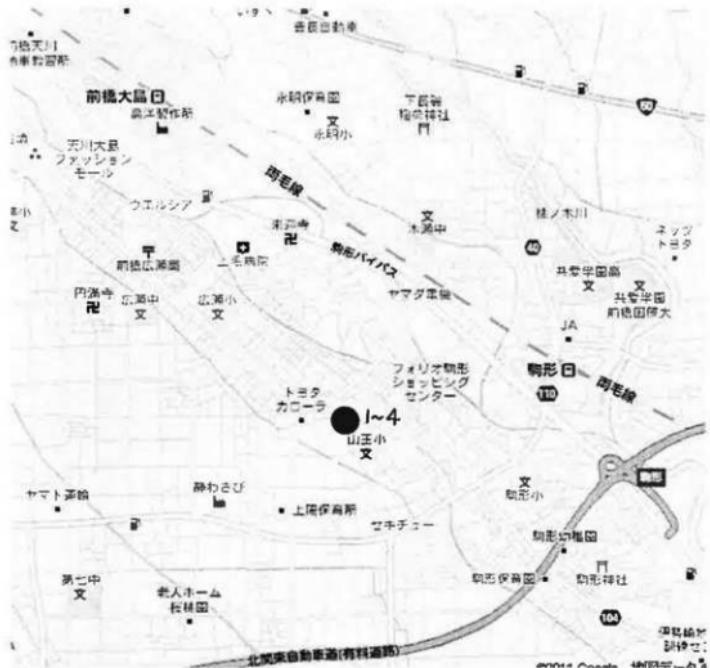
調査区北西から、南西に向かい多量の遺物群が検出された。遺物はそのほとんどが破片であるが、1個体がまとまってつぶれているような状況で出土している力所もあった。破損部は摩滅した痕跡はほとんど無く、遠距離からの流れ込みではないと考えられる。おそらく、周辺には集落があり、そこからの直接廃棄もしくは廃棄された遺物が谷状地形のため、流れ込んだものと推測される。覆土には浅間C軽石が含有しており、C軽石降下後、谷は埋没したと推測される。遺物は石田川期で、甕・壺・器台等が確認されている。祭祀遺物的な石製品等は確認できなかった。遺物を取り上げ、谷の底部を精査したが、遺構は確認されなかつた。この谷は蛇行し北西から南西に緩やかに傾斜しており、遺物群は調査区南西側にまだ広がっていると推測される。

8 まとめ

今回の発掘調査で、いまだ未確認であった古墳が2基確認された。特に1号墳に関しては帆立貝

形古墳であるため、この発見は広瀬古墳群における貴重な発見であると考えられる。残念なことに墳丘のほとんどは削平され、その詳細は不明であるが、今後の整理作業において時期の特定、埋葬施設の確認等を行い、詳細を検討するものとする。また、調査区北西部及び北東部にて古墳周溝の一部が確認され、調査区外に広がっている事も確認され、約1,000mにて2基確認されたことも貴重な発見である。

本調査区は段丘縁辺部という特徴的な地形に位置しており、この周辺にはいまだ確認されていない古墳が数多く埋没していると考えられる。また、1号住居、および墳丘下の壙穴状遺構・土坑・ピット、谷部の遺物包含層が確認されていることから、古墳群形成時期以前に集落等が存在したことが推測される。

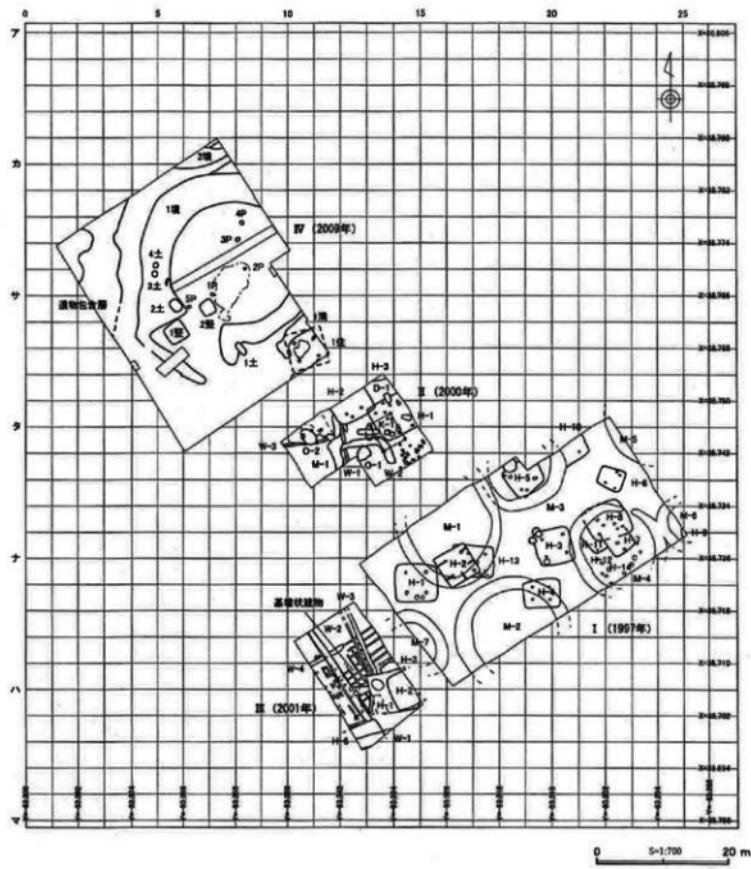


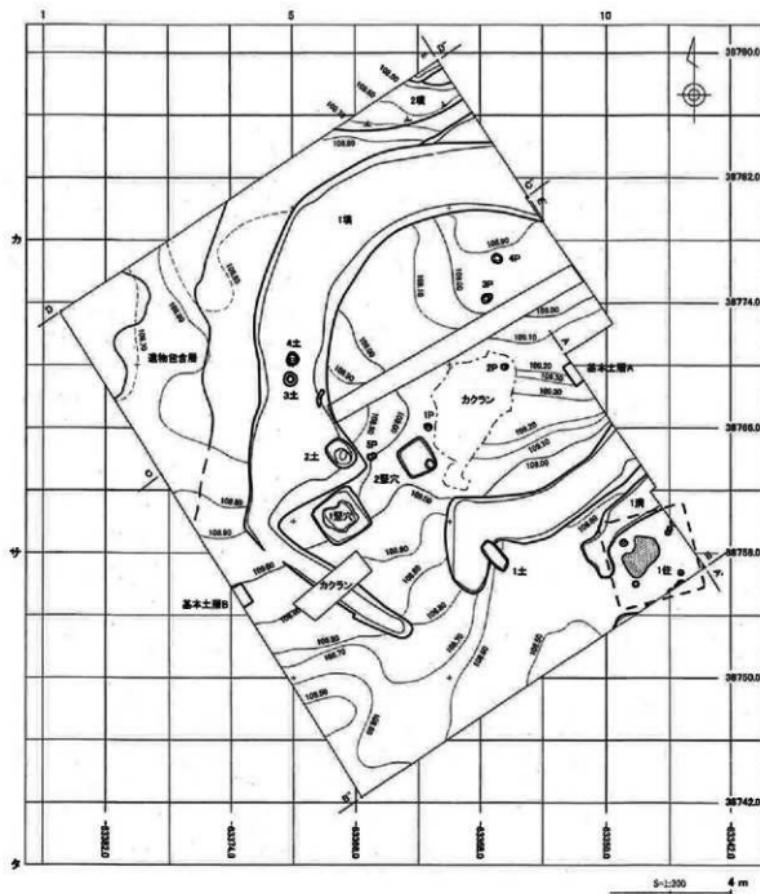
No.	遺跡名	面積	調査年月日	時代	遺構	遺物
1	山王若宮遺跡	966m ²	H9.9.1~9.30	古墳	住居跡14軒、円墳7基	土師器、形象・円筒埴輪
2	山王若宮II遺跡	275m ²	H12.8.18~9.25	古墳	住居跡3軒、土坑3基、溝3条、古墳周堤	土師器、円筒埴輪
3	山王若宮III遺跡	285m ²	H13.7.11~8.3	古墳~近世	住居跡6軒、土坑1基、溝5条、柱穴、井戸跡	土師器、石製模造品
4	山王若宮IV遺跡	1,095m ²	H21.9.16~11.13	古墳	住居跡1軒、古墳2基	土師器、形象・円筒埴輪

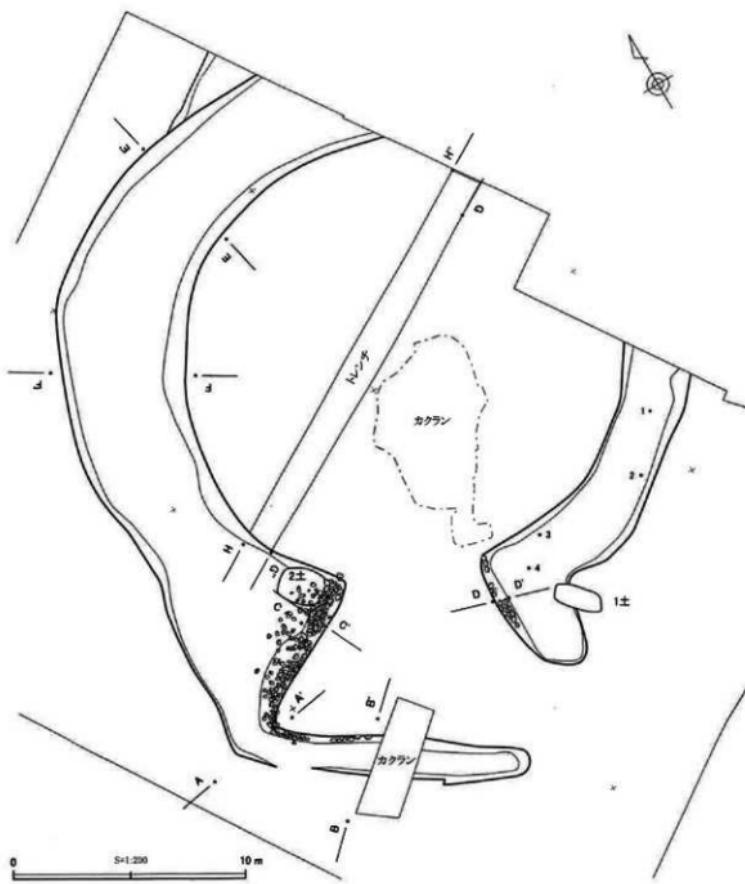
表1 山王若宮IV遺跡調査経過表

9/14	9/21	9/28	10/5	10/12	10/19	10/26	11/2	11/9
諸作業	■		★台風18号					
重機	■	表土掘削				埋戻・表土掘削	■	
1号墳			■	■	■		■	
2号墳						■		
包含層						■		





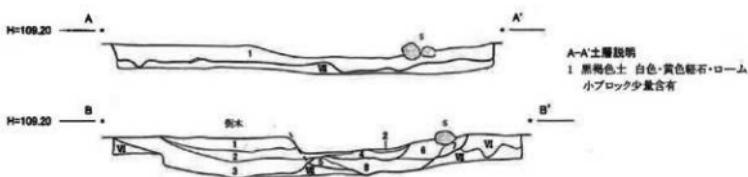
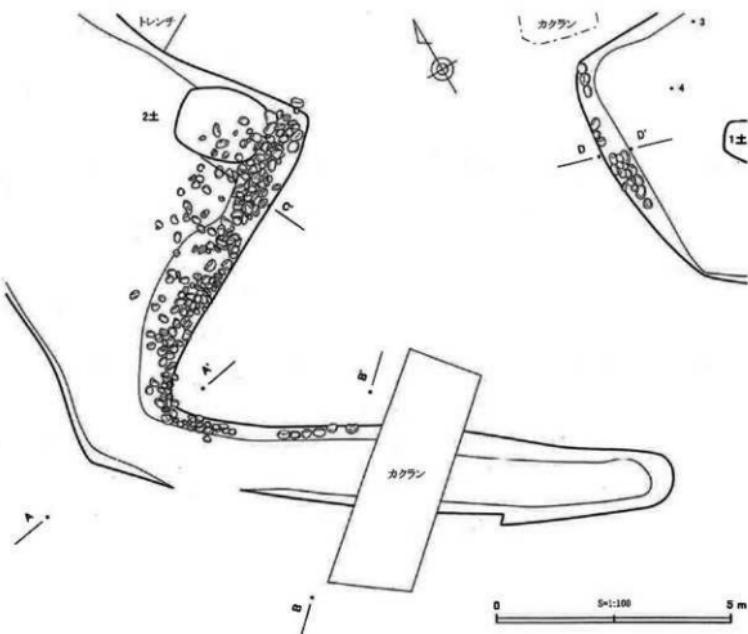




109.20 — E —

109.20 — F —

0 S=1:50 1 m



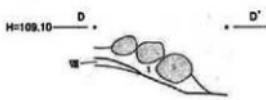
A-A' 土層説明
1 黒褐色土 白色・黄色軽石・ローム小ブロック少量化有

- B-B' 土層説明
1 黒褐色土 白色軽石少量化有
2 黄褐色土 ローム小ブロック・ローム粒主体
3 黑褐色土 白色・黄色軽石少量化、ローム小ブロック極少量化有
4 品褐色土 白色・黄色軽石少量化有

- 5 品褐色土 白色軽石少量化有
6 黄褐色土 白色軽石少量化、ローム小ブロック極少量化有
7 黑褐色土 白色軽石や多く含有
8 黑褐色土 白色・黄色軽石少量化、ローム小ブロックやや多く含有
※ 1~4層は狐糞木の搅拌土。

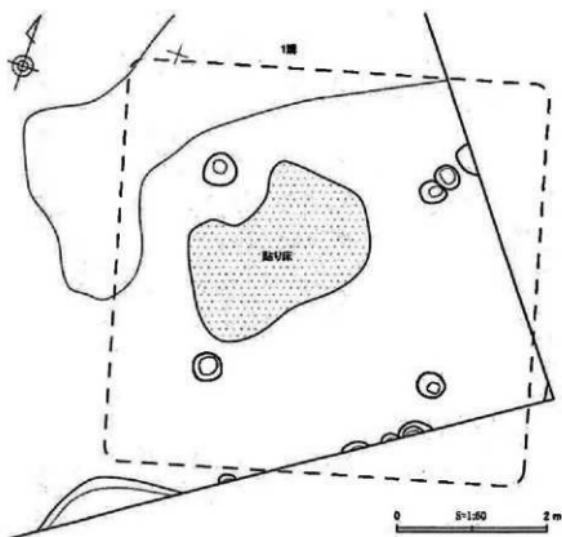
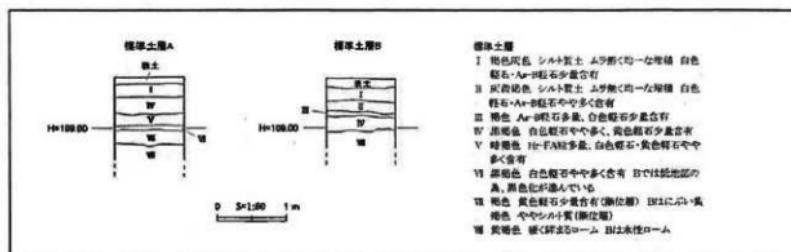


C-C' 土層説明
1 黒褐色土 粘性あり 白色軽石少量化有



D-D' 土層説明
1 黒褐色土 白色・黄色軽石少量化有

0 5:1:50 1 m



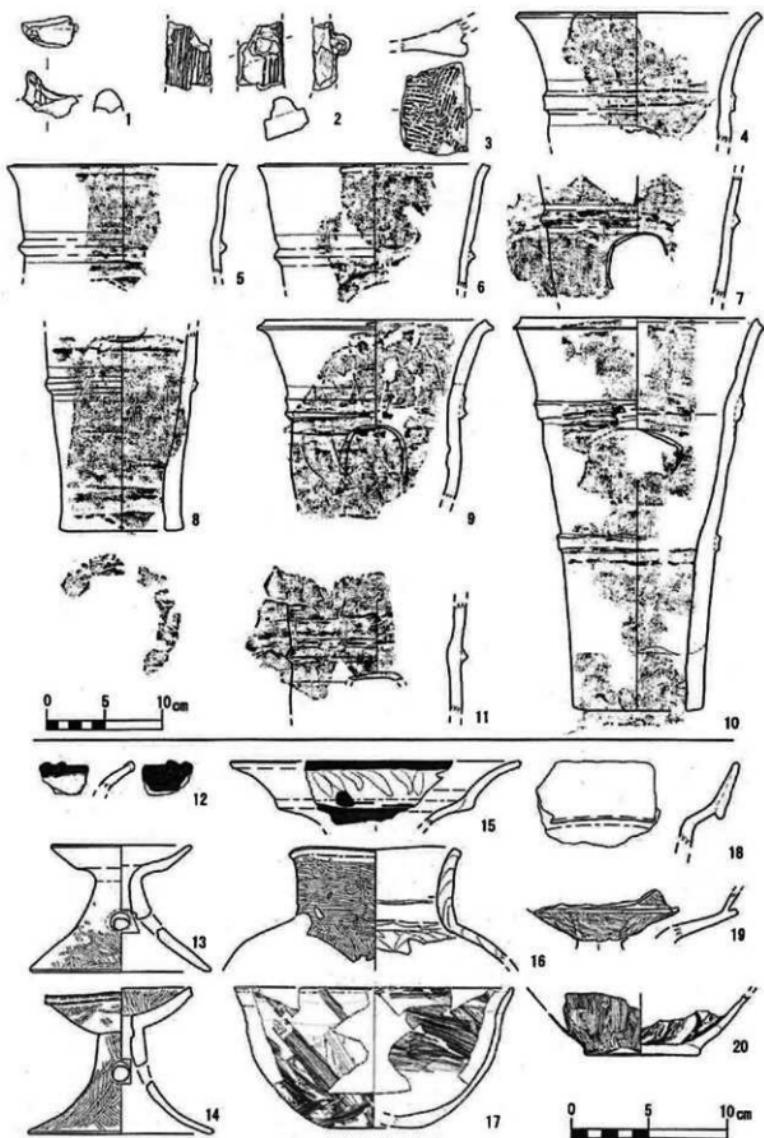


Fig. 遺物実測図(1)

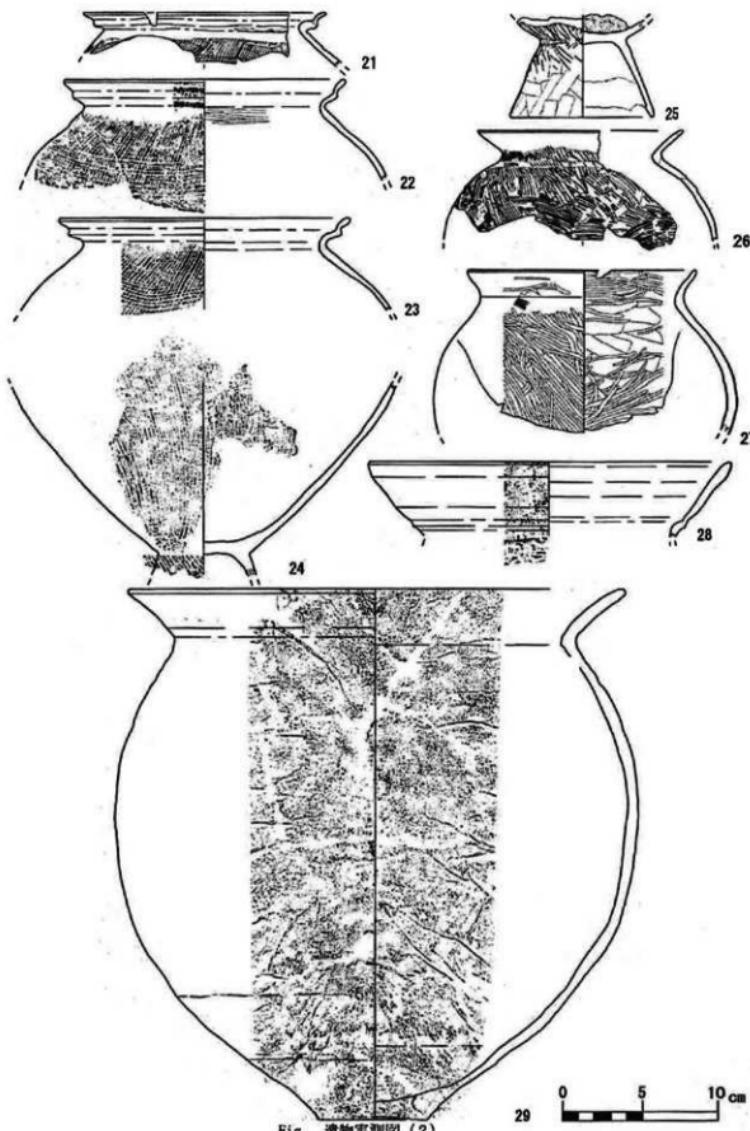


Fig. 遺物実測図 (2)

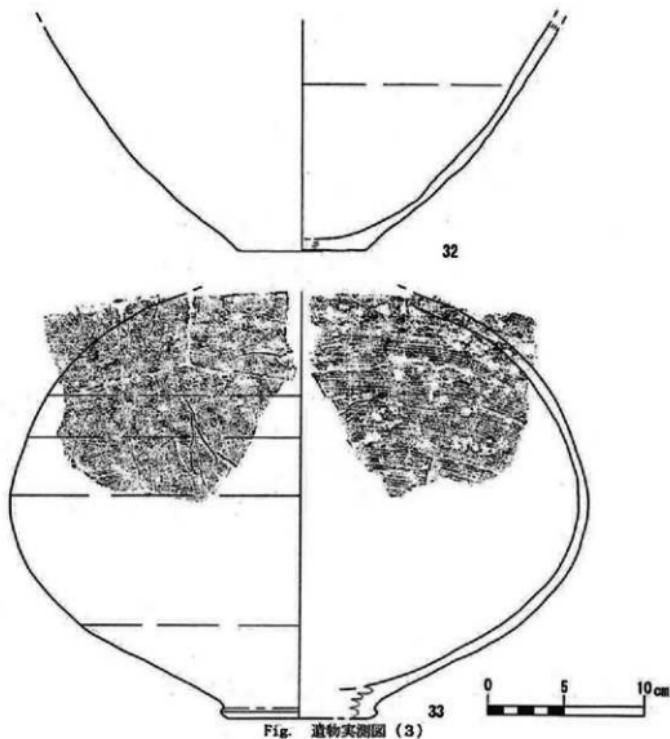
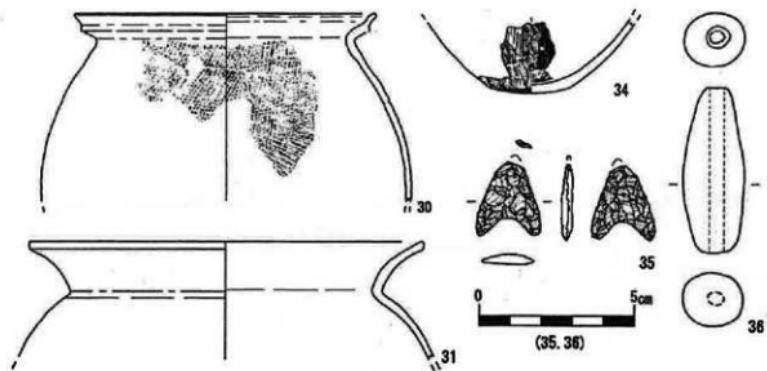
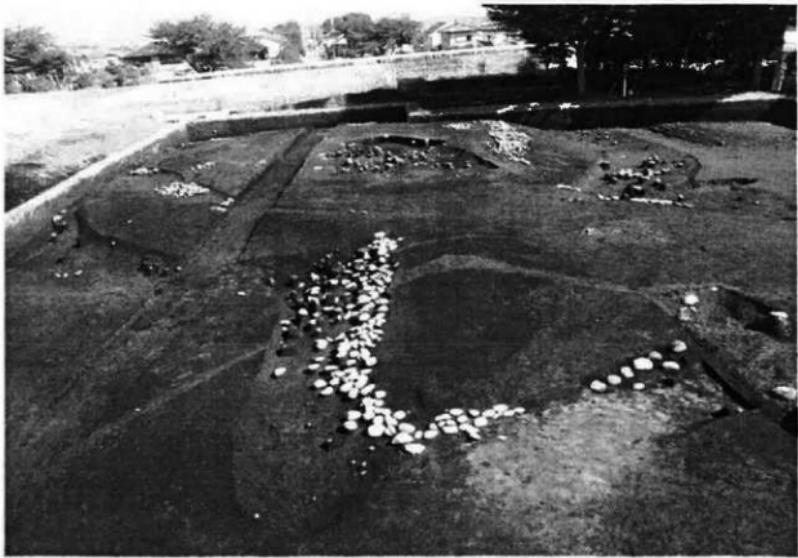


Fig. 遺物実測図 (3)

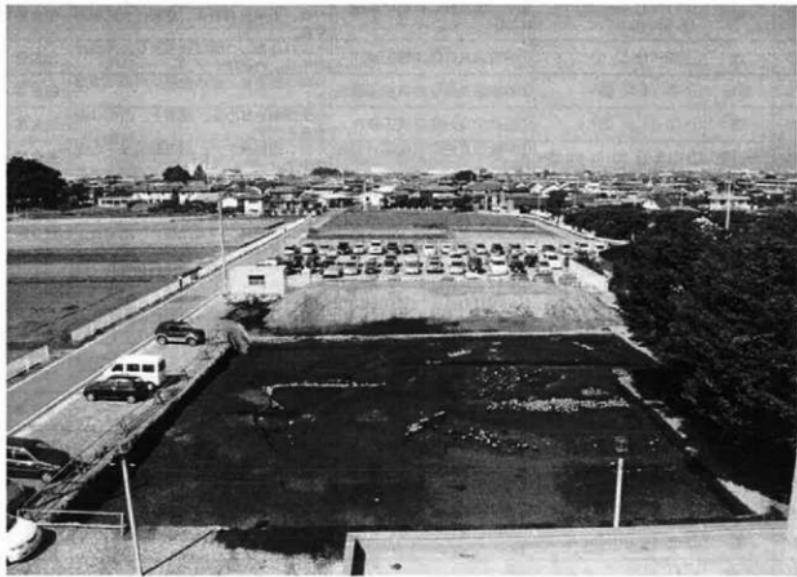
出土遺物観察表

番号	器種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④直存値	各種の特徴・形態・調査技術	備考
1	形象埴輪	①(5.0) ②-(3.0)	①中粒②良好③赤褐色④破片	麻持ち人形埴輪の頭部の一部と推定される。ナデによる仕上げ。	M-1
2	形象埴輪	①-②(5.9) ③-	①中粒②良好③赤褐色④破片	大刀形埴輪の把手部分。五穀大刀。外面はナデ。内面は刷毛目。	M-1
3	形象埴輪	①-②(5.0) ③-	①中粒②良好③黄褐色④破片	盾の破片と思われる。外面は刷毛目。内面はナデ。	M-1
4	円筒埴輪	①[20.9] ②(11.7) ③-	①中粒②良好③赤褐色④破片	外外面ともナデ。	M-1
5	円筒埴輪	①[20.1] ②(9.0) ③-	①中粒②良好③赤褐色④破片	外面は縱方向の刷毛目。内面はナデ。	M-1
6	円筒埴輪	①[19.8] ②(10.6) ③-	①中粒②良好③赤褐色④破片	外外面ともナデ。還元焼成気味。	M-1
7	円筒埴輪	①-②(10.5) ③-	①中粒②良好③赤褐色④破片	外外面とも縱方向の刷毛目。透かし孔は円形。	M-1
8	円筒埴輪	①-②(17.2) ③-	①中粒②良好③赤褐色④1/2	外外面とも縱方向の刷毛目。	M-1
9	円筒埴輪	①[20.5] ②(15.6) ③-	①中粒②良好③赤褐色④1/4	外外面ともナデ。透かし孔は円形。	M-1
10	円筒埴輪	①[2.3] ②[33.7] ③[10.9]	①中粒②良好③暗赤褐色④1/3	外外面ともナデ。還元焼成気味。	M-1
11	円筒埴輪	①-②(9.7) ③-	①中粒②良好③赤褐色④破片	外外面とも指ナデ。	M-1
12	壺	①-②(2.1) ③-	①細粒②良好③黄褐色④破片	外外面口縁部、内面全体に赤色塗彩。外面はナデ。内面は刷毛目。口唇部に浮文貼付2ヶ。口唇部と内面に赤色塗彩。	包含層
13	器台	①(8.2) ②8.6 ③-	①中粒②良好③橙④ほぼ完形	器受部は外外面とも鏡磨き。台部外縁は鏡磨き。内面は横ナデ。透かし孔は3単位。	包含層
14	器台	①9.2 ②9.5 ③-	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	器台部は外外面ともに鏡磨き。台部外縁は鏡磨き方向の鏡磨き。内面はナデ。透かし孔は単位。	包含層
15	壺	①[19.1] ②-③-	①細粒②良好③にぶい黄褐色④破片	二段口縁。口縁の段部及び口唇端部に明瞭な棱を持つ。外面の口唇部と2段目に赤色塗彩。外面上段は横ナデ。指おさえ。下段はナデ。鏡磨き。内面は刷毛目。	包含層
16	壺	①11.2 ②(7.6) ③-	①中粒②良好③橙④口辺部	外面口辺部は横ナデで。一部鏡磨き。外表面脚部は鏡磨き。内面口辺部は横ナデ。内面脚部はナデ。	包含層
17	鉢	①[17.9] ②9.0 ③[5.6]	①中粒②良好③にぶい黄褐色④1/5	外面はナデの後、刷毛目。内面はナデの後、上半部刷毛目。底部は丸底風の平底。	包含層
18	壺	①-②-(4.8) ③-	①中粒②良好③赤褐色④破片	有段口縁壺。口縁は折り返し。外面は刷毛目。内面はナデ。	包含層
19	器台	①-②(3.3) ③-	①細粒②良好③浅黃褐色④破片	外面は鏡磨き。赤色塗彩。内面は鏡磨き。	包含層
20	壺	①-②(3.9) ③7.0	①粗粒②良好③赤褐色④破片	外面は刷毛目の後、鏡磨き。内面は刷毛目とナデ。	包含層
21	台付壺	①[15.9] ②(3.5) ③-1/2	①中粒②良好③黄褐色④口辺部	外面口辺部横ナデ。脚部刷毛目。内面はナデ。	包含層
22	台付壺	①-②(18.1) ③-	①中粒②良好③灰褐色④破片	外面は刷毛目。内面はナデ。内面頸部に刷毛目。	包含層
23	台付壺	①[18.9] ②(6.0) ③-	①中粒②良好③黄褐色④破片	外面は横ナデ。刷毛目。内面はナデ。	包含層
24	台付壺	①-②(12.5) ③-	①中粒②良好③褐色④脚部下部	外面は刷毛目。内面は横ナデ。刷毛目。内面脚部は刷毛目。台座はナデの後、一部刷毛目。	包含層
25	台付壺	①-②(6.9) ③9.4	①粗粒②良好③灰褐色④台部のみ	外面は刷毛目。台部内面は折り返し。ナデ。	包含層
26	壺	①[13.3] ②(7.8) ③-	①中粒②良好③にぶい黄褐色④口辺部1/2	口縁部は横ナデ。脚部は刷毛目。内面はナデ。	包含層
27	壺	①(14.6) ②-③-	①中粒②良好③にぶい褐色④破片	口縁部は横ナデ。外面脚部は刷毛目の後、鏡磨きの鏡磨き。内面はナデの後、鏡磨き。	包含層
28	壺	①-②(4.2) ③-	①中粒②良好③にぶい黄褐色④破片	有段口縁。受け口状となる。外外面ともナデ。	包含層
29	壺	①(31.9) ②-③-	①粗粒②良好③黄褐色④2/3	外面口辺部横ナデ。脚部はナデの後、刷毛目。内面はナデ。	包含層
30	台付壺	①[9.5] ②(11.9) ③-	①中粒②良好③暗赤褐色④破片	S字状口縁を呈する。外面脚部は刷毛目。内面はナデ。	包含層
31	壺	①[25.0] ②(6.2) ③-	①中粒②良好③黄褐色④破片	外外面ともナデ。	包含層
32	壺	①-②(17.2) ③[9.0]	①粗粒②良好③黄褐色④底部	外面は刷毛目、ナデ。内面はナデ。	包含層
33	壺	①-②(27.9) ③[9.2]	①細粒②良好③黄褐色④1/6	外面はナデの後、刷毛目。内面は横方向の刷毛目。	包含層
34	壺	①-②[4.45] ③4.8	①中粒②良好③にぶい褐色④破片	底部は丸底。外面は刷毛目。内面はナデ。	包含層
35	石塚	長さ(2.6) 幅2.0	頁岩	凹基無基式。表裏面とも押圧剥離によって仕上げられる。	包含層
36	土鍬	長さ5.3 幅1.8	①細粒②良好③赤褐色④完形	ナデによる仕上げ。円孔は4mm。	包含層

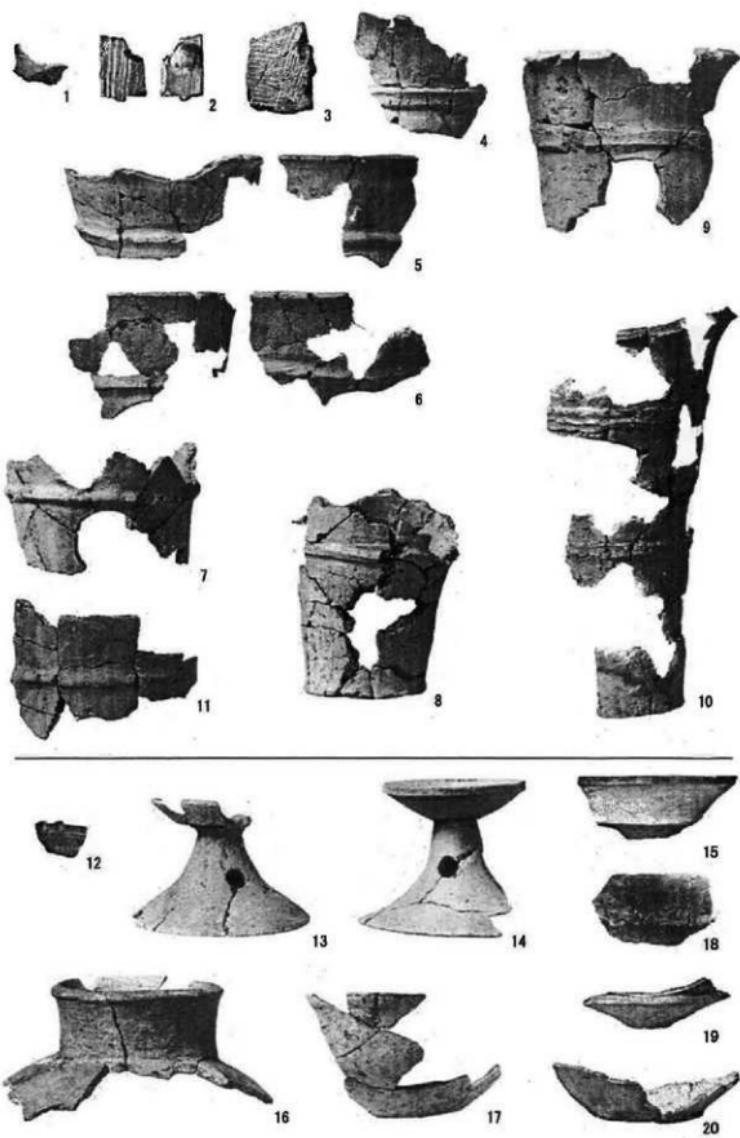
注) 計測値の〔 〕は復元値、() は現存量を表す。

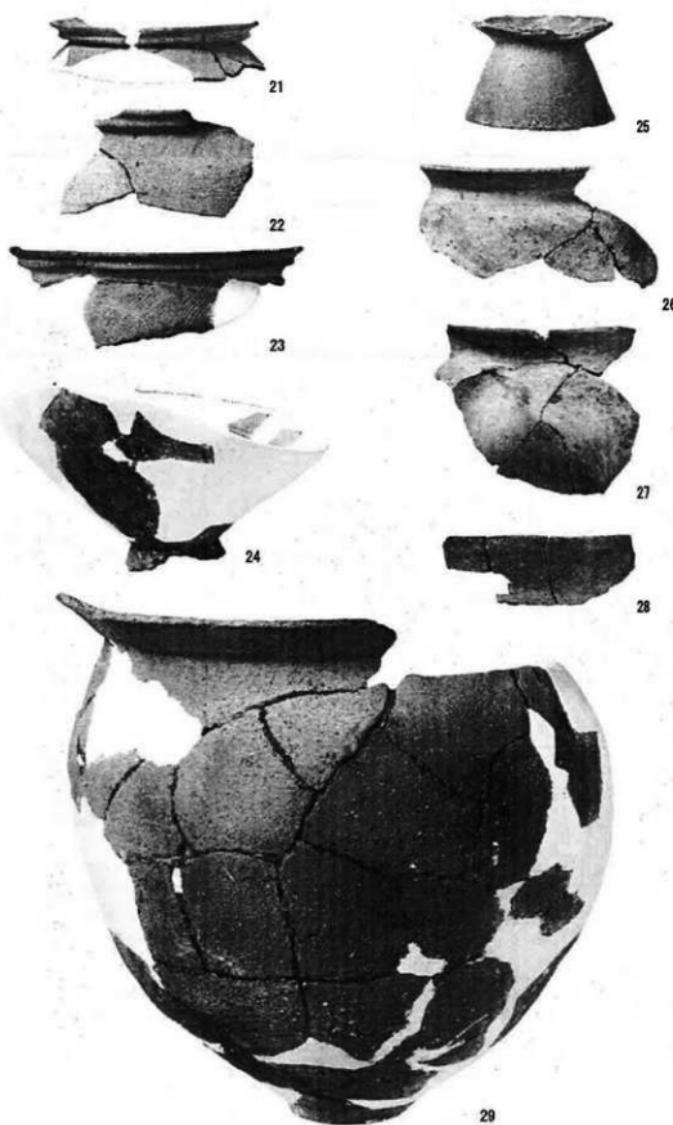


1 山王若宮IV遺跡1号墳全景（西から）



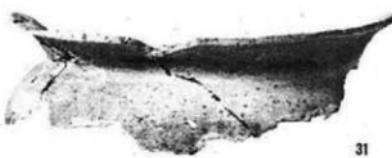
2 山王若宮IV遺跡1号墳全景（南から）







30



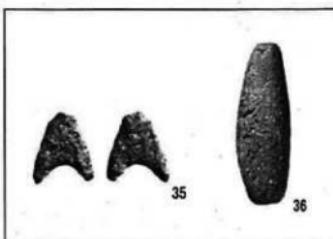
31



34

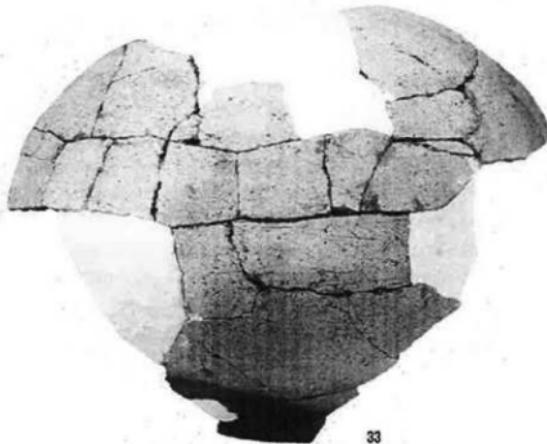


32



35

36



33

山王若宮IV遺跡の火山灰同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

群馬県前橋市に所在する山王若宮IV遺跡は、前橋市街地から南東へ流下する小河川である蘿川の右岸に位置する。群馬県史編纂委員会編(1990)による地形分類図では、蘿川は前橋台地下の広瀬川低地帯南西縁を流れおり、山王若宮IV遺跡は前橋台地の北東縁上に位置している。

本報告では、発掘調査により検出された古墳墳丘下の堆積層において確認された火山灰とみられる碎屑物の性状を明らかとし、火山灰の起源、降灰年代等を推定する。

1.試料

試料は、2号墳東西方向セクションの土層断面の3層より採取された火山灰とみられる堆積物である。当堆積物は、にぶい黄褐色を呈する砂質シルトである。

2.分析方法

適量を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

3.結果

にぶい黄褐色を呈する砂質シルト(3層)より処理後に得られた砂分中には、中量の軽石と極めて微量の火山ガラスが認められた。軽石は、最大径約5mm、灰白～白色を呈し、発泡は不良、角閃石の斑晶を包有する。火山ガラスは、径0.5mm以下であり、白色を呈し、スポンジ状に発泡したいわゆる軽石型を呈する。この他に砂分を構成する碎屑物の主なものとしては、火山灰の遊離結晶と考えられる比較的新鮮な斜長石および角閃石の鉱物片や、暗灰～灰～灰紫色を呈する火山岩片などが認められた。

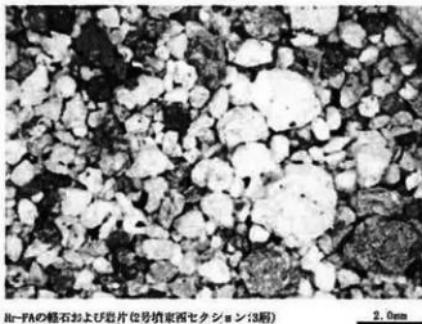
上述した碎屑物は、特に軽石の特徴から、古墳時代に様名火山から噴出したテフラである様名ニツ岳渋川テフラ(Hr-FA)または様名ニツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)(いずれも新井,1979;早田,1989)に由来すると考えられる。早田(1989)による両テフラの記載に従えば、Hr-FAは火碎流噴火を主体とするテフラであり、Hr-FPは大量の軽石を噴出したテフラである。3層の外観的特徴などを考慮すると、Hr-FAの降下堆積物である可能性が高い。今回の試料の砂分の状況は、遠隔地で発見されるHr-FAには比較的粗粒の軽石やスポンジ状の軽石型火山ガラスが多く含まれているという早田(1989)の記載とも整合する。

また、Hr-FAとHr-FPの噴出年代については、それぞれ6世紀初頭と6世紀中葉とされている(町田・新井,2003)。これについて、坂口(1993)は、群馬県内で確認された両テフラと関連する遺構とそれに供伴する土器の土器編年から、Hr-FAの噴出年代を西暦500年から525年までの間、Hr-FPのそれを西暦525年から550年までの間という显示をしている。今回の試料(3層)は、墳丘下の堆積層に確認されていることから、2号墳は少なくとも6世紀初頭以降に築造された古墳と推定される。

引用文献

新井房夫,1979.関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層.考古学ジャーナル,157,41-52.

- 群馬県史編纂委員会,1990,群馬県内主要地域の地形分類図(付図2).群馬県史通史編1 原始古代1.群 馬県.
町田 洋・新井房夫,2003,新編 火山灰アトラス.東京大学出版会,336p.
坂口 一,1993,火山噴火の年代と季節の推定法.新井房夫編 火山灰考古学.古今書院,151-172.
早田 勉,1989,六世紀における榛名火山の二回の噴火とその災害.第四紀研究,27,297-312.



Hr-PAの軽石および岩片(2号積東西セクション:3層)

2.0mm

5 市内遺跡発掘調査事業

(1) 事業の目的

周知の埋蔵文化財包蔵地及び包蔵外の規模の比較的大きい開発行為に対し、開発者と協議、調査を実施した。遺構や遺物等を確認した場合、県の指導要綱を基本に、開発者と埋蔵文化財の保存協議を行った。

(2) 事業の内容

① 調査方法

開発地内に調査トレンチを設定、重機による表土掘削後、人力による精査をして、遺跡の有無、遺跡の範囲確認を行った。調査面積は、開発面積の1割程度を基本に調査をした。

② 記録作成

区域内の全体図作成、トレンチ内の遺構分布図、土層図を作成した。縮尺は開発区域の大きさにより、随時調整した。また写真撮影を行い記録資料とした。

(3) 調査結果

試掘調査は、54件実施した。このうち、20件で埋蔵文化財が確認できた。

① 確認できた遺跡の時代

縄文時代～近世にかけての遺構を確認する。

② 調査した遺構

住居跡、古墳、水田跡等。

③ 試掘調査から発掘調査をした主な遺跡

ア 六供遺跡群No.6

古墳時代の集落跡、溝跡

イ 朝倉伊勢西遺跡

奈良・平安時代の集落跡、溝跡

ウ 元総社早道遺跡

平安時代の集落跡

6 遺跡台帳整備事業

(1) 前橋市遺跡分布地図作成事業

平成15年度より開始した詳細遺跡分布調査の8年目にあたり、昨年度までの踏査及び料整理の結果を踏まえて、富士見地区を含む市域全体の遺跡地図を作成した。

① 資料整理

ア 過去の発掘調査などから遺跡地図を作成。

イ 踏査記録から、一年ごとの遺物採取地図を作成。

ウ 上記2地図及び平成19年度作成の地形図から包蔵地の線引きを行った。

(2) 遺跡地図の市情報システム GISへの移行 市の統合型GISへ、遺跡地図搭載実施し、

富士見地区を含む市域を対象として821遺跡を搭載した。

(3) 上野国府域調査遺跡集成図と普及パンフレット

国府の中心施設である国府の場所についてには、元総社町地内の上野国總社神社一帯に存在することが想定されてきた。近年の調査で、總社神社の東側を流れる牛池川から人形や「國厨」や「曹司」などと書かれた墨書き器が確認されている。また、元総社蒼海土地区画整理事業による発掘調査からも国府に関連する大溝や3間×5間の大型掘立柱建物跡などが検出されるなど、国府に関連する大きな手掛かりを得ている。さらに、今後の調査と上野国府域解明の一助となるよう、土地区画整理事業で発掘調査された遺跡を集成している。具体的な作業は以下のとおりである。

① 調査報告書に掲載されている全体図(遺構配置図)を1/500に縮小コピーする。コピーする際はマイラーを使用する。

② 上野国府域遺跡集成図内のグリッド表示に合わせて、コピー図を貼り付ける。

③ 報告書の抄録とコピーに通し番号を付ける。

また、これまでの発掘調査の成果と今後の展望を踏まえたA3両面印刷(表裏カラー)の「解明!古代群馬の中心 上野国府跡」と題した普及パンフレットを作成した。国府の推定範囲や国府の推定箇所などを掲載するほか、イラストや奈良時代の役人が使用した文房具などの写真を使用するなど、ビジュアル面にも配慮した普及パンフレットに仕上がっている。

パンフレットは5000部作成し、元総社蒼海土地区画整理事業に関係する世帯に配布した。今後発掘調査が及ぶ上野国府跡について理解を深めるとともに、埋蔵文化財に対する啓発を進めることができた。



裏表紙

表紙



上野国府解説文

7 埋蔵文化財資料整備事業

(1) 普及パンフレットの作成

平成22年度に前橋市内で実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を広めるため、A3版の両面印刷（表面カラー）の「い・せ・きワールド in 前橋 2011 平成22年度前橋市埋蔵文化財発掘調査のまとめ」というパンフレットを作成した。



表



裏

表紙はカラーということで写真を多く取り入れ、裏面には前橋市のどの場所で調査が行われたか地図を配置し、調査内容をわかりやすくまとめた。

7000部作成し、平成23年度初めに市内小・中校ならびに市立図書館、教育関係機関等に配布し、文化財に対する啓発を進めた。

(2) 出土遺物の活用

平成22年度の埋蔵文化財関係の出土遺物の貸出は15件であった。主な貸出資料・貸出先は以下のとおりである。

貸出資料	貸出先	目的
山王廃寺出土資料	埼玉県立歴史と民俗の博物館	企画展
鳥取福蔵寺II遺跡・内堀遺跡・堀越甲真木B地点遺跡出土旧石器遺物	岩宿博物館	企画展
向吹張遺跡出土遺物	松戸市立博物館	企画展
内堀遺跡・山王廃寺出土遺物	中野私立博物館	企画展

また、昨年に引き続き、市内の小学校（天川小・荒子小・二之宮小）、中学校（南橋中・第二中）岩宿博物館、前橋プラザ元気21内文化財展示コーナー、けやきウォーク、サンデンフォレスト、元総社公民館、大室公園管理事務所ホールに出土遺物の貸出を行った。

(3) 宮城・柏川・富士見地区の要覧作成

本年度は昨年度までに実施した旧大胡町・旧宮城村・旧柏川村の資料整理を踏まえて「遺跡要覧・大胡城跡編」、「遺跡要覧・宮城村」・「遺跡要覧・柏川村編」を作成した。

8 山王廃寺等保存整備事業

(1) 山王廃寺等調査委員会の実施概要

山王廃寺等保存整備事業の推進にあたり、学識経験者及び行政関係者で組織された山王廃寺等調査委員会（平成12年度に発足）において、山王廃寺とそれに密接な関係をもつ周辺遺跡の調査計画と整備内容の検討を十分に行いながら事業を実施した。

本年度は、「山王廃寺範囲確認調査計画の第5年度」に伴い、現地視察を中心とした委員会

1回と通常の定例会1回の計2回を開催した。第15回目になる委員会は、平成22年11月30日に「山王庵寺範囲確認調査」発掘調査地視察を併せて総社町山王公民館で、また第16回になる定例の委員会は平成23年2月25日に市庁舎3階31会議室でそれぞれ開催した。議題となつた報告及び協議は以下のとおりである。なお、併せて平成22年11月26日に現地において調査部会を開催し指導を仰いだ。

(2) 第15回山王庵寺等調査委員会

開催日 平成22年11月30日

現地視察

発掘調査地トレンチ各所

《協議》 山王庵寺範囲確認調査中間報告

① 寺城南東部の範囲確認について

② 基礎状施設について

③ 寺城北東部掘立柱建物跡について

協議後に提案された意見

① 寺域については当初想定した方2町(218m)にこだわらない方がよい。

② 同じ傾斜角度(北に30度)を持つ基壇状施設、北東部掘立柱建物群、回廊内建物跡の分布や変遷の整理

(3) 第16回山王庵寺等調査委員会

開催日 平成23年2月25日

関連する埋蔵文化財の発掘調査報告

① 元總社着海遺跡群発掘調査について

② 山王庵寺出土瓦について

《協議》 山王庵寺範囲確認調査計画(案)について

① 全体計画について

② 平成22年度事業報告について

ア 回廊の確認 過去の調査により東西回廊の規模は79.7m、南北回廊の規模は81.0mであることが判明している。22年度は推定される回廊南面隅を検出し、精度を高め

る目的でトレンチを設定し調査を行ったが、回廊に伴う版築等は検出されなかった。イ 寺域の確認 寺域の北東からは21年度調査で検出された布堀り工法の掘立柱建物跡の南北柱列に一致する掘立柱建物跡が検出され、寺域の北方から北東方向に広がる建物群の一部であることが判明した。また、塑像出土土坑の広がりを追及するための調査では、設定トレンチからは塑像は出土しなかった。これにより塑像出土土坑の概ねの範囲が判明した。

これまでの調査からは寺域に直接関係する遺構は検出されていないので、寺域については当初想定していた方2町には存在しないと考えられる。

ウ 基壇建物 回廊西側で北方建物群と同じ傾斜角度を持つ基壇建物が検出された。版築はローム様土に拳大の川原石を混ぜて搾き固めた基壇で、山王庵寺では初見である。また、基壇の位置関係から西回廊と重複する可能性がある。今後は、検出された基壇建物の時期・規模・施設の性格の究明、西回廊との新旧関係、寺域北東部の掘立柱建物群との関連、版築下で検出された瓦、石列などの究明が課題となった。



現場視察

① 平成23年度事業計画について

今までの発掘調査の成果及び課題について委員会の指導を受けながら分析、検討を行い、平成22年度調査の成果及び本事業全体の総括をまとめた報告書を作成する。

④ 上野国府範囲内容確認調査事業について

現在施行されている元總社着海土地区画整理事業の進捗に伴い、上野国府の中心施設である国府の解明が急務になっている。諸國の国府については国史跡になっており、本国府でも同様な扱いになると考えられることから、一刻も早い国府の解明が待たれています。



発掘調査報告

そこで、平成 23 年度から 5か年計画で位置・規模等が解明されていない上野国庁の調査を重点的に行っていく。なお、本委員会をそのまま継続し、国府についての解明、保存・活用について引き続き指導をいただく。

9 埋蔵文化財発掘調査団の解散について

前橋市埋蔵文化財発掘調査団は、前橋工業団地造成組合が施行する芳賀団地造成に先立ち埋蔵文化財発掘調査を実施するため昭和 48 年度に当時の社会教育課内の任意団体として組織された。その後、団地造成終了を受け昭和 55 年度に解散し、昭和 56 年度に再発足している。

調査団の設立目的は、前橋市内における各種開発工事によって消滅する遺跡の全容を明らかにするとともに発掘調査によって現状保存または記録保存し、文化財保護に資するためである。遺跡の発掘調査は、内容や規模が事前に予測できないことから予算化が困難であったこと、地方公共団体の予算が議会の難決を要したり、開発者、施主の要望に応えられずに工事予定を遅延させて損害を与えることが危惧されたことから、迅速かつ機動的に対応するために開発者との契約によって独自会計で運営してきた。これまでに、上増田工業団地、五代南部工業団地、城南住宅団地、ローズタウン住宅団地などの大規模開発や、元総社蓄海土地区画整理事業などの公共事業や民間開発の施工に先立ち、数多くの発掘調査を実施してきた。

しかし、文化財保護課内の任意団体が高額な公金を取り扱うことや兼務職員の身分や服務について明確ではない点が多く、透明性において問題があった。

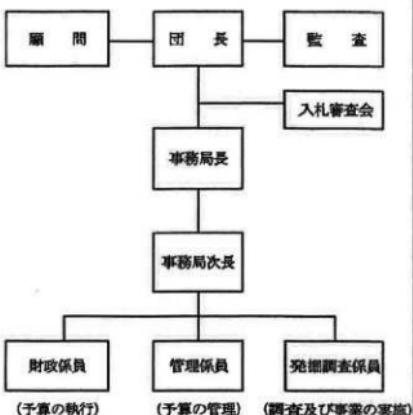
そこで、独自会計を一般会計で予算執行し、兼務職員の身分や服務の問題を解決し、透明化するため、調査団の解散を決定し、税務署、労働基準監督署、群馬銀行等関係機関への諸手続きを行い、平成 22 年 7 月 29 日に解散総会を開催し、調査団の解散を行った。

現在では、元総社蓄海土地区画整理事業など公共事業に絡む国史跡に準ずる重要遺跡の調査は、文化財保護課直営で行い、区画整理第二課等事業課で予算計上し、事業課から文化財保護課が予算を執行委任で受け、執行している。

直営以外の調査については、事業課が予算計上し、直接民間調査会と業務委託契約を締結し、予算執行を行っている。なお、文化財保護課は、調査費用の見積り、入札に先立つ指名業者の選定、発掘調査の監理、検査を行い、事業の進捗に支障

がないように事業課をサポートしている。

前橋市埋蔵文化財発掘調査団組織図



団長	管理部長
事務局長	文化財保護課長
事務局次長	文化財保護課長補佐兼文化財保護係長 文化財保護課長補佐兼埋蔵文化財係長
管理係員	文化財保護課 埋蔵文化財係員
財政係員	文化財保護課 埋蔵文化財係員
発掘調査係員	文化財保護課 埋蔵文化財係員
監査委員	総務課長・経務係長
入札審査会委員	文化財保護課長・経務課総務係長 文化財保護課長補佐兼埋蔵文化財係長
顧問	副市長・教育長・経務部長・政策部長・財務部長 商工部長・農政部長・都市計画部長・建設部長



発掘された大型の掘立柱建物跡
(元総社蓄海遺跡群 9・10)

あとがき

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、岩手県、宮城県、福島県をはじめとする東北地方を中心に地震や津波による甚大な被害を広い範囲に与え、文化財にも大きな傷跡を残しました。前橋市内でも石造物を中心に文化財が倒壊等の被害を受けましたが、幸い多くの文化財は大事には至りませんでした。

年度末にこうした出来事があったなかではあります、年間を通して多くの事業や催事を行いました。

普及事業として 4 年目を迎えた高崎市との連携文化財展では最近の発掘調査の成果をテーマに開催しました。また、大室古墳群の利活用を図るための市民参加型プロジェクトでは須恵器筒形器台等を作成しました。

埋蔵文化財の発掘調査では、前年度に引き続き元総社舊海区画整理区域内にあると推定される上野国府跡の解明を進めるとともに、平成 18 年度から実施してまいりました山王庵寺跡周辺内容確認調査が最終年度を迎え、23 年度にはこれまでの成果を総括した報告書を作成する予定です。

本書が多くの皆様に活用され、文化財保護行政をご理解いただく一助となることを願ってやみません。

平成 23 年 10 月 13 日

文化財保護課長 松村 親樹

平成 22 年度

平成 22 年度

前橋市文化財調査委員

阿久津 宗二
井上 唯雄
梅澤 寛昭
片山 淳秋
松島 栄治
村田 敬一

文化財保護課職員

文化財保護課長	松村 親樹
文化財保護係	
課長補佐兼文化財保護係長	小島 純一
副主幹	堤 敏範
"	岩瀬 孝弘
主査	小田 哲生
主任	小田 浩和
"	伊與久伸子
"	宮沢 龍一
"	下田 大介
文化財整備指導員	能登 健

埋蔵文化財係

課長補佐兼埋蔵文化財係長	前原 登
副主幹	山下 茂信
主査	岩丸 展久
主任	藤坂 和延
"	真下 見
"	酒澤 重雄
"	神宮 啓
"	坂本 高広
"	並木 勝洋
"	福田 貞之
"	阿久澤智和

年報 第 41 集 平成 22 年度文化財調査報告書

平成 23 年 12 月発行

発行 前橋市教育委員会 管理部 文化財保護課

前橋市三保町二丁目 10 番地 2



前橋市三橋町二丁目10-3

前橋市教育委員会文化財保護課

表紙　國江閣「ひな人形展示」